

ISSN 0385-0293

# 沖縄県立博物館年報

No. 39



2006

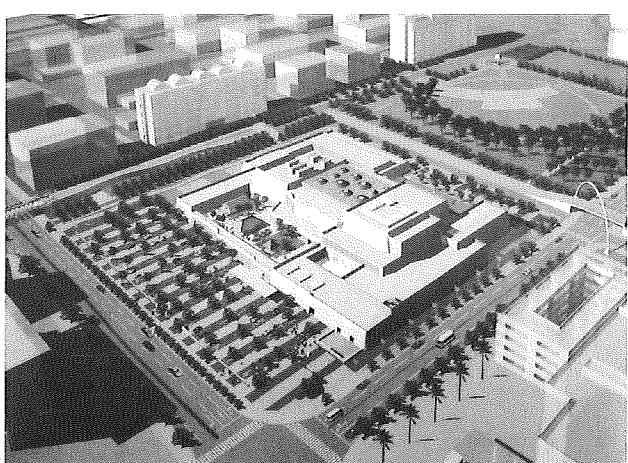
沖縄県立博物館

表紙：沖縄県立博物館正面  
(平成18年3月31日撮影)



裏表紙：沖縄県立博物館新館  
外観イメージパース

平成19年（2007）秋に、那  
覇市おもろまちにて開館予定



## 序

沖縄県立博物館は、総合博物館として広い分野にわたる資料の収集や保管、展示活動等を行い、教育普及活動や展示会をとおして様々な情報を発信し、さらに県民のみなさまに親しんでいただけるような博物館づくりに努めて参りました。

当館は、幾多の変遷をへて、昭和41年に現在地で開館し、今年で40年という節目を迎えました。これまで県内外の多くの皆様が御利用下さり、また、資料の寄贈をはじめ多大な御協力を賜りまして、心から厚くお礼を申し上げます。

県立博物館は、先人から受け継いできた沖縄の素晴らしい文化と豊かな心、世界に誇れる沖縄の多様な自然、環境保護の大切さ等を学ぶための大きな教室であります。今、生涯学習時代に対応した博物館活動の一層の充実が求められており、このために老朽化・狭隘化した現博物館を移転新築することになりました。この新館建設は、復帰30周年事業として位置づけられ、感性ひいては個性を育む美術館との複合施設として、那覇市おもろまちに平成19年11月に開館する予定であります。

現博物館は、去る4月から新館移転準備のため休館中であり、昨年度は、現在地で展示会等を行う最後の年度になりました。そのため閉館特別記念展として、民藝運動の原動力となった柳宗悦を紹介する「柳宗悦の心と眼 柳宗悦の民藝と巨匠たち展」を開催いたしました。柳宗悦の行った仕事や民藝運動に賛同した作家たちの作品とともに、日本民藝協会によって撮影された戦前の沖縄の映像もロビーで放映し好評を博しました。また、年度末の10日間は、これまでの感謝を込め、入館料無料などを実施した閉館催事を行いました。その際には、設立25周年を迎えた博物館友の会と共に、友の会会員が所蔵する資料を一堂に集めた「わたしの宝もの展」も開催いたしました。併せて、新収蔵品展や昨年の渡嘉敷村開催で第30回という節目を迎えた移動博物館、博物館の活動を広報するパネル展等も実施いたしました。

また、博物館の活動を支える大きな柱として教育普及活動があり、沖縄の自然・歴史・文化を広く紹介する文化講座や、「総合的な学習の時間」の導入にともなう教育現場や児童生徒への支援、体験学習や博物館の講堂を利用した博物館シアターにおいても県民の皆さんとじかにふれあう多くの機会を持つことができました。

現在、新館の外観もほぼ整い、今年度には建物が完成する予定です。昨年度で現在地の博物館活動は休止いたしましたが、新館でも博物館活動や施設等のさらなる充実を図り、皆さまへより開かれ親しみを持っていただけるような博物館にしていきたいと存じます。

今後ともより一層の御指導、御協力をよろしくお願い申し上げます。

平成18年9月

沖縄県立博物館

館長 宮城清志

# 目 次

序	
I 概 要	
1 沿革	1
2 日誌(抄)	3
3 施設・設備	5
4 組織	7
5 沖縄県立博物館協議会	9
6 予算	10
II 入館者数	
1 入館者数	11
2 県内外児童生徒学生団体見学者	14
III 調査研究等の活動	
1 調査研究の概要	16
2 博物館総合調査	16
3 調査研究	17
4 講演等	18
5 著作論文等	19
6 職員研修	20
IV 展示活動	
1 展示活動の概要	21
2 常設展	21
3 特別展	23
4 企画展	28
5 移動博物館	38
V 教育普及活動	
1 教育普及活動の概要	43
2 博物館文化講座	44
3 衛星通信を利用したエル・ネット	47
4 博物館シアター	47
5 博物館体験学習教室	49
6 ボランティア活動	52
7 支援活動	53
VI 博物館学芸員実習	54
VII 資料の収集・保存管理	
1 収蔵資料現在高	56
2 平成17年度 新収蔵資料高	56
3 平成17年度 新収蔵資料目録	57
4 所蔵の指定文化財	59
5 博物館新館移転・資料整理事業	60
6 博物館展示資料整備事業	61
7 修理事業	61
8 化石資料受入事業	62
9 資料収集関係事業	63
10 資料貸出	65
11 燻蒸処理	67
VIII 新館展示調査等	68
IX 刊行物	71
X その他の活動	
1 沖縄県博物館協会	72
2 沖縄県立博物館友の会	73
XI 関係法規抄録	75

# I. 概 要

## 1. 沿 革

### [前 史]

昭和11年（1936）沖縄縣教育會附設として旧首里城北殿を利用して「郷土博物館」が創設されたが、沖縄戦により全焼した。終戦直後の昭和20年（1945）8月、米国海軍軍政府は石川市（現うるま市）東恩納の地に「沖縄陳列館」を設立した。また、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、昭和21年（1946）3月頃、首里の汀良に「首里市立郷土博物館」が設立された。

### [創 設]

昭和21年（1946）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、「東恩納博物館」と改称して、新発足した。これが当館の創立にあたる。

### [発 展]

昭和28年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同30年（1955）には「琉球政府立博物館」に改称した。また、同41年（1966）には現敷地に新館を建設して移転した。同47年（1972）の日本への復帰に伴い名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌48年（1973）、2階部を増築し展示スペースを拡充し、現在に至る。

### [あゆみ]

昭和21年（1946）	4月24日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。
昭和22年（1947）	12月、前年3月に首里汀良町に設立された首里市立郷土博物館も同民政府に移管し、「沖縄民政府立首里博物館」に改称される。
昭和28年（1953）	3月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併 5月、首里博物館は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館が完成した。 米国民政府により、ペルリ来琉百周年記念事業の一環として、ペルリ記念館も博物館に附設して落成、贈呈される。
昭和30年（1955）	9月、「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称
昭和40年（1965）	大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）を購入
昭和41年（1966）	10月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し、移転 11月に開館
昭和47年（1972）	2月、サントリー美術館との共催で、「50年前の沖縄」写真展を開催 5月、日本への復帰に伴い「沖縄県立博物館」に改称
昭和48年（1973）	2月、国庫補助により2階部を増築し、展示室を3室増設
昭和49年（1974）	1月、特別展「沖縄の石彫」開催
昭和51年（1976）	4月、創立30周年記念式典を行う。 12月、「博物館30年の歩み展」開催
昭和54年（1979）	6月、特別展「沖縄の洞穴と洞穴生物」開催
昭和55年（1980）	1月、特別展「日本の美-救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」開催 2月、「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後毎年離島市町村で実施 8月、特別展「琉球のシダ植物」開催
昭和56年（1981）	11月、特別展「失われた生物たち-大恐竜展」開催 3月30日付け、博物館法に基づき、沖縄県の「登録博物館」として登録される。
昭和57年（1982）	10月、特別展「沖縄の美-日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」開催 5月、新たに常設展として自然部門を設置 7月、企画展「沖縄の昆虫」開催
昭和58年（1983）	10月、特別展「熊本県・沖縄県交流展-熊本の歴史と文化」開催 5月、企画展「琉球の漆工芸」開催

- 11月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美-風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催
- 昭和59年（1984） 6月、企画展「玉城朝薰生誕三百年記念展-琉球芸能の世紀-」開催  
7月、企画展「沖縄のシダ・貝・昆虫標本展」開催  
10月、企画展「今帰仁グスク展」開催
- 昭和60年（1985） 2月、企画展「紅型衣装と型紙展」開催  
11月、特別展「グスク-グスクが語る古代琉球の歴史とロマン-」開催
- 昭和61年（1986） 2月、特別展「大嶺薰コレクション-美術工芸の美を求めて」開催
- 昭和62年（1987） 10月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画-物故作家」開催  
12月、企画展「田名家収蔵品展-ある首里士族の400年」開催  
12月、企画展「現代沖縄の陶芸-天野鉄夫コレクション」開催
- 昭和63年（1988） 8月、特別展「ヤンバルの自然」開催  
11月、特別展「三線名器100挺展」開催  
平成元年（1989） 11月、特別展「インドネシア更紗展」開催  
12月、企画展「真境名由康生誕100年記念「芸能資料展」開催
- 平成2年（1990） 1月、特別展「大アンデス文明展」開催  
8月、企画展「沖縄の野鳥展」開催  
11月、企画展「沖縄の祭り」開催
- 平成3年（1991） 2月、企画展「技と美-大城志津子の世界-」開催  
8月、企画展「沖縄のチョウ展」開催  
9月、企画展「壺屋陶工遺作展」開催  
10月、特別展「アジアの祭りと芸能」開催
- 平成4年（1992） 2月、企画展「琉球の香り・あわもりの歴史と文化」開催  
6月、特別展「古代メキシコ至宝展」開催  
8月、特別展「沖縄の貝類展」開催  
10月、復帰20周年記念特別展「琉球王国展」開催
- 平成5年（1993） 1月、特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」開催  
2月、企画展「謝花雲石展」開催  
7月、企画展「芭蕉布と平良敏子」開催  
8月、特別展「沖縄の川と生きもの」開催  
10月、企画展「刻まれた歴史-沖縄の石碑と拓本-」開催
- 平成6年（1994） 7月、特別展「子どもの世界」開催
- 平成7年（1995） 6月、戦後50周年記念特別展「蘇る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」開催
- 平成8年（1996） 7月、特別展「大久米島展」開催  
12月、企画展「沖縄県立博物館50年の歩み」開催 創立50周年式典を行う。
- 平成9年（1997） 4月、特別展「アルゼンチンの大恐竜展」開催
- 平成10年（1998） 7月、企画展「琉球王国時代の植物標本展」開催  
11月、特別展「包むこころ ふろしき展」開催
- 平成11年（1999） 8月、特別展「三線のひろがりと可能性展」開催  
10月、企画展「日本の技～伝統のかたち～」開催（第7回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」巡回展）
- 平成12年（2000） 2月、企画展「工芸王国-きらめく手わざの世界を沖縄から」開催  
7月、特別展サミット開催記念「大琉球展」開催
- 平成13年（2001） 11月、特別展ハワイ移民100周年記念「日系移民1世紀展」開催  
2月、企画展「沖縄の繊維・染料植物展」開催  
3月、企画展「工芸王国-人・技・心」開催

11月、特別展「かざりとかたち」開催  
 平成14年 (2002) 9月、特別展「港川人展」開催  
 10月、企画展「沖縄の文化財展」開催  
 平成15年 (2003) 2月、企画展「沖縄ナースものがたり」開催  
 7月、企画展「旅する種子～運ばれるための巧妙なしきけ～」開催  
 10月、特別企画展「沖縄織物へのメッセージ～田中俊雄の研究～」開催  
 平成16年 (2004) 2月、企画展「戦前の文化財保護～仲座久雄の活動～」開催  
 8月、企画展「沖縄歴史を綴る秘宝展」開催  
 11月、企画展「自然界のエイリアン」開催  
 平成17年 (2005) 2月、特別展「いま・むかし おもちゃ大博覧会～入江正彦児童文化史コレクション～」開催  
 平成18年 (2006) 2月、閉館記念特別展「柳宗悦の心と眼 柳宗悦の民藝と巨匠たち展」開催  
 3月、閉館記念催事「ありがとう・さよなら」キャンペーン実施  
 3月、企画展「わたしの宝もの展」(博物館友の会主催) 開催  
 (3月22日～3月31日 無料入館)  
 3月31日「ありがとう・さよなら」キャンペーン閉館の集い実施  
 4月1日から博物館新館移転準備のため休館する。

[歴代館長]

○東恩納博物館・首里博物館

大嶺 薫 (昭和21年4月～28年3月・東恩納博物館)

豊平 良顕 (昭和22年12月～23年3月・首里博物館)

原田 貞吉 (昭和23年8月～28年3月・ " )

○沖縄民政府立首里博物館

原田 貞吉 (昭和28年3月～30年5月)

○琉球政府立博物館

山里 永吉 (昭和30年5月～33年8月)

金城増太郎 (昭和33年9月～36年12月)

大城 知善 (昭和37年2月～44年11月)

外間 正幸 (昭和44年12月～47年4月)

○沖縄県立博物館

外間 正幸 (昭和47年5月～56年3月)

當間 一郎 (平成8年4月～11年3月)

大城徳次郎 (昭和56年4月～58年3月)

大城 将保 (平成11年4月～12年3月)

大城 立裕 (昭和58年4月～61年3月)

平田 輿進 (平成12年4月～14年3月)

大城 宗清 (昭和61年4月～平成4年3月)

當眞 嗣一 (平成14年4月～17年3月)

宜保榮治郎 (平成4年4月～平成6年3月)

名嘉 政修 (平成17年4月～18年3月)

糸数 兼治 (平成6年4月～8年3月)

宮城 清志 (平成18年4月～ )

## 2. 日誌抄 (平成17年4月1日～平成18年3月31日)

◎平成17年

4月5日 県職員新規採用研修

28日 热帯・亜热帯地域エコツーリズム人材育成研修

5月5日 児童福祉週間 (5日～11日)、県内の小・中・高校・養護学校の児童生徒は入館料免除

5日 中国福建省代表団来館

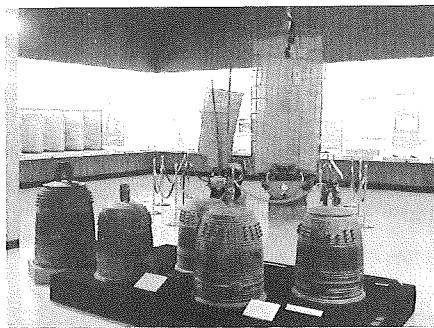
10日 パネル展「博物館を知ろう」、5/22迄

16日 第1回博物館学芸員実習、15名、5/27迄

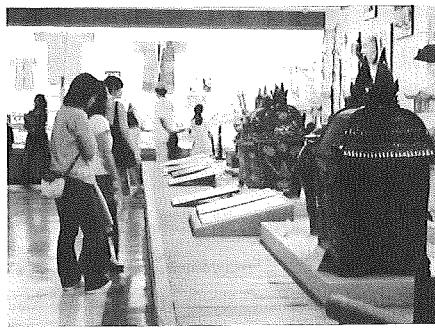
19日 九州博物館協会総会 (福岡県)、5/20迄

23日 県立博物館広報展 (県庁1階ロビー)、5/27迄

- 24日 国史館台湾文献館来館
- 30日 全館燻蒸を実施、6／5迄
- 6月2日 平成17年度沖縄博物館協会総会・研修会（南風原文化センター）
- 13日 救急隊員による救急手当講習会（県立博物館講堂）
- 14日 天然染料顔料会議第2回大会 in 沖縄（「美ら染め・天然の色」展示～26日迄）
- 14日 全国科学博物館協議会総会（東京都）、6／15迄
- 16日 全国博物館長会議（東京都）、6／17迄
- 21日 天然染料顔料会議（講演・研究発表）、6／22迄
- 7月5日 企画展「新収蔵品展」開催、7／24迄
- 7月6日 職場体験学習実習（東風平中学校3名）
- 28日 インターンシップ（那覇高校3名）、7／29迄
- 8月2日 教員10年研修（糸満高校教諭1名）、8／5迄
- 12日 県退職女性教育管理職の会研修
- 17日 九州国立博物館 交流課長来館
- 9月1日 福岡県 国立博物館対策室長来館（2名）
- 8日 沖縄県博物館協会秋期研修会（平良市）、9／9迄
- 21日 北京故宮博物院副院長来館（4名）
- 30日 文化審議会文化財文化専門委員・文化庁調査官来館（5名）
- 10月6日 筑波大学附属盲学校高等部が博物館学習のため来館（12名）
- 23日 沖縄の金工品関係資料調査に係る現地調査、10／27迄
- 31日 第2回博物館学芸員実習（16名）、11／11迄
- 11月2日 故宮博物院来館
- 3日 「文化の日」無料入館 入館者数862人
- 25日 平成17年度第30回移動博物館（渡嘉敷村）、11／26迄
- 12月20日 韓国国家記録院保存管理チーム来館（5名）
- ◎平成18年
- 1月12日 沖縄県立博物館美術品等収集委員会委嘱状交付及び第1回会議
- 29日 日本芸術文化振興会来館（6名）
- 2月14日 県立博物館閉館記念特別展「柳宗悦の心と眼 柳宗悦の民藝と巨匠たち展」3／12迄
- 24日 平成17年度 沖縄県立博物館協議会
- 28日 故宮博物院専門職員来館（3名）
- 3月3日 伊丹市昆虫館来館（2名）
- 4日 特別文化講座「柳宗悦の仕事とその根本思想」講師：尾久彰三
- 22日 首里の博物館閉館記念催事キャンペーンで入館料無料等実施、3／31迄
- 22日 企画展「わたしの宝もの展」（博物館友の会）、3／31迄
- 29日 文化庁伝統文化課調査官来館
- 3月31日 首里の博物館の開館最終日
- 4月1日 平成19年11月まで一時休館

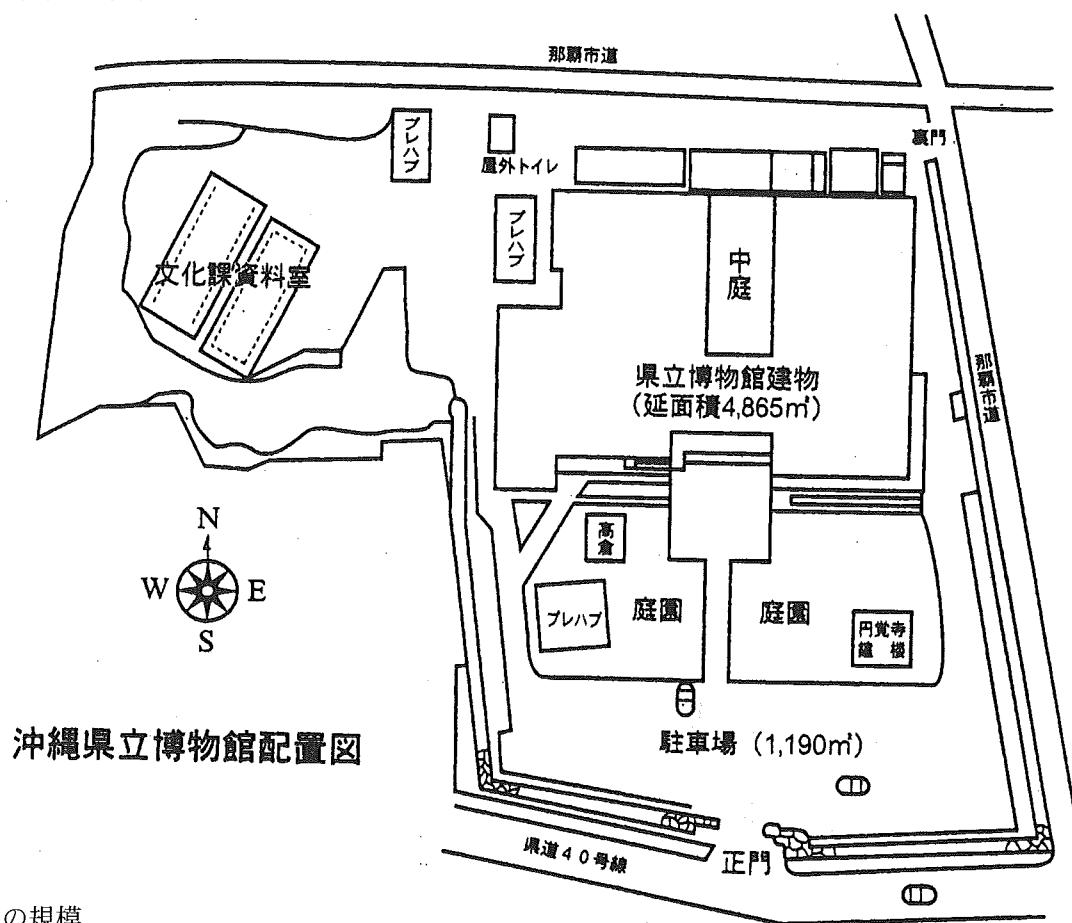


考古・歴史展示室



民俗展示室

### 3. 施設・設備



◎施設の規模

★敷地面積 ..... 11,267m <sup>2</sup>	★空調能力
★建物延べ面積 ..... 4,865m <sup>2</sup>	ウォーターチーリングユニット《空冷式》 125,000Kcal/h × 2基
1階及び講堂部分 ..... 2,530m <sup>2</sup>	エアハンドリングユニット 6基 161,028Kcal/h (講堂用)
2階部分 ..... 1,926m <sup>2</sup>	34,658Kcal/h (第3・4展示室系)
地下部分 ..... 409m <sup>2</sup>	30,000Kcal/h (第1展示室系)
★展示面積 ..... 1,590m <sup>2</sup>	25,830Kcal/h (地下収蔵庫)
1階 ..... 632m <sup>2</sup>	21,270Kcal/h (1階収蔵庫)
2階 ..... 958m <sup>2</sup>	18,263Kcal/h (第2展示室系)
★ロビー面積 ..... 415m <sup>2</sup> (非常口への廊下も含む)	パッケージ型ユニット 4台
★収蔵庫面積 ..... 1,048m <sup>2</sup>	★受変電設備
★駐車場面積 ..... 1,190m <sup>2</sup>	電灯用Tr ··· 1φ3W 30KVA × 1基
★庭園面積 ..... 1,612m <sup>2</sup>	電灯・動力Tr · 3φ4W 100KVA × 1基
★講堂 (客席のみ) ..... 376m <sup>2</sup> 客席数235席	動力 ··· 3φ3W 250KVA × 1基
	★契約電力 ··· 232KW

【2階】

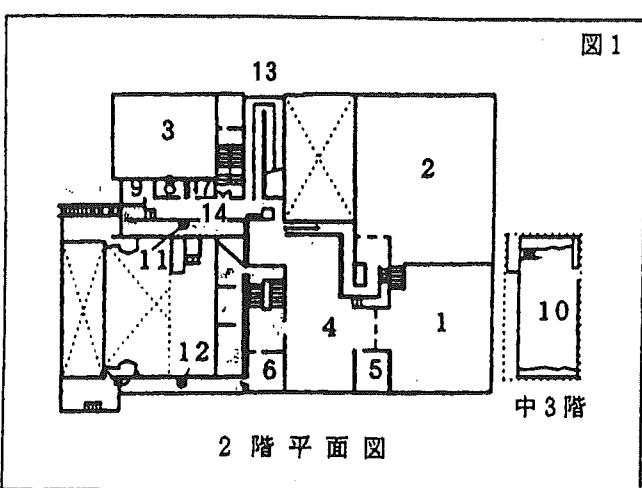
番号 室名

1	美術工芸展示室	274m <sup>2</sup>
2	民俗展示室	446m <sup>2</sup>
3	漆器収蔵室	170m <sup>2</sup>
4	企画展示室	257m <sup>2</sup>
5	空調機械室	29m <sup>2</sup>
6	コンピューター室	38m <sup>2</sup>
7	化粧室(女)	6m <sup>2</sup>
8	化粧室(男)	10m <sup>2</sup>
9	空調機械室	17m <sup>2</sup>
10	化石収蔵庫(中3階)	120m <sup>2</sup>
11	貝類収蔵庫	35m <sup>2</sup>
12	陶器収蔵庫	38m <sup>2</sup>
13	スロープ	75m <sup>2</sup>
14	廊下	57m <sup>2</sup>

図1

2階平面図

中3階



2階平面図

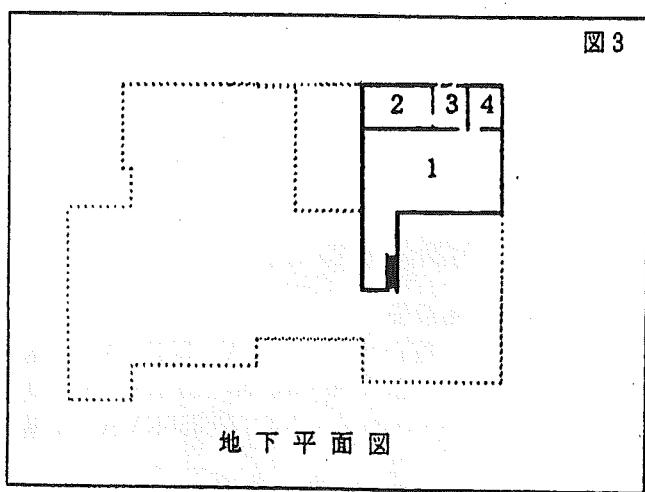
【1階】

番号 室名

1	事務室	130m <sup>2</sup>
2	会議室	40m <sup>2</sup>
3	考古・歴史展示室	466m <sup>2</sup>
4	自然史展示室	189m <sup>2</sup>
5	収蔵庫	120m <sup>2</sup>
6	荷解場	32m <sup>2</sup>
7	陶磁器収蔵庫	11m <sup>2</sup>
8	中庭	152m <sup>2</sup>
9	厨子甕収蔵庫	91m <sup>2</sup>
10	休憩室	16m <sup>2</sup>
11	湯沸室	8m <sup>2</sup>
12	化粧室(女)	8m <sup>2</sup>
13	化粧室(男)	9m <sup>2</sup>
14	図書室	21m <sup>2</sup>
15	館長兼応接室	26m <sup>2</sup>
16	案内コーナー	20m <sup>2</sup>
17	講堂(客席)	376m <sup>2</sup>
18	ステージ	128m <sup>2</sup>
19	控室	19m <sup>2</sup>
20	控室	37m <sup>2</sup>
21	講堂出入口	48m <sup>2</sup>
22	守衛室	7m <sup>2</sup>
23	ロビー	415m <sup>2</sup>
24	倉庫	14m <sup>2</sup>
25	化粧室(女)	24m <sup>2</sup>
26	化粧室(男)	15m <sup>2</sup>
27	友の会売店	10m <sup>2</sup>
28	空調機械室	11m <sup>2</sup>
29	消火栓ポンプ室	5m <sup>2</sup>
30	厨子甕収蔵庫	75m <sup>2</sup>
31	障害者用トイレ	7m <sup>2</sup>
32	廊下(裏口用)	18m <sup>2</sup>

図3

地下平面図



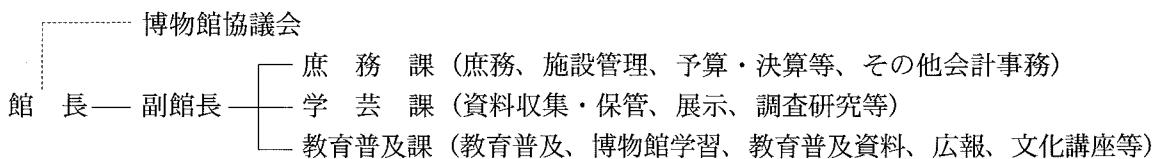
【地下】

番号 室名

1	収蔵庫	290m <sup>2</sup>
2	空調機械室	61m <sup>2</sup>
3	荷解場	28m <sup>2</sup>
4	受変電設備	30m <sup>2</sup>

#### 4. 組織 (平成18年4月1日現在)

##### (1) 組織



##### (2) 職員構成

職名	氏名	担当業務
館長	宮城清志	博物館業務の総理に関すること。
副館長	宮城智子	館長の補佐、庶務課・学芸課・教育普及課との調整に関すること。

##### 庶務課

職名	氏名	担当業務
庶務課長(兼)	宮城智子	庶務課の総括、予算・決算、財産管理(財産・鍵・公印の保管等)、会計監査、沖縄県博物館協議会、全国及び九州ブロック博物館協議会、新館移転・開館準備に関すること。
主査	當間正子	予算・決算事務、庶務・経理事務全般、人件費及び職員の福利厚生、新館移転・開館準備(管理部門)に関すること。
主任	平安山明彦	施設・設備の維持管理、公有財産、防災管理補助、全館燻蒸、新館移転・開館準備(管理部門)に関すること。

##### 学芸課

職名	氏名	担当業務
主幹兼課長	萩尾俊章	沖縄県博物館協会、新館移転・開館準備、博物館新館建設事業(総括)に関すること。
指導主事	赤嶺敏	美術工芸資料(漆器・陶器・書跡)、資料収集事業、特別展、収藏品台帳、写真資料貸出、博物館新館建設事業(美術工芸資料)に関すること。
学芸員	平川信幸	美術工芸資料(染織・絵画・彫刻等)、写真資料等の整理、撮影等の受付、資料修理事業、新館移転・開館準備、博物館新館建設事業(美術工芸資料)に関すること。
学芸員	稻福恭子	歴史資料、パネル展等企画事業、資料収集事業、博物館『年報』の編集・発行、図書資料、博物館新館建設事業(歴史資料等)に関すること。
指導主事	知念幸子	自然史資料(地質・化石)、化石資料整理、港川人の受入、博物館資料の燻蒸、開館記念展、博物館新館建設事業(自然史・収蔵資料データベース等)に関すること。
指導主事(充)	田中聰	自然史資料(生物)、新館移転資料整理、博物館総合調査、沖縄県博物館協会、博物館紀要、博物館新館建設事業(自然史資料等)に関すること。
専門員	羽方誠	考古資料、パネル展等企画事業等、資料(土器等)修復、新館移転・開館準備、湧田窯の移転・設置、博物館新館建設事業(考古資料、企画・特別展示室、開館記念等)に関すること。
指導主事(充)	久場政彦	民俗資料、パネル展等企画事業等、博物館資料の管理システムの管理運営、新館移転資料整理、博物館新館建設事業(民俗資料・野外展示等)に関すること。

教育普及課

職名	氏名	担当業務
主幹兼課長	津波古 聰	利用の手引き（新館用）、体験学習教室の運営、ワークシート（新館用）、学校その他教育機関との連絡・協力、移動博物館開催地調査、教育普及資料の移転準備、新館建設事業（ふれあい体験室等）に関すること。
学芸員 (臨任)	宮平 真由美	文化講座及び関連資料、博物館シアター、博物館だよりの発行、広報活動、視聴覚資料の整理・移転、新館建設事業（講座室等）に関すること。

委託職員

職名	氏名	担当業務
緑化整備員	金城朝正	緑化整備に関すること。

沖縄県立博物館友の会

職名	氏名	担当業務
書記・会計	池宮城 啓子	博物館友の会の庶務会計に関すること。

(3) 人事異動

平成18年4月1日現在

職名	氏名	摘要
【転出】		
館長	名嘉政修	参事（兼）福利課長
副館長（兼）庶務課長 (庶務課)	友利克実	文化課 副参事
主事 (学芸課)	金城博之	義務教育課 主事
主幹兼学芸課長	津波古聰	主幹（兼）教育普及課長
指導主事（充）	嵩原建二	名護養護学校 教諭
指導主事	座霸泰	向陽高等学校 教諭
主任 (教育普及課)	仲座久宜	埋蔵文化財センター 主任
主幹兼教育普及課長	上地弘伸	那覇市立首里中学校 教頭
指導主事（充）	玉城善哲	玉城少年自然の家 主任専門職員
指導主事（充）	伊波一男	金武町立中川小学校 校長
学芸員（臨任）	比嘉孝子	
【転入】		
館長	宮城清志	教育庁教育次長
副館長（兼）庶務課長 (学芸課)	宮城智子	文化環境部文化振興課 文化振興班長
主幹兼学芸課長	萩尾俊章	文化課 文化財係長
指導主事	知念幸子	球陽高等学校 教諭
専門員 (教育普及課)	羽方誠	埋蔵文化財センター 専門員
主幹兼教育普及課長	津波古聰	主幹兼学芸課長
学芸員（臨任）	宮平真由美	

## 5. 沖縄県立博物館協議会

日 時：平成18年2月24日（金） 午後2時～4時

場 所：県立博物館会議室

協議題：

1. 平成17年度予算及び事業報告について

(1) 平成17年度予算

(2) 学芸課事業

(3) 教育普及課事業

2. 平成18年度予算及び事業計画について

(1) 平成18年度予算

(2) 学芸課事業

(3) 教育普及課事業

報 告：

1. 博物館新館について

(1) 建設状況等について

(2) 開館記念展について

(3) 管理運営について

2. その他

◎沖縄県立博物館協議会委員名簿（平成16年12月15日～平成18年12月14日）

	氏 名	所 属	職 名
学識経験者	(会長) 金城正篤	沖縄大学 (歴史)	教授
	祝嶺恭子	県立芸術大学附属研究所 (美術工芸)	客員教授
	新城和治	元琉球大学 (自然史)	元教授
	津波高志	琉球大学 (民俗)	教授
	上原靜	沖縄国際大学 (考古学)	助教授
学校教育関係者	平良昌義	沖縄県小学校長会	副会長
	仲西勉	沖縄県中学校長会	副会長
	又吉孝一	沖縄県高等学校長協会	副会長
社会教育関係者	(副会長) 藏根芳雄	沖縄県社会教育委員連絡協議会	会長
	田畠静夫	沖縄県PTA連合会	会長

## 6. 予 算

◎平成17年度 博物館費（決算）

(単位：円)

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館新館・美術館建設事業費	博物館 計
報酬	37,200	0	0	37,200
賃金	0	0	14,397,850	14,397,850
報償費	151,000	154,000	0	305,000
旅費	868,160	1,332,550	0	2,200,710
需用費	16,629,941	5,618,000	199,962	22,447,903
役務費	1,039,000	187,992	0	1,226,992
委託料	21,362,859	10,758,888	0	32,121,747
使用料及び賃借料	0	287,042	599,760	886,802
備品購入費	4,852,626	366,000	0	5,247,186
負担金補助及び交付金	75,000	0	0	75,000
公課費	0	0	0	0
合計	45,015,786	18,704,472	15,197,572	78,946,390

◎平成17年度 歳入状況

(単位：円)

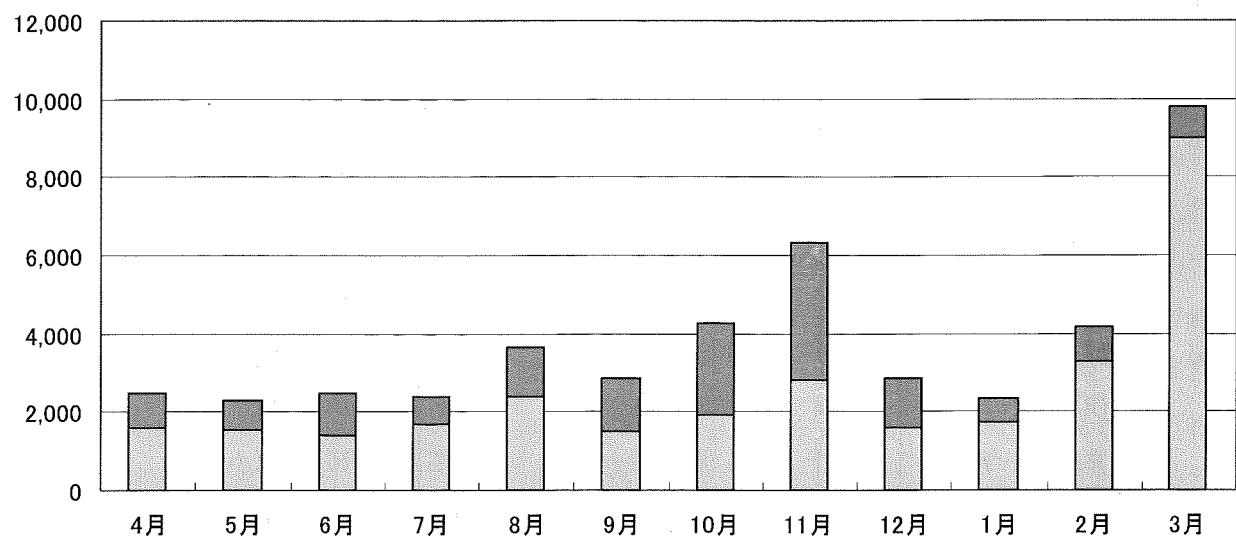
	友の会等	特別展等	合計
博物館使用料	0	6,524,190	6,524,190
土地使用料	57,221	0	57,221
建物使用料	36,012	0	36,012
雜入	104,179	0	104,179
合計	197,412	6,524,190	6,721,602



## 団体入館者数(有料)

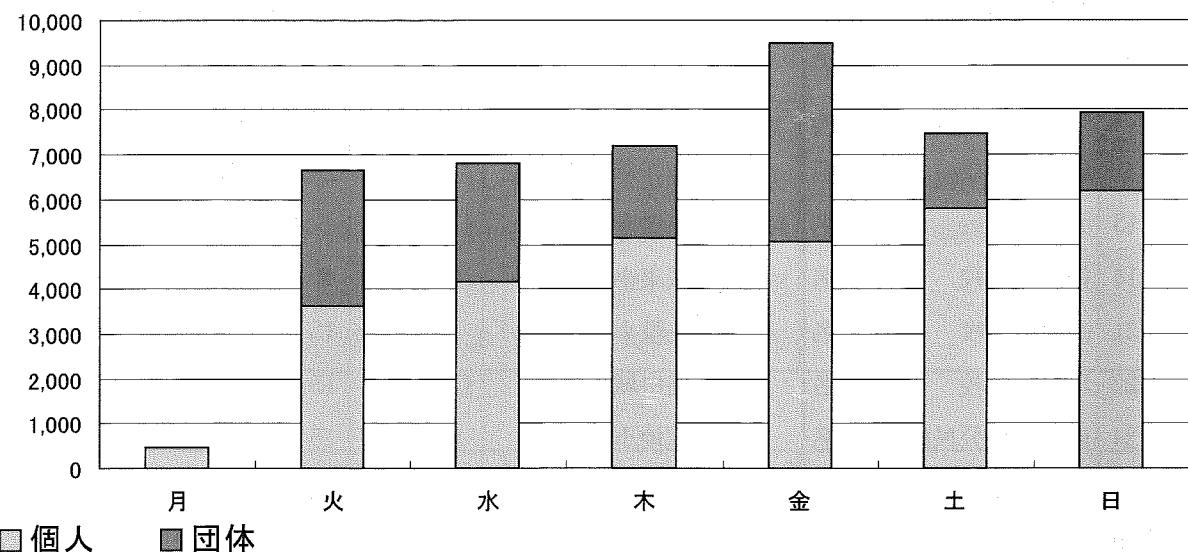
	県内				県外				国外				合計			
	大人	高大生	小中生	小計	大人	高大生	小中生	小計	大人	高大生	小中生	小計	团体数	人数		
年月	团体数	团体人数	团体人数	团体人数	团体数	团体人数	团体数	团体数	团体人数	团体数	团体人数	团体数	团体数	人数		
平成17年4月	2	65		2	65		1	156	1	59	2	215	1	36	5 316	
5月	3	2	55	2	58			4	299	4	299				6 357	
6月	1	34		1	34		4	570	1	18	2	570	1	22	6 626	
7月	3	90	2	56	2	63	7	209	1	28	1	28			8 237	
8月	1	58	3	10	316	11	377				2	97		1	2 98 13 475	
9月							1	20			1	20			1 20	
10月	2	73		2	73	1	25	4	297	2	144	7	466	3 74	3 74 12 613	
11月	1	24	1	23	2	51	4	98	5	333	2	188	7	521	1 49	1 1 50 12 669
12月	1	23		1	23	1	20	1	42	2	76	4	138			5 161
平成18年1月							1	20			1	20	1	37	1 60 2 126 4 223 5 243	
2月	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2 6 6	
3月	1	27		1	171	2	198	1	56	4	223		5	279		7 477
合計	14	399	7	139	17	603	34	1,137	7	143	22	1,651	13	768	38 2,558 11 313 3 64 4 132 14 505 86 4,200	

平成17年度月別入館者数



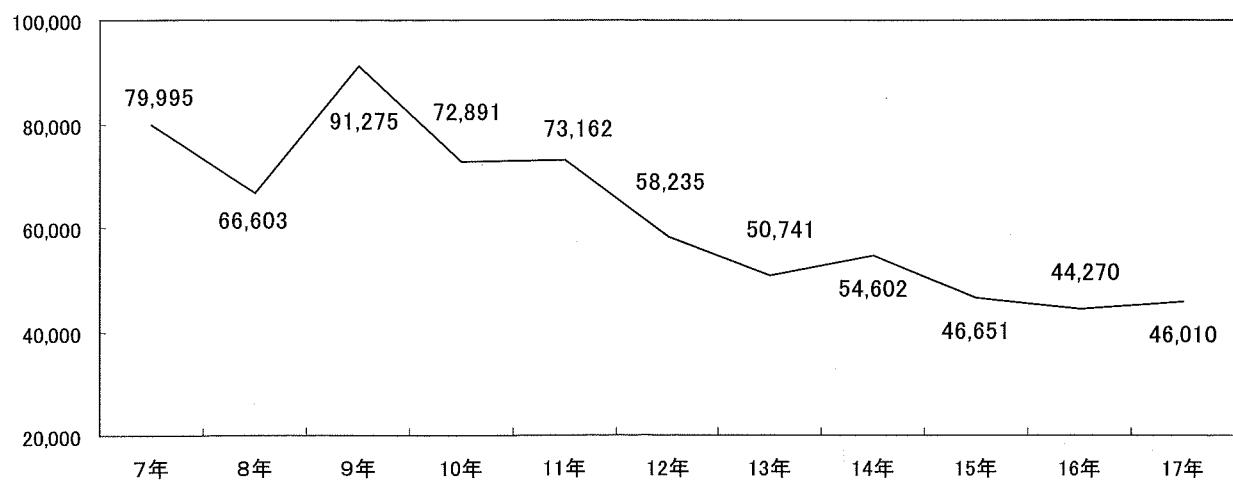
□個人 ■団体

平成17年度曜日別入館者数



□個人 ■団体

年間入館者数の年次推移(過去10年間)



2. 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校) 72校 5,568名

月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数
4	28	南風原小学校	125名	10	7	津覇小学校	80名	11	8	百名小学校	37名
5	19	沖縄盲学校	12名		13	玉城小学校	48名		10	さつき小学校	124名
	24	天城町立兼久小学校	25名		14	潮平小学校	134名		11	豊見城小学校	95名
	24	徳之島町立亀徳小学校	38名		19	与儀小学校	90名		11	西崎小学校	104名
	24	徳之島町立亀津小学校	74名		20	津嘉山小学校	112名		11	小禄南小学校	134名
6	8	城西小学校	114名		20	浜川小学校	115名		12	韓国スカウト	36名
	15	伊平屋小学校	21名		21	天妃小学校	92名		15	前島小学校	42名
	22	喜如嘉小学校	13名		21	瀬喜田小学校	15名		16	神原小学校	79名
	30	宮島小学校	5名		22	和光小学校	71名		18	漢那小学校	10名
	30	北小学校	7名		25	川崎小学校	74名		18	西原東小学校	77名
7	1	平良第一小学校	100名		26	琉大附属小学校	119名		18	金城小学校	177名
	1	南大東小学校	20名		27	中川小学校	17名		22	沖縄カトリック小学校	90名
8	24	北丘学童	39名		27	座安小学校	94名		22	嘉手納小学校	129名
	24	与儀学童保育	43名		28	真壁小学校	44名		24	韓国スカウト	88名
9	9	北谷小学校	101名		28	和光鶴川小学校	73名		25	与那原東小学校	82名
	13	大道小学校	81名	11	1	糸満南小学校	112名		6	北玉小学校	82名
	14	松島小学校	123名		1	城東小学校	96名	12	8	松田小学校	25名
	21	高原小学校	237名		2	佐敷小学校	75名		13	塩屋小学校	7名
	22	垣花小学校	42名		2	北中城小学校	130名	1	15	仲井真小学校	94名
	24	西原中央公民館	15名		2	真地小学校	91名	2	16	勝連小学校	83名
	27	仲西小学校	123名		4	泊小学校	123名		16	粟国小学校	27名
	28	城西小学校	121名		4	開南小学校	45名	3	3	北中城小学校	168名
10	4	古堅小学校	117名		4	石嶺小学校	37名				
	5	久高小学校	9名		8	百名小学校	30名				
	7	坂田小学校	142名	11	8	大里小学校	114名				

(中学校) 17校 1,262名

月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数
4	15	宮田町立宮田中学校	59名	9	21	与勝中学校	24名	12	2	山江村山江中学校	61名
	30	興南中学校	100名		22	古蔵中学校	13名		6	国頭中学校	4名
5	26	鏡町立鏡中学校	162名	11	18	宮田町立宮田中学校	26名		7	原田中学校	15名
6	8	国頭中学校	72名		22	西崎中学校	201名		16	平安座中学校	30名
7	7	城北中若夏分校	6名		24	佐敷中学校	20名		16	コザ中学校	185名
8	26	松城中学校	122名		30	上天草市立大矢野中学校	162名				

(高等学校) 33校 2,733名

月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数
4	26	近畿大学附属豊岡高等学校	156名	9	27	南部農林高等学校	33名	11	17	木更津高等学校	39名
5	7	北部農林高等学校	9名	30	浦添工業高等学校	9名		27	筑波大学附属高等学校	23名	
6	24	九州産業大学附属高等学校	149名	10	5	清心女子高等学校	23名	12	9	那霸国際高等学校	400名
	25	九州産業大学附属高等学校	164名		6	筑波大学附属盲学校	9名		10	榛山高等学校	42名
	26	九州産業大学附属高等学校	106名		7	沖縄少年院	5名		14	北部農林高等学校	40名
	26	鎌倉女子大学高等部	151名		8	飯田風越高校	41名	1	19	那霸工業高等学校	7名
7	8	沖縄少年院	7名		23	大妻嵐山高校	212名	2	2	豊見城高等学校	15名
	15	糸満高等学校	39名	11	8	綾瀬高等学校	185名		17	下総高等学校	127名
	15	宇和島水産高校	28名		8	南風原高等学校	283名	3	3	自由ヶ丘学園高等学校	96名
	28	沖縄少年院	5名		10	山辺高等学校	39名		3	自由ヶ丘学園高等学校	100名
9	16	辺土名高等学校	91名		13	塩山高等学校	38名		10	南山高校女子部	20名
	16	浦添工業高等学校	10名		16	尚絅学院女子高等学校	32名				

(大学・専門学校) 10校 312名

月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数
5	25	琉球大学留学生センター	20名	9	11	沖縄県立芸術大学	35名	3	2	郡山女子大学短期大学部	22名
	27	琉球大学法文学部日本・東洋	38名	10	19	琉球大学留学生センター	25名		2	沖縄国際大学	31名
7	10	沖縄国際大学	20名		21	国士館大学	21名				
	20	沖縄国際大学	38名	1	20	台北芸術大学	62名				

(その他) 17校 312名

月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数	月	日	学 校 名	人 数
5	10	小禄南幼稚園	66名	8	16	ふてんま青空学童クラブ	7名	1	27	兼城保育園	19名
7	14	慈愛幼稚園	21名	8	16	長田学童クラブ	11名	2	21	こども園まるる	18名
8	2	津嘉山学童クラブ	14名		24	北丘学童クラブ	7名		23	仲井真幼稚園	90名
	4	青空学童クラブ	49名		24	親田原児童クラブ	18名	3	28	あゆみ学院	47名
	4	学童館	91名		25	石嶺小学校学童クラブ琉童	6名		30	パークサイド児童学園	55名
	11	よなは学童クラブ	20名	1	18	報恩幼稚園	20名				

### III. 調査研究等の活動

#### 1. 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料収集・保管、資料の展示、教育普及活動という四つの大きな柱によって構成されている。これらは互いに相補性をもって存在するものであるが、調査研究活動は、その中でもっとも基礎となるものである。

当館における調査研究活動は、統一テーマを設定して全学芸員が一地域を対象として取り組む共同研究と、個々の学芸員が各自の専門分野について調査研究を進める個別研究とがある。

共同研究としては、各離島における自然・歴史・民俗・考古・美術工芸の各分野の基礎資料の掘り起こしと、収集を目的とした総合調査を実施しており、これまでに久米島（平成5年度・6年度に実施）を皮切りに、波照間島（平成8年度・9年度）、西表島（平成10年度～12年度）、小浜島（平成13年度～15年度）と実施し、それぞれ調査報告書を刊行している。平成16年度からは与那国島について調査を実施し、平成20年度は報告書を刊行する予定である。なお、通常総合調査は3年間で実施しているが、平成19年度は新館移転のため、報告書の刊行を1年延長した。また20年度以降に、これまで実施した調査地の展示会を検討している。

各学芸員については、それぞれの専門分野別に自主的なテーマ設定のもと進めている研究や、外部からの依頼を受けて実施している調査研究など、多様なあり方で研究が行われている。それぞれの研究成果については、平成17年度に刊行した『沖縄県立博物館紀要』第31号をはじめとして、各学芸員が所属している学会の会誌や研究機関誌等で発表されている。また、各機関から委嘱、依頼を受けた委員会や講演会等でも、それぞれ関連する調査に基づいた発表がなされている。

以下、平成17年度に当館及び学芸員が実施した調査・研究活動の状況を報告する。

#### 2. 博物館総合調査

（担当：田中 聰）

##### ○与那国島総合調査（予算額：846,000円）

###### 1. 博物館総合調査事業の趣旨

沖縄県は多くの島々から成り立ち、島ごとに独自の自然やそれを背景としたくらしがある。これまで、県内の個々の島について、生物相、遺跡の分布、民俗・集落や伝統行事等については報告が散見される。しかし、島々の自然・歴史・文化をより深く理解するためには、まだまだ基礎的なデータが十分とはいえない。

近年、県内においても森林伐採・道路建設・干渉の埋め立てなどの乱開発のため、自然環境は大きく変貌してきている。さらに、住民の生活や伝統行事の形態などの文化的側面も変わりつつある。このままでは、島々の自然・歴史・文化などに関する貴重な資料が失われてしまうことは想像に難くない。

そこで本事業は、県内離島の自然・歴史・文化について調査研究により価値を見いだし、その成果を記録・報告するとともに、当館の展示会等をとおして、島々の実態を多くの県民に伝えることを目的としている。島々の自然の現状や伝統文化を知ることによって、撹乱に対して脆弱な島々の自然環境の保全や貴重な文化的資料の保存に対する理解が深められ、より良い形での地域の発展につながることと考えられる。

与那国島総合調査は、平成16年から平成20年までの5年計画で実施する。

###### 2. 与那国島の選定理由

与那国島は国内で最西端に位置し、台湾までの距離もきわめて近い。与那国島だけに固有の生物も多く、八重山諸島のなかでも独特の生物相を形成している。また、方言をはじめとしたくらしや文化も八重山諸島のなかでも特異であり、詳細な調査が必要である。

###### 3. 総合調査組織

本調査組織は平成16年度から平成20年度に沖縄県立博物館に在籍する各分野の学芸員により構成される。

#### 4. 調査方法

本調査は、自然、考古、歴史、民俗、美術工芸、教育普及の6分野で実施する。各分野で調査対象、調査地域、方法論等が異なるため、分野ごとに検討した調査計画に基づき、現地調査は各調査員が個別に実施する。

平成18・19年度は一部の職員で補足調査を実施し、平成20年度に報告書を作成する。

#### 5. 総合調査の成果

平成20年度に報告書を刊行し、平成21年度には、これまでに総合調査を実施した八重山諸島西側の4島嶼（波照間島・西表島・小浜島・与那国島）を対象とした特別展を実施する。また、調査をとおして収集した資料は県立博物館資料として収蔵し、今後の展示活動等に活用する。

### 3. 調査研究（※新館展示調査に関係する調査研究の動向については、Ⅶ章にまとめた）

嵩原建二（充指導主事）：自然史

○名 称：名護市動植物総合調査

期 間：平成17年4月1日～平成18年3月31日

実施機関：名護市教育委員会

○名 称：与那国島総合調査

期 間：平成18年3月8日～10日

実施機関：沖縄県立博物館

田中 聰（充指導主事）：自然史

○名 称：平成17年度国指定天然記念物（オカヤドカリ類）緊急実態調査

期 間：平成17年6月22日～平成18年3月31日

実施機関：沖縄県教育委員会

○名 称：平成17年度県指定天然記念物イボイモリ生息実態調査

期 間：平成17年6月24日～平成18年3月31日

実施機関：沖縄県教育委員会

○名 称：与那国島総合調査

期 間：平成17年7月6日～8日

実施機関：沖縄県立博物館

仲座久宣（主任）：考古

○名 称：与那国島総合調査

期 間：平成18年2月7日～10日

実施機関：沖縄県立博物館

赤嶺 敏（指導主事）：美術工芸

○名 称：展示資料調査（京都・装コウ師学会）

期 日：平成17年11月5日

実施機関：沖縄県立博物館

○名 称：博物館新館資料収集基金事業（関西）

期 間：平成18年2月26日～27日

実施機関：沖縄県立博物館

#### 4. 講演等

嵩原建二（充指導主事）：自然史

○名 称：名護市文化財保護委員

期 間：平成17年4月1日～平成18年3月31日

実施機関：名護市教育委員会

○名 称：読谷村文化財保護委員

期 間：平成17年4月1日～平成18年3月31日

実施機関：読谷村教育委員会

○名 称：読谷村立美術館協議委員

期 間：平成17年4月1日～平成18年3月31日

実施機関：読谷村立美術館

○名 称：漫湖・水鳥湿地センター運営専門部委員

期 間：平成17年4月1日～平成18年3月31日

実施機関：漫湖・水鳥湿地センター運営協議会

○名 称：総合学習に関する職員研修会講師（指導主事要請）

期 日：平成17年8月25日

実施機関：豊見城市立とよみ小学校

○名 称：アマミヤマシギ (*Scolopax mira*) の mtDNA 制限領域による遺伝的構造の解析  
(共同研究)

期 日：平成17年9月18日

実施機関：日本鳥学会2005年度大会

○名 称：自然観察会講師（渡嘉敷村移動博物館事業）

期 日：平成17年11月26日

実施機関：沖縄県立博物館

○名 称：自然観察会講師（座間味村商工会地域活性化事業）

期 日：平成17年11月27日

実施機関：座間味村商工会

○名 称：野鳥観察会講師（文部科学省補助 粟国村家庭教育推進事業）

期 日：平成17年10月28日

実施機関：粟国村教育委員会

○名 称：科学作品審査委員（沖縄県児童生徒科学作品審査）

期 日：平成18年1月18日

実施機関：沖縄県教育委員会、沖縄電力

○名 称：漫湖・水鳥湿地センター野鳥観察会講師

期 日：平成18年1月18日

実施機関：漫湖・水鳥湿地センター運営協議会

○名 称：沖縄県鳥獣保護員講習会講師  
期 日：平成18年3月29日  
実施機関：沖縄県自然保護課

**田中 聰（充指導主事）：自然史**

○名 称：スーパーサイエンスハイスクール サイエンスワークショップ講演  
演題「琉球列島の動物相の特徴とその形成」  
期 日：平成17年8月1日  
実施機関：県立開邦高等学校

○名 称：沖縄県児童生徒科学賞作品展示会審査  
期 日：平成17年10月7日  
実施機関：沖縄県理科教育協会

**座霸 泰（指導主事）：地質・化石**

○名 称：沖縄県立博物館 体験学習講座「化石のレプリカをつくろう」  
期 間：平成17年8月13日～14日  
実施機関：沖縄県立博物館

○名 称：沖縄県立博物館 移動博物館 博学連携事業事業  
「化石のレプリカづくり」（渡嘉敷村立渡嘉敷小学校）  
期 日：平成17年11月24日  
実施機関：沖縄県立博物館

○名 称：科学作品審査委員（沖縄県児童生徒科学作品審査）  
期 日：平成18年1月18日  
実施機関：沖縄県教育委員会、沖縄電力

**赤嶺 敏（指導主事）：美術工芸**

○名 称：沖縄県「私たちの文化財」図画作品審査  
期 日：平成17年10月5日  
実施機関：沖縄県教育庁文化課

**平川信幸（学芸員）：美術工芸**

○名 称：沖縄県立博物館 文化講座講師「家譜に見る絵師の世界」  
期 日：平成17年5月21日  
実施機関：沖縄県立博物館

**久場政彦（充指導主事）：民俗**

○名 称：第30回日本民具学会大会（課題研究発表）  
期 日：平成17年11月19日～21日  
実施機関：日本民具学会第30回大会事務局

**5. 著作論文等**

**嵩原建二（充指導主事）：自然史**

- 自然観察ガイドブック『読谷村の哺乳類と鳥類』 読谷村立歴史民俗資料館
- 「名護岳の鳥類」、「名護岳におけるオリイオオコウモリの餌植物」『名護市動植物総合調査報告書（重点地域）』 名護市教育委員会
- 「近海離島における鳥類相」、「粟国島の自然とその保全と活用」、「慶良間諸島の自然とその保全と活用」（いずれも共著） 沖縄大学地域研究所近海離島総合調査環境部門

### 沖縄大学地域研究所

- 『改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）－レッドデータおきなわー』  
(分担執筆) 沖縄県文化環境部自然保護課

### 田中 聰（充指導主事）：自然史

- 『これからの中棲類学』 松井正文（編）（分担執筆） 裳華房
- 「リュウキュウアオヘビの野外での産卵場所および孵化について」『Akamata』 No.17
- 「ガラスヒバアのバスキングらしき行動の観察例」『Akamata』 No.17
- 「レッドリストの生き物たち28 湿潤な亜熱帯の森でひっそりと生きる クロイワトカゲモドキ」  
『森林技術』 No.766
- 『改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）－レッドデータおきなわー』（分担執  
筆） 沖縄県文化環境部自然保護課
- 『オカヤドカリ類生息実態調査報告書』（分担執筆） 沖縄県教育委員会

## 6. 職員研修

博物館の学芸員は、「博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」（博物館法 第4条4）こととしており、学問の専門性が要求されている。そのため学芸員一人ひとりがこれらに必要な最先端の知識と技術を習得し、生涯学習時代における新しい博物館の展望を持つことが求められている。この目的を達成するために職員は適宜研修を受けている。

平成17年度は、文部科学省と国立社会教育研究所が主催する「博物館職員講習会」に参加した。この研修は、博物館職員の資質向上を目的に2年継続で開催される。20日間の研修は、博物館学から現場視察まで実際の資料取り扱いの技術も含め、多彩なプログラムが組まれている。なお、この研修を修了した者は、学芸員資格を有する免許が与えられる。

### ○平成17年度 博物館職員講習（研修者：久場政彦）

「博物館職員講習」は、博物館等に勤務する職員を対象に学芸員資格の取得を目的として実施されている。期間は2年間にまたがり、1年目の平成17年度は5月11日～6月2日まで国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（東京上野）を主会場に、教育学概論、生涯学習概論、視聴覚教育メディア論、文化史、民俗学の5科目についての講義・現地研修が実施された。生涯学習社会の到来にむけて、社会教育機関である博物館への期待が大きいことを再認識した。講習期間中に、全国から参加した博物館員と交流を持てたことも大きな収穫であった。

### ○平成17年度 沖縄県博物館協会秋期研修会（研修者：久場政彦）

「沖博協研修会」は、博物館等に勤務する職員を対象に専門知識の向上と博物館情報の交歓を目的として実施されている。今年度は平成17年8月9日・10日の両日、平良市総合博物館を主会場に講演と現地視察（伝統祭祀「池間島のミャークヅツ」）、史蹟巡り等の研修が実施された。宮古の歴史・文化を学ぶことができ、有意義な研修であった。

### ○平成17年度 文化庁主催第4回指定文化財（美術工芸）企画・展示セミナー（研修者：赤嶺 敏）

「指定文化財企画・展示セミナー」は、文化財を取り扱う学芸員の資質向上を目的として実施されている。平成17年度は、11月7日～12日まで京都国立博物館にて開催された。セミナーは2年間にまたがり、初年度には基本的な心構えや留意事項を分野ごとに実施された。2年目にあたる本年度は、博物館の運営面における取り組みを、各館から持ち寄り、ディスカッション形式で討議した。また、博物館の置かれている状況や全国的な動向など、情報を収集することができた。2年間の研修期間中に、西日本から参加した他館の学芸員と交流を持てたことも大きな成果であった。

## IV. 展示活動

### 1. 展示活動の概要

(担当: 津波古聰学芸課長)

本館の展示活動は主として学芸課がその任にあたり、常設展を基本に、特別展を年に1~2回、企画展を1~2回実施している。また教育普及課が主体となって、移動博物館を離島地域を対象に実施している。

特別展と企画展の実施にあたっては、専用の企画展示室が狭隘であるため、展示規模に合わせて第1室(考古・歴史展示室)や第3室(美術工芸展示室)を利用している。そのため、特別展開催期間中は、「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマとした常設展が観覧できないことが、当館の大きな課題となっている。

平成17年度は、「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマとした常設展示、特別展としては「柳宗悦の心と眼 柳宗悦と巨匠たち展」、企画展として「平成16年度新収蔵品展」を実施、さらに「わたしの宝もの展」を沖縄県立博物館友の会と共に開催した。また、5月18日(国際博物館の日)の前後に、ミニパネル展「博物館を知ろう」と題したパネル展、5月26日~30日には県庁ロビーにて県立博物館の広報展を開催した。また、2年後は新館開館という博物館の歴史的出来事を控え、その移転準備のため、平成18年度~19年度の新館開館までは休館となる。休館を前に、首里における展示活動の最後の締めとして、閉館記念催事「ありがとう・さよなら」キャンペーンを3月22日~31日(10日間)の期間で実施、当館が所蔵している国指定、県指定文化財をできるだけ多く展示した。同時に、新館の広報も合わせて館内のロビーにて開催した。さらに期間中、休館日無し、入館料を無料とした。その結果多くの来館者を迎える、最後のシャッターは館長の手によってスイッチが押され、40年間に及ぶ現在地の首里における博物館の展示活動を終えた。

なお、文化の日は、特別映写会「戦前の沖縄をとらえた映像群」を上映し、同時に沖縄の自然・歴史・文化を啓蒙普及する一環として入館料を免除した。

### 2. 常設展

環太平洋の西側を縁取り、亜熱帯気候のもとにある沖縄県は、東西南北の文化が交差する地域として、我が国の中でも個性豊かな文化を創りあげてきた。その歴史は、琉球王国を誕生させ、日本や中国を中心とするアジア諸国と盛んに交易を行って、海洋国家として興隆したという独特の経緯を有している。

当博物館は、沖縄県の特色ある自然・歴史・文化に関する資料を収集して、整理・保管しながら調査・研究を行い、その成果を展示する総合博物館である。展示室は、1階の歴史展示室と自然史展示室、2階の企画展示室と美術工芸、さらに中3階の民俗展示室がある。常設展示は「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマにして、展示室を一巡することで沖縄の素顔がよく理解できるように工夫されている。

まず、当館の敷地は、もともと琉球国王世子の屋敷跡であり、中城御殿と呼ばれていたところである。相方積みという琉球石灰岩の独特的な工法で築かれた石牆は、前面の龍潭や首里城の景観と調和して古都のたたずまいをしのばせる歴史的景観を呈している。また野外展示にもなっている前庭には、旧円覚寺銅鐘(重要文化財)や沖永良部から移築された高倉はじめ、石灯籠や石敢當とともに粟国島のトゥージ(石製のタンク)、石獅子、壺屋の窯で焼かれた獅子頭、岩石標本などが展示されている。

前庭から博物館ロビーに入ると、首里城正殿の模型を中心に、戦災でその一部しか残らなかつた首里城正殿前の大龍柱の頭、「徳高」や「徳馨」などの扁額によって琉球王国のイメージを象徴的に展示してある。それから、動線は歴史展示室へとつながる。歴史展示室は琉球列島の形成から日本への復帰まで、沖縄の歴史と文化について、小テーマごとに短い時間でも理解できるよう展示している。例えば、港川人に代表される沖縄の初期人類、九州縄文文化の南下や独自の展開を見せる先史時代の文化、そして沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山先史時代の姿などを紹介する。また12世紀から13世紀になると、按司と称する在地の小領主が出現しグスク時代が始まるが、各グスクから出土し

た遺物が展示されている。

次のコーナーでは、琉球王国が誕生する様相が紹介されている。15世紀前半には沖縄本島中部を拠点として琉球王国が誕生する。琉球は「交易時代」の国際交流によって国家興隆期を迎えるが、17世紀の初頭には島津氏の侵攻をうけその支配下にはいり、やがて幕藩体制下に組み込まれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和を経て、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまでのユニークな沖縄歴史の様相が展開されている。

自然史展示室は、沖縄の島々が約2億年以上の時間をかけて出来上がったことを教えてくれる。アンモナイトやハロビア、あるいはリュウキュウジカやリュウキュウムカシキヨンなどの化石から始まって、亜熱帯地域に広がる沖縄の自然についてテーマごとに展示してある。入り口から右まわりに海岸の生きもの、珊瑚礁の生きもの、河口の生きもの、マングローブの生きもの、湿地や沼の生きもの、山地森林にすむ生きもの、源流の生きものをテーマにしたジオラマが続いている。また、沖縄のハブについても展示紹介してある。特に大自然の宝庫といわれる沖縄本島北部（ヤンバル）と西表島に生息する国・県指定の天然記念物については、中央部に特設コーナーを設けて展示してある。

自然史展示室を出ると2階に至るスロープがあり、スロープの側壁には戦前から戦後にかけて撮影された貴重な沖縄の風景写真パネルが展示されていて、写真を見ながら企画展示室に入る。このスロープ側壁では、企画展や特別に関連したパネル展を開催する場合もある。

2階には企画展示室、美術工芸展示室、民俗展示室がある。企画展示室は、特別展や企画展の開催がない期間は、「大嶺薰コレクション」が展示されているが、その一角を利用して各学芸員の専門性をいかしたミニコーナーも設けている。

美術工芸展示室には、日本や中国をはじめとする東南アジア諸国との交流を背景にして生まれた書跡、染織、漆器などの美術工芸品が展示されている。中国との関係をうかがわせる絵画や書跡、独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦等の高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋を中心として発展してきた陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流で生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

民俗展示室では、琉球列島の民俗資料を、農業、漁業、衣食住、芸能などのテーマで整理・分類して展示してある。庶民の生活用具である民具を通して、昔の人々が工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知ることができる。とりわけ他府県では見られない沖縄独特の生活習俗や信仰・墓制などの展示は、この展示室の特徴の一つになっている。



県立博物館前庭



自然史展示室

### 3. 特別展

#### ○閉館記念特別展

「柳宗悦の心と眼 柳宗悦の民藝と巨匠たち展」

(担当: 平川、赤嶺)

会期: 平成18年2月14日(火) ~ 3月12日(日)

会場: 沖縄県立博物館(考古・歴史展示室、企画展示室、美術工芸展示室)

関連催事: 特別文化講座

予算額: 7,659,000円

#### 【開催趣旨】

この展示会は沖縄県立博物館のこれまで39年間の総まとめとし、新館開幕までの閉館を広く県民に知らせることを目的とした。

さて、柳宗悦をはじめとする、民藝の巨匠と称される諸氏の沖縄文化や工藝への関わりは大正・昭和初期、終戦直後といった沖縄の変動の時期にあって、その独自性や特異性を高く評価し、全国に知らしめたことは、県民の中に自信と勇気をもたらしてくれた。その中で培われた精神が、現在の沖縄工藝文化の一つの支えとなっているといつても過言ではない。さらに柳によって収集保管されてきた資料は、沖縄や本土の工藝文化資料として、価値の高いものばかりである。

博物館の閉館、新館移転準備の時期に当たって、民藝の活動を展示公開し、沖縄文化を高く評価してきた、彼らの背景を知ることにより、郷土の文化を見つめなおす機会、または、その中で博物館の果たしてきた役割を確認する上で大きな意義があるものと考える。

#### 【開催形式】

主催: 沖縄県立博物館、琉球新報社、美術館連絡協議会

共通協賛: 花王株式会社

監修: 日本民藝館

開会式は、仲宗根用英教育長(代理)、琉球新報社比嘉辰博社長のあいさつに続き、多くの来館者が見守るなか、テープカットが行われた。式典終了後、参加者は展示会担当者の案内で会場を観覧し、約200点の展示品を興味深く鑑賞する姿が見られた。

会期中は、7,600名の入館者があり、盛況のうちに閉幕となった。



開会式のテープカット



学芸員による展示説明風景

## 【展示内容】

### 1. 柳宗悦の白権時代

柳宗悦の最も初期の仕事である雑誌『白権』の仕事を雑誌とともに、フォーゲラーの複製画やロダン作品の写真パネルなどで紹介した。

### 2. 李朝工芸と朝鮮民族美術館設立

朝鮮の焼物に触発された柳が精力的に韓国で収集した工芸品を中心に、朝鮮民族美術館設立に関する資料を展示了。

### 3. 木喰仏の発見

朝鮮の美を見た柳宗悦の眼は東洋から更に自分の足下を見つめるようになり、やがて日本の美意識の発見へと向かっていく。この章では柳によって見いだされた、木喰仏3点を展示了。

### 4. 柳宗悦の民藝調査と日本民藝館の設立

木喰仏の調査のために全国各地を訪れた柳はやがて地方各地で作られた工芸品に美を見いだし「民藝」という言葉を生み出す。この章では焼き物を中心に、日本民藝館の設立に関する資料を展示了。

### 5. 民藝運動の発展

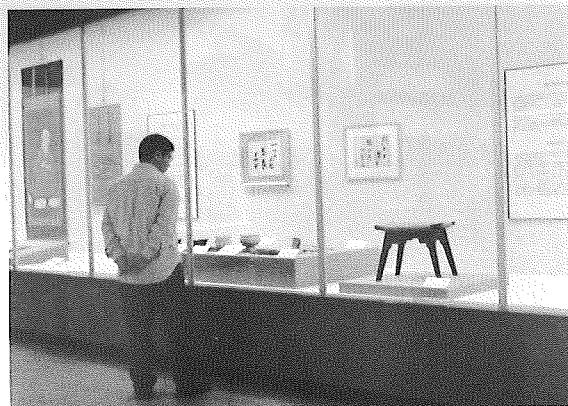
民藝運動は様々な協力者を得て着実に発展していく。この章ではこうした協力者とともに全国各地を訪れた柳によって収集された、「看板」や「かまど面」、「自在鉤」などの工芸品で構成した。

### 6. 民藝の巨匠たち

この章では柳の民藝運動に影響を受けた、富本憲吉、バーナード・リーチ、河井寛次郎、濱田庄司、芹沢鉢介、棟方志功、黒田辰秋ら7人の作り手たちの作品を紹介した。

### 7. 柳宗悦の茶道

美と宗教の関係を探り続けた柳の仕事は「茶」において集結されるが、既成の茶道を離れ独自の茶道を提案した。ここでは柳が収集した茶碗とともに、考案した椅子や茶道具を展示了。



展示観覧風景①



展示観覧風景②

## 8. 柳宗悦の仏教と美の浄土

晩年柳は、興味を禅宗から浄土教系、とくに一遍上人にむける。ここでは晩年の柳の著作と浄土教にまつわる品を展示し柳の仕事を締めくくった。

## 9. 沖縄の思いで

最終章は沖縄県立博物館の現在地での39年の活動を締めくくるものとして、県立博物館が収蔵する民藝運動に関わりのある作り手たちの作品を中心に構成した。



ロビーで「琉球の民藝」等を放映



ミュージアムショップの様子

### 【関連催事】

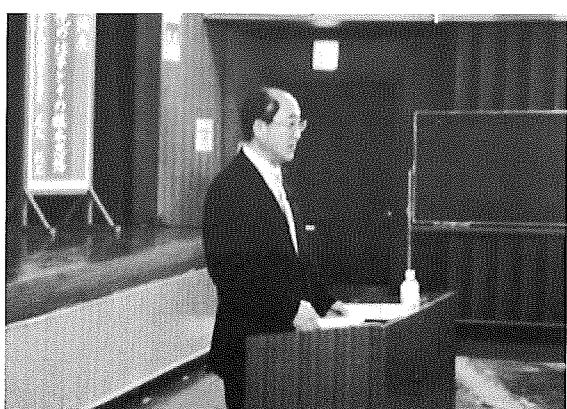
#### ◎特別文化講座

演題：「柳宗悦の仕事とその根本思想」

講師：日本民藝館学芸主任 尾久彰三氏

日時：平成18年3月4日（土）午後2時～4時

要旨：柳の仕事の多岐にわたる仕事を、時代背景や柳の考え方など様々なエピソードを交えて解説した。また、日本民藝館が録音した柳の肉声も流れ、すでに歴史上の人物と思われていた柳宗悦に親しみが持てたのではないかと思われる。文化講座には200名以上の参加者があり、一時、立ち見席ができるほどであった。講座の最後には、参加者から活発に質問なされるなど盛況なものとなった。



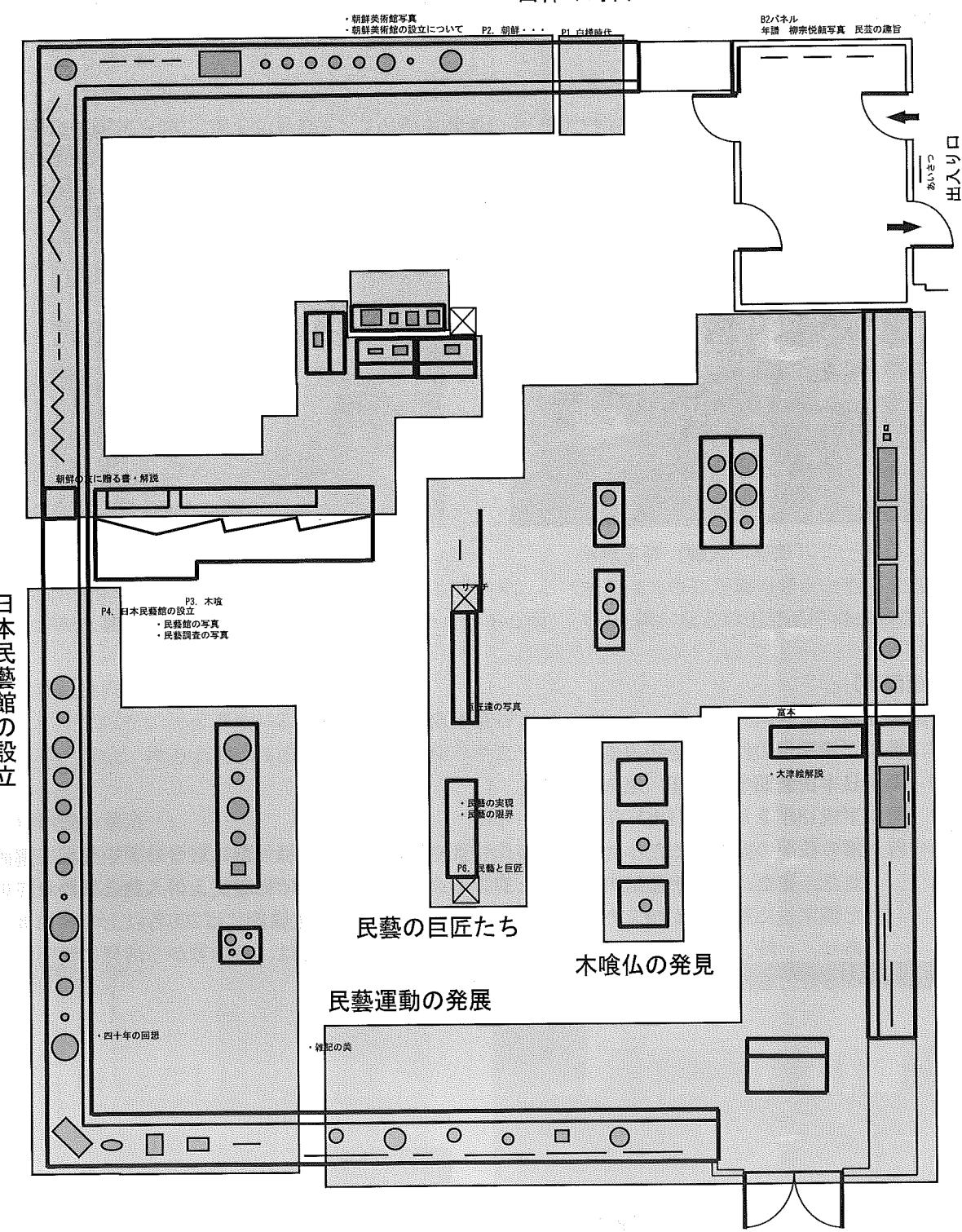
講演を行った尾久彰三氏



受講者で満員になった会場

## 李朝の工藝

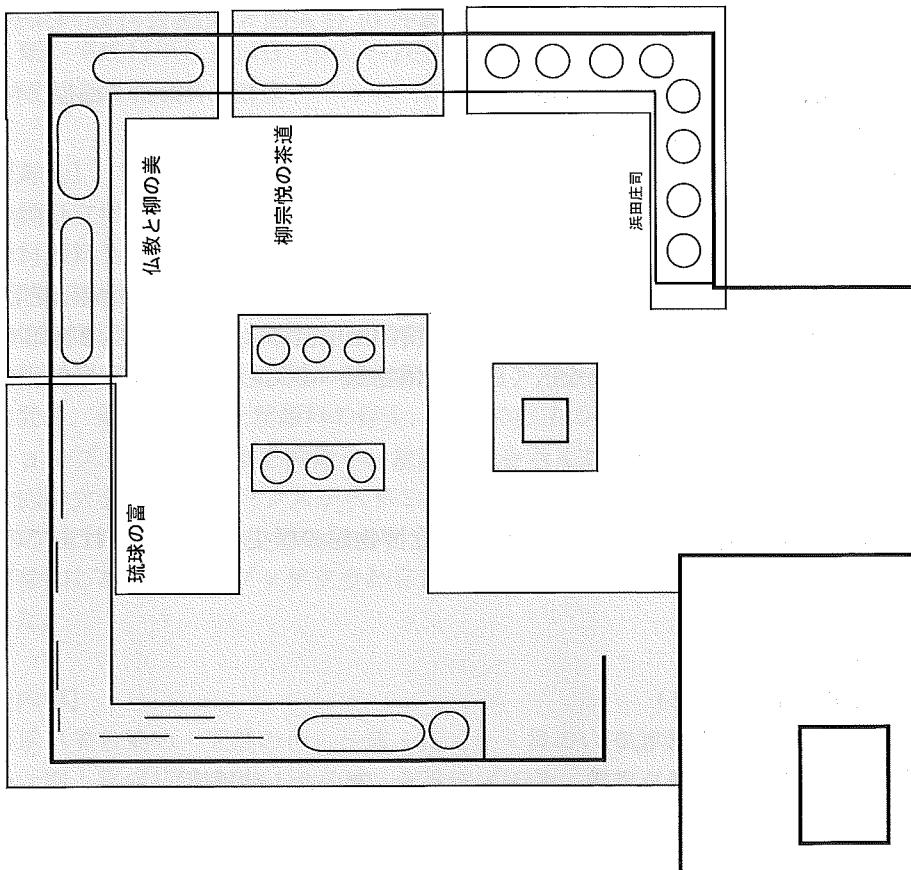
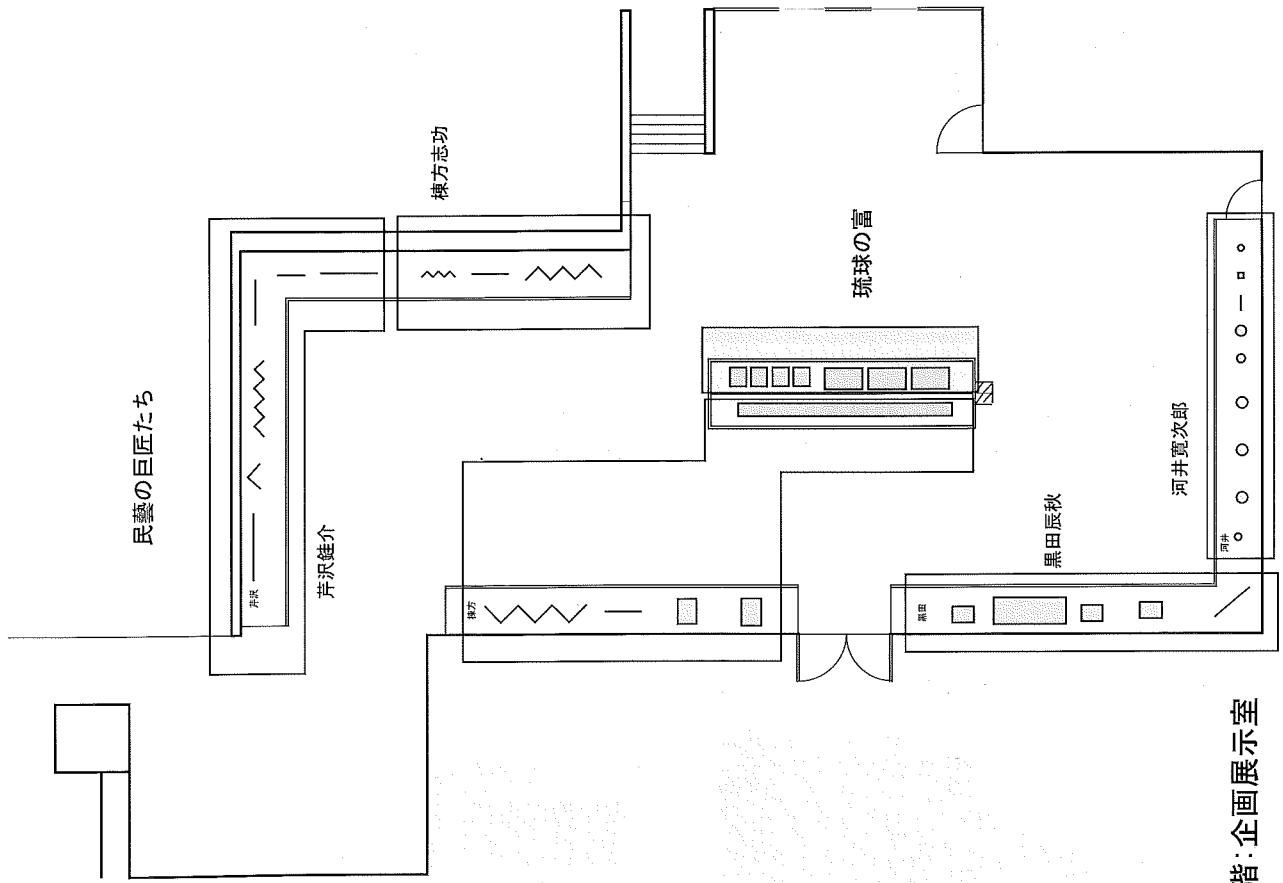
## 白樺の時代



展示平面図 1階（考古・歴史展示室）

2階：美術工芸展示室

2階：企画展示室



## 4. 企画展

### ○国際博物館の日「博物館を知ろう」パネル展

(担当：稻福、仲座)

会期：平成17年5月10日（火）～22日（日）

会場：県立博物館スロープ

#### 【開催趣旨】

国際博物館会議（通称 ICOM：イコム）は、全世界における博物館活動の普及と向上を目的として、5月18日を「国際博物館の日」と定めている。日本博物館協会の会員である当博物館もこれに賛同し、より多くの人々に対し博物館活動を広く報せ、博物館への関心を高めることを目的とする。

#### 【展示内容】

ICOM の説明及び世界の博物館についてのパネル、県立博物館の歴史・活動・これまでの刊行物等の展示を行った。

#### ◎主な展示資料

- ・パネル展の趣旨・目的
- ・世界の博物館・美術館（写真パネル）
- ・県立博物館のあゆみ（文字・写真パネル）
- ・県立博物館の活動（展示会、教育普及事業、ボランティア、友の会、沖博協）
- ・刊行物、ポスター等

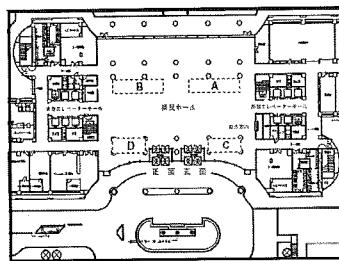
### ○県立博物館広報展

(担当：座霸 泰)

会期：平成17年5月24日（月）～5月28日（金）

会場：県庁1階ロビー県民ホール

（右見取り図のA及びB区域）



#### 【開催趣旨】

県民並びに県庁職員に対して県立博物館を知らしめるとともに、一人でも多くの県民が博物館へ足を運び、より一層の親しみを持ってもらうことを目的とする。

#### 【展示内容】

県立博物館の歴史と活動、収蔵品についてのパネル、企画展のポスター等を製作し展示した。今回は例年よりも展示スペースを拡大し、より多くの写真パネル等を展示し、立体資料として「玉陵石獅子」レプリカ一対を会場に展示した。



#### 1. 県立博物館の歴史と活動

歴史、資料収集・調査研究・展示会・教育普及活動、ボランティア活動、友の会活動、刊行物、沖縄県博物館協会、博物館新館建設

#### 2. 県立博物館収蔵物（展示物）

古生物、自然、考古、歴史、民俗、美術工芸

←会場での展示風景

○天然染料顔料会議第2回大会 in 沖縄  
会期：平成17年6月14日（火）～26日（日）  
会場：企画展示室、講堂

（担当：平川、嵩原）

【開催趣旨】

沖縄県立博物館と恩納村博物館において平成17年6月14日（火）～26日（日）にかけて第二回天然染料顔料会議が行われた。

天然染料顔料会議 Natural Dyes and Pigments Conference（略称 NDPC）とは、環境を考え、地球に負荷のかからない循環型の天然染料顔料の研究・開発、社会一般への普及活動を目的として発足した会議で、染料や顔料の研究者や作家、一般愛好家が集まり、天然資源による色の研究・調査の発表、染料植物・天然顔料の保全、伝統の技法の保存活動、そのための研究発表会、講座、ワークショップ、作品資料展を開催し、地球環境を考えた天然の色の普及活動を展開している。

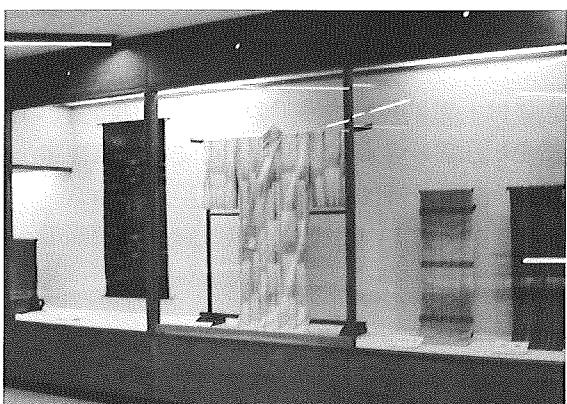
今回の大会には、フランスからドミニク・カルドン氏、カナダからカレン D. カッセルマン氏、オーストラリアからダイ・マックファーソン氏、アメリカからルーファス・デイとカレン・デイ夫妻が参加した。また、グアテマラから日本人の研究家、児嶋英雄氏が参加し、国際色豊かな大会となつた。

【開催内容】

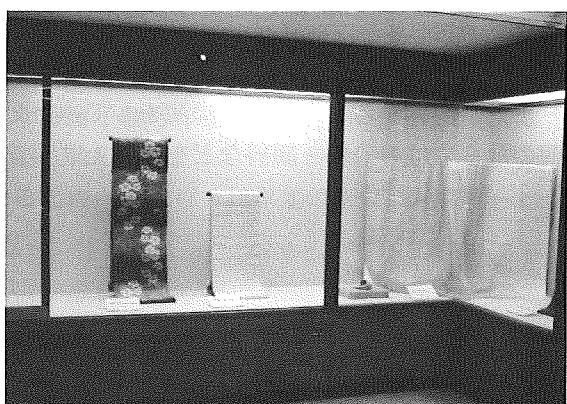
①展示「美ら染め・天然の色」～草・花・土・貝のいろどり～

会期：平成17年6月14日（火）～26日（日）

展示会は、染料顔料会議の会員の作品を中心に地元の作家や作り手の作品、また日常ではありませんじみのない天然染料の展示があり、多くの来館者を魅了した。



展示会場の様子①



展示会場の様子②



交流会



交流会で挨拶をするNDPC事務局牛島会長

## ②講演会と研究発表

日 時：平成17年6月21日（火）午後、22日（水）終日

研究発表：「ケルメスによる染色」ドミニク・カルドン（フランス）

「北アメリカの苔による染色」カレンD.カッセルマン（カナダ）

「沖縄の染織～糸初めに顔料をつかう」 片岡淳 他

ドミニク・カルドン氏は、フランス国立科学研究中心主任研究員で、天然染料に関して幅広く研究があり、特に、2003年に発行された「Le Monde des teintures Naturelles（天然染料の世界）」というフランス語の本は、天然染料の集大成とも言うべき著作である。氏はこの功績により、2003年10月には、第6回 ロレアル 色の科学と芸術賞銅賞を受賞している。この会議を含めてカルドン氏の来日は2004年5月の京都国立近代美術館でのファッションと色彩展での講演に続いて、二回目の来日となっている。今回の講演とワークショップは、カイガラ虫にまつわる内容であった。

カレン D. カッセルマン氏は、地衣類の染色の講演とワークショップを担当。地衣類というのは、変わった植物であるが、4000年以上も前から染料として用いられてきた。マッセル氏はこの地衣類染料に関して25年間、研究に従事してきた。また、テキスタイルデザイナーでも著名で「Lichen Dyes（地衣類染料）」などの著作がある。

中米からは、永年中米の天然染料・顔料について研究している児嶋英雄氏が、マヤブルーに関する研究を紹介。マヤは古くから文明が芽生え、その土器や絵文書に使われているブルーが、有機物であるインジゴと、ある種の粘土鉱物をミックスし、適当な熱を加えること精製することができる、「有機顔料」についての発表を行った。児嶋英雄氏は、「世界不思議発見」に出演されたこともある、在グアテマラの歴史民族学研究家、染織研究家である。最近のエルサルバドルにおける天然藍の復興にも多大の貢献をしている。

また、海外からの参加者で講演をしてい上記のお三人には、恩納村博物館でのワークショップで沖縄のならではの染料・顔料などを取り上げて豊かな自然をピースフルした。



研究発表の様子

## ○企画展「新収蔵品展－平成16年度収蔵資料－」

(担当：久場、田中)

会期：平成17年7月5日（火）～24日（日）

会場：企画展示室

予算額：467,000円

### 【開催趣旨】

企画展「新収蔵品展」は、前年度に寄贈・収集・購入・移管された諸資料を一堂に集め、広く一般公開するとともに、今後の展示や研究等に活用することを目的として実施するものである。

### 【事業内容】

平成16年度に寄贈・収集・購入された諸資料を自然、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野に分類し、博物館2階の企画展示室で展示・公開した。

初日は、開会式が終了した後、寄贈者への感謝状を贈呈し、テープカットを行った。

### 【展示内容】

平成16年度は、寄贈・収集・購入により203件が収蔵された。

分野別で主だったものをみると、自然史分野では、新たに変種として報告されたヤエリュウキュウヒキノカサを含む琉球列島各地で採集された植物標本や昨年の企画展「自然界のエイリアン」で展示した外来植物の標本が挙げられる。

歴史分野では、王国時代から昭和期に至るまでの様々な資料が寄贈された。「末吉筑登之上の言上写」は、王国時代における地方の実態や王府と地方との関係等を知る上で大変貴重な史料である。また、移民関係資料や仲座久雄関係資料等、戦前・戦後の沖縄に関する資料も多数含まれている。

美術工芸分野では、戦前に首里・那覇で着用されていた女性の琉装を体系的に復元した着物類（ウッチャキー、ヒチャジー、ヒーター、リンクワー等）、近世の和歌短冊や壺屋焼等の資料が挙げられる。

民俗分野では、豪華な飾金具を施した帳筆筒や種々の厨子甕等の他に、戦後の復興期に普及した家庭用のミシンやタイプライター等の生活資料が寄贈されている。

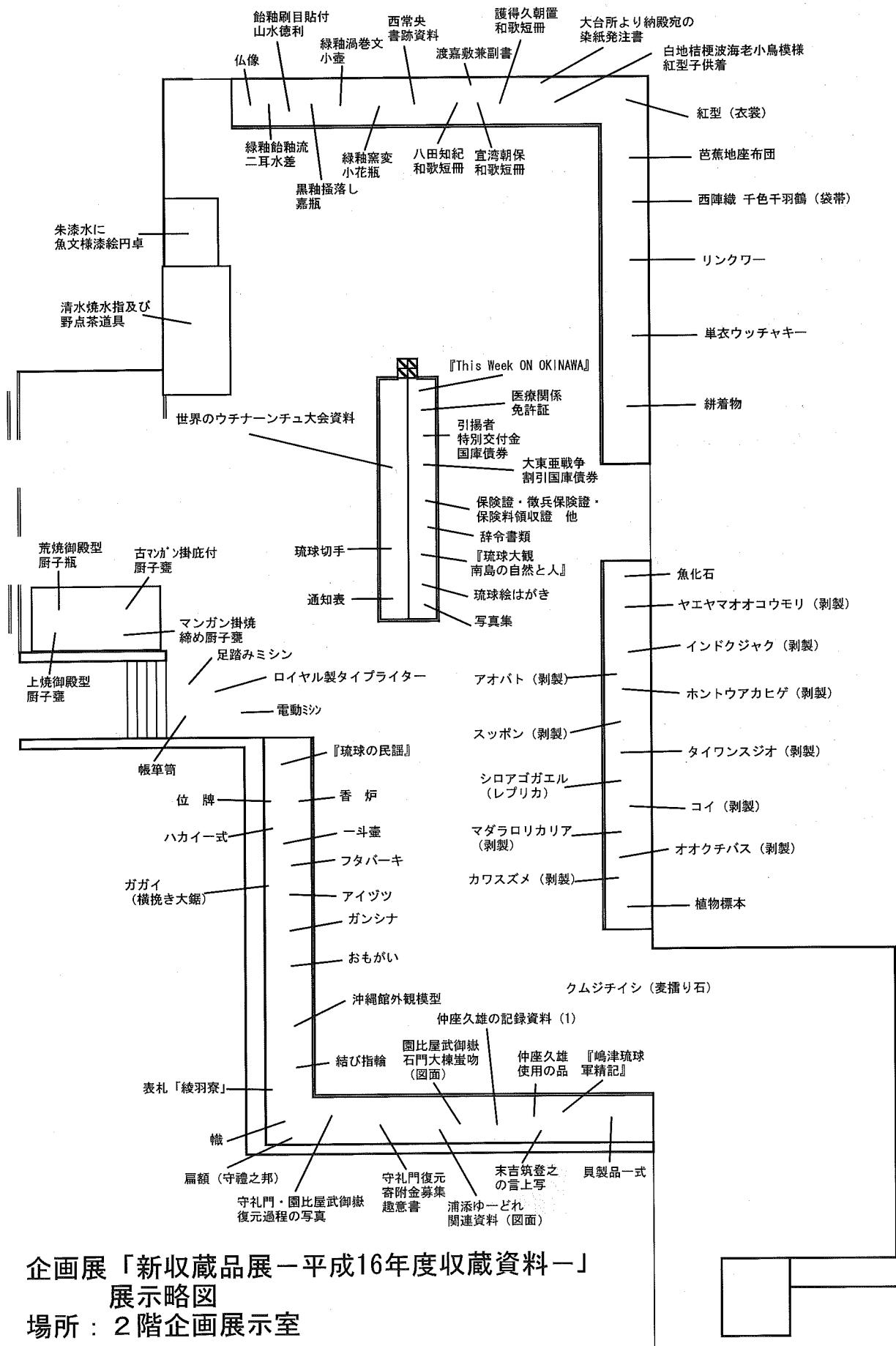
なお、次年度は新館移転に伴い博物館が閉館となるため、平成17・18年度の新収蔵品の展示は新館開館の平成19年度にまとめて実施する予定である。



開会式



感謝状贈呈式



## 企画展「新収蔵品展－平成16年度収蔵資料－」

### 展示略図

場所：2階企画展示室

## ○企画展「わたしの宝もの展」

会期：平成18年3月22日（水）～31日（金）

会場：沖縄県立博物館スロープ及び企画展示室

### 【開催趣旨】

昭和55年に創立した沖縄県立博物館友の会は、平成17年をもって25周年を迎えた。そして、現在の中城御殿跡で約40年間歩んできた沖縄県立博物館も、新館移転にともない、平成18年4月に首里での幕を閉じる運びとなった。長年親しんできたこの地での名残をおしみ、感謝の気持ちと共に最後の盛り上げに友の会も一役買いたいという思いで、この展示会を企画した。

### 【開催形式】

主催：沖縄県立博物館友の会

共催：沖縄県立博物館

### 【関連事業】

#### (1) 講演会

演題：「コレクションの楽しみ」

講師：宮城篤正氏（沖縄民藝協会会長）

日時：平成18年3月25日（土）午後2時～4時

場所：沖縄県立博物館講堂

#### (2) 図録の刊行

展示資料に関しては各出品者の主な資料の写真及び、友の会のこれまでの活動記録を小冊子にまとめ、来館者に無料配布した。

### 【展示内容】

コレクション展示及び、写真で見る友の会のあゆみで構成する。

#### ◎スロープ

##### ・写真で見る友の会のあゆみ

事務局で所有するこれまでの活動の様子の歴史を、スロープにて写真パネルで紹介する。

#### ◎企画展示室

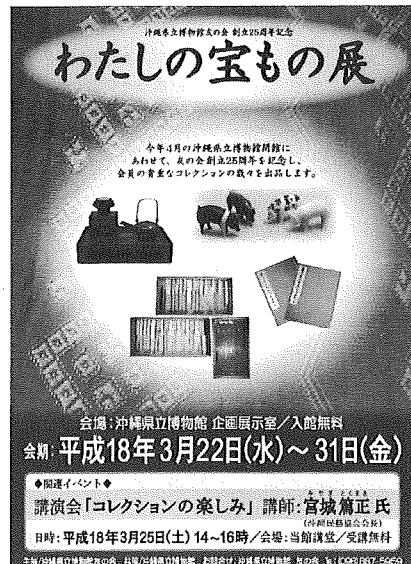
##### ・コレクション展示

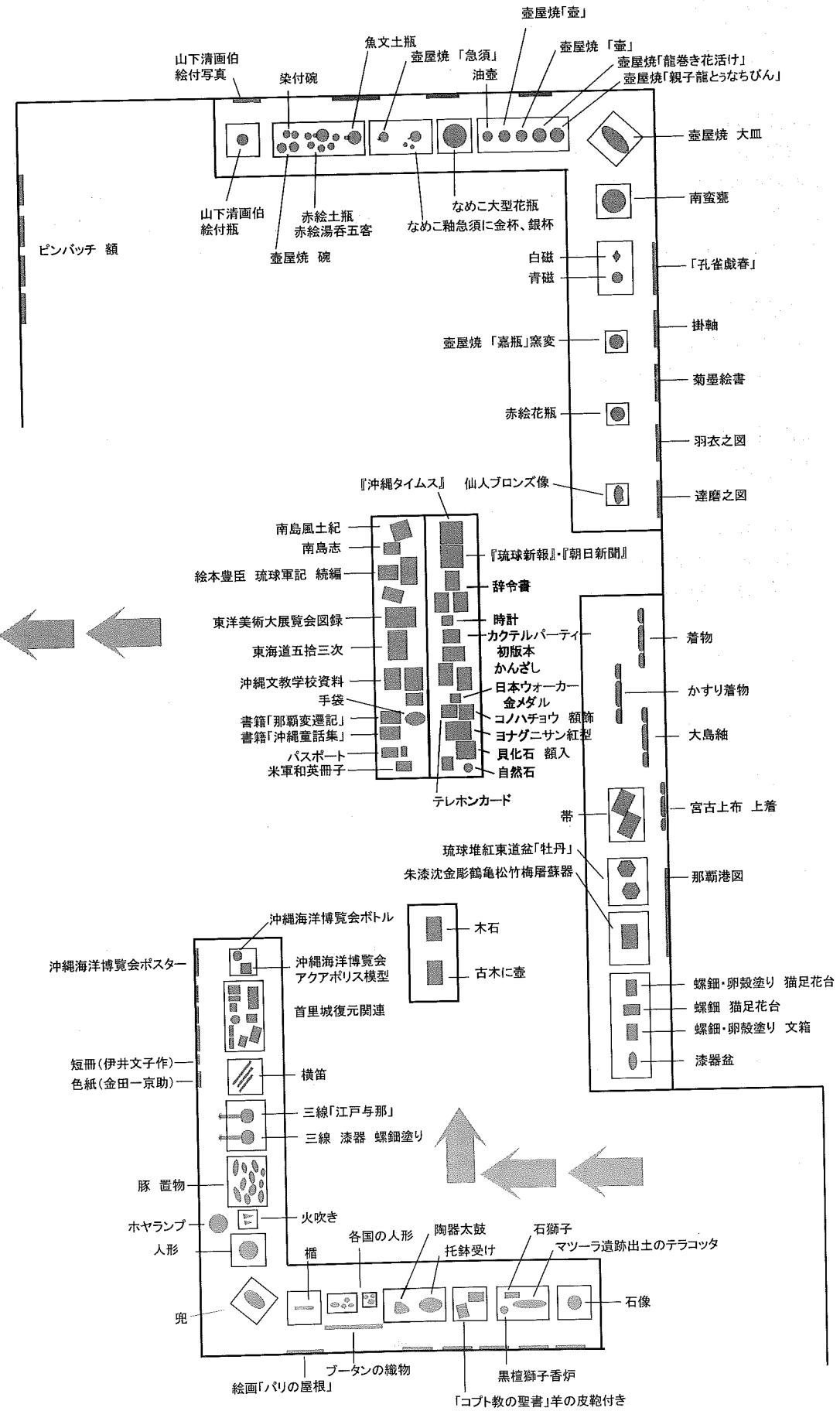
会員の所有するコレクションの中から出品された資料を、「海外研修」「民俗」「歴史」「美術工芸」のコーナーに分けて展示する。また、「ミュージアムショップの移り変わり」のコーナーでは、写真パネル及びこれまでに刊行された会誌『博友』を閲覧用として紹介した。

出品者数：35名

展示総数：約150点

博物館による「ありがとう・さよなら」キャンペーン特別企画に併せた企画展で、大盛況のうちに終了した。





企画展「わたしの宝もの展」展示略図(2階企画展示室)

## ○沖縄県立博物館閉館催事「ありがとう・さよなら」キャンペーン

(担当:伊波、赤嶺、比嘉、平川)

会期:平成18年3月22日(水)~31日(金)の10日間(3月27日(月)の開館も含む)

会場:県立博物館第1・2・3・4展示室、ロビー、スロープ

### 【開催趣旨】

首里の県立博物館は、おもろまちに建設する新館への移転準備のため、平成18年4月1日から休館する。

当館は、終戦直後の昭和21年に設置された「東恩納博物館」(当時の石川市東恩納)と「首里市立郷土博物館」(首里汀良町)を基盤に、昭和28年の合併後、発展しながら今日に至っている。現在の中城御殿跡地に来て40年、前身の首里市立郷土博物館のから数えれば60年の長きにわたって「首里の博物館」として、県民に親しまれてきた。

この度の休館にあたり、長年、現館を利用していた県民に対する感謝の意を表すとともに、県立博物館の活動を改めてアピールし、平成19年秋おもろまちに誕生する新館に、より多くの県民が足を運ぶことを目的としてキャンペーンを実施した。

### 【開催内容】

催事期間中、下記の関連行事を実施した。

- (1) 平成19年秋に開館する新館の内容を紹介した。
- (2) 過去の博物館活動の画像を編集し、随時ロビーにて放映した。
- (3) 沖縄県の文化財等を紹介するため、県立博物館が収蔵する国指定重要文化財7件29点、県指定有形文化財43件57点を、常設展のなかで可能な限り多数展示した。
- (4) 当該期間の入館料を無料とした。
- (5) その他(ボランティア活動を写真パネル等で紹介した。)

### 【総括】

- ・「博物館新館」の広報も併せて開催することにより、多くの県民に博物館新館の周知を図ることが出来た。
- ・博物館におけるこれまでのボランティア活動を紹介し、博物館新館において拡大が予想される教育支援活動への協力を求めることが出来た。
- ・博物館が収蔵する国(7件29点)及び県指定有形文化財(43件57点)の多くを展示することができた。
- ・キャンペーン実施中には、10日間で5,924名の入館者があり、盛況のうちに終了した。
- ・無料入館のため入館者が大幅に増加した。

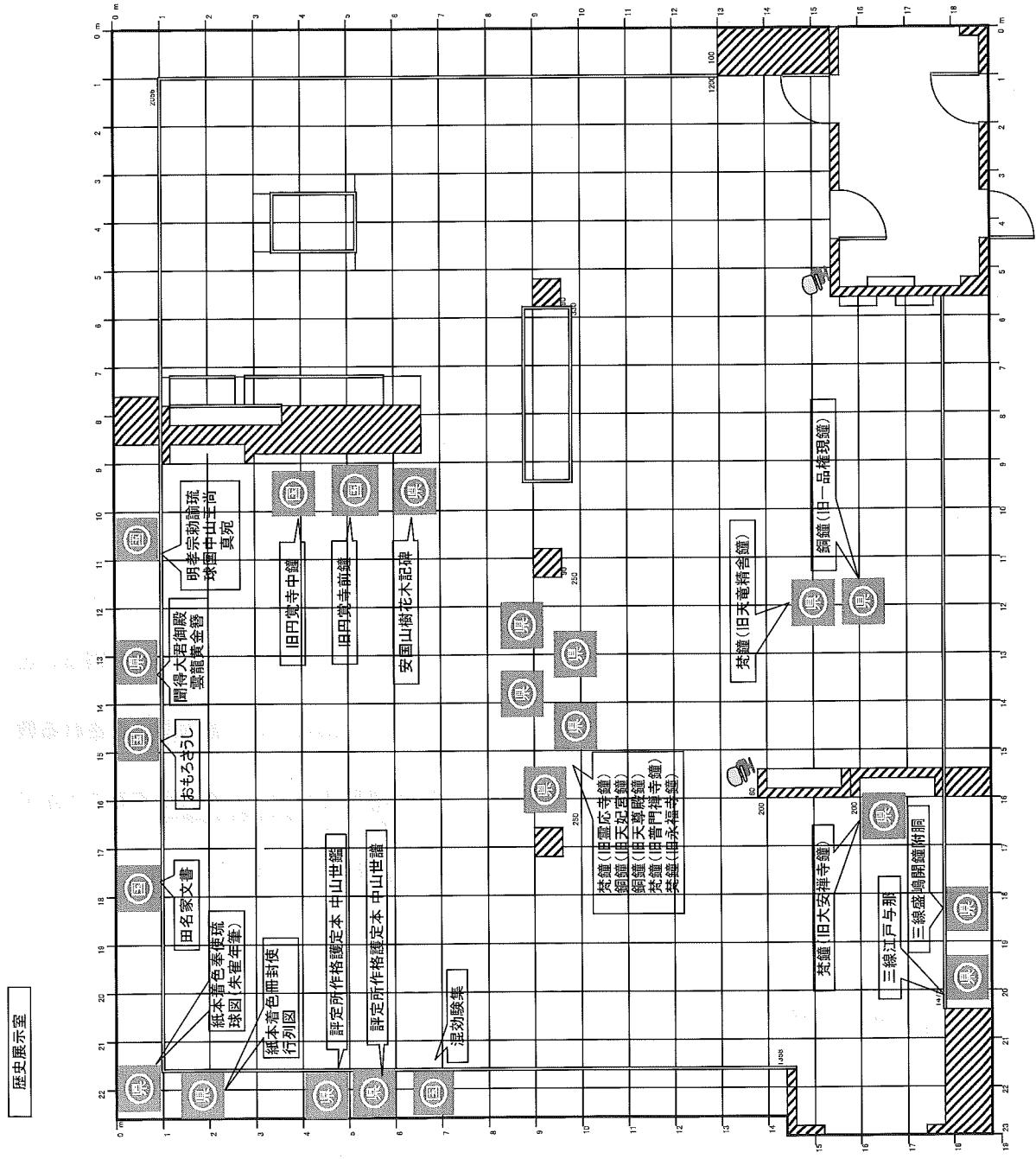


展示風景(美術工芸展示室)



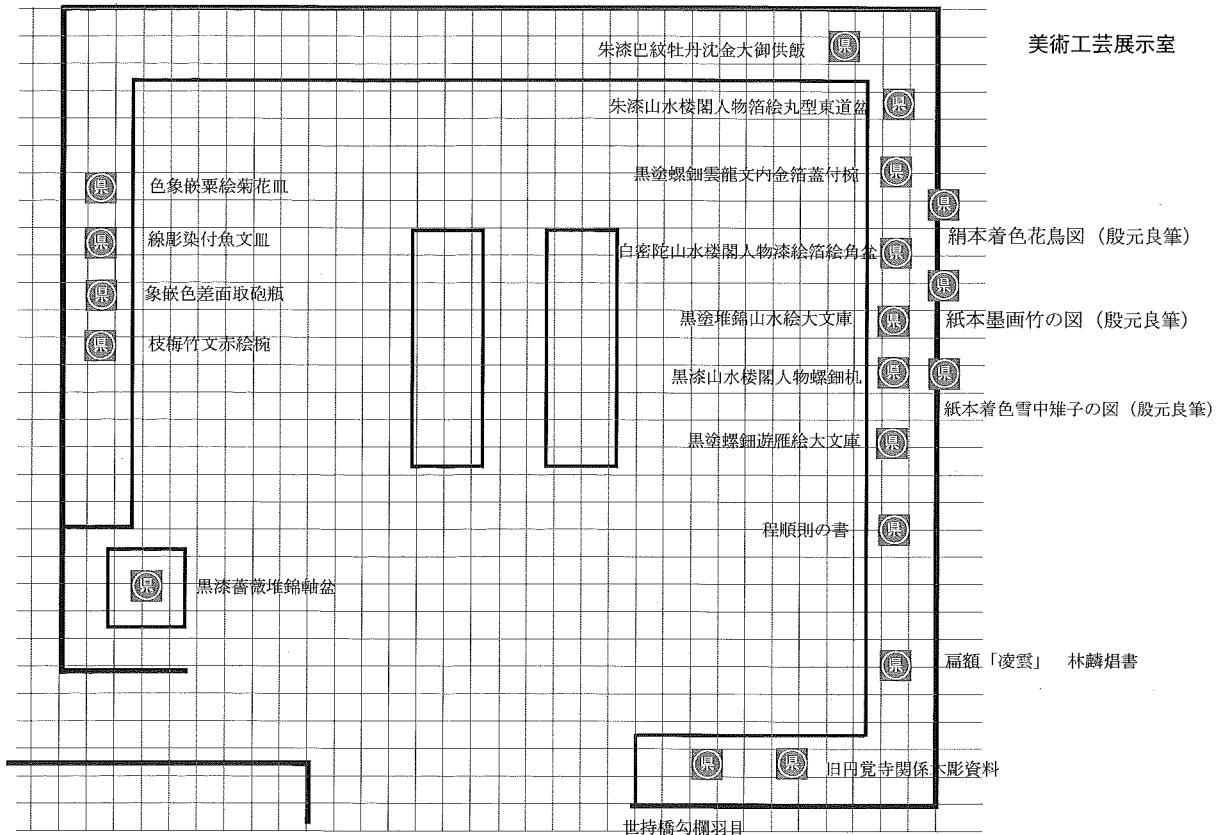
閉館式

歴史展示室

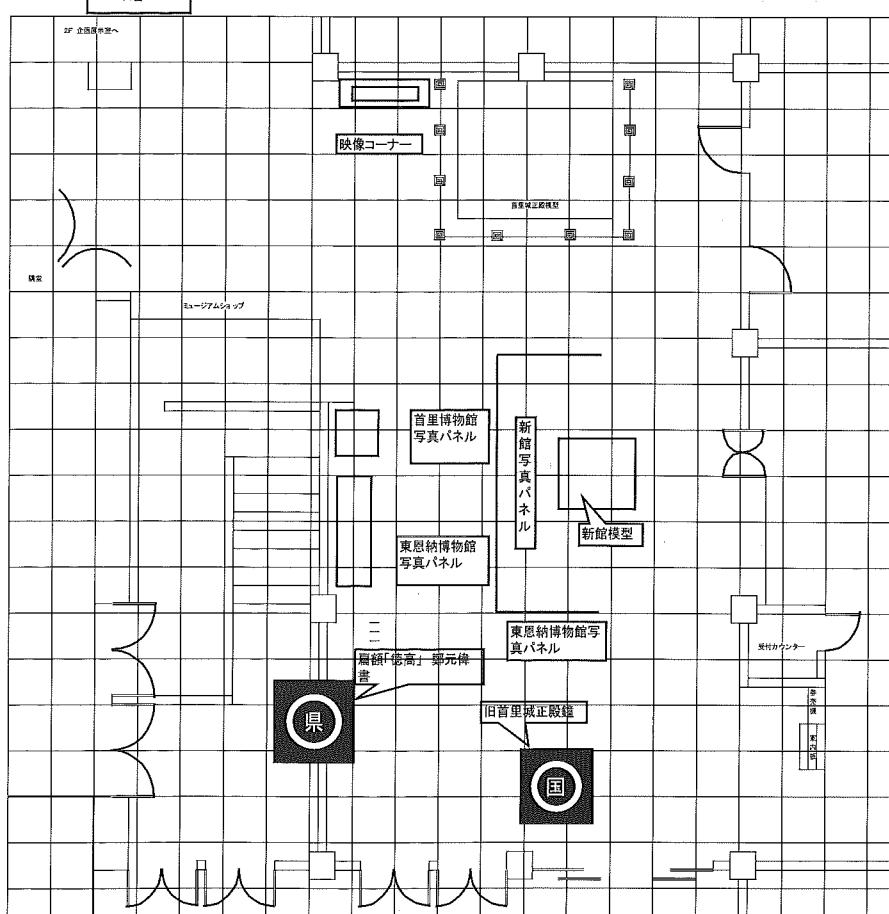


「ありがとう・さようなら」キャンペーン、国指定文化財の展示略図(考古・歴史展示室)

美術工芸展示室



ロビー



「ありがとう・さようなら」キャンペーン、国指定文化財の展示略図  
(上：美術工芸展示室、下：ロビー)

(担当：伊波、仲座)

## 5. 移動博物館

### ○第30回移動博物館

会期：平成17年11月25日（金）～26日（土）2日間開催

開催地：渡嘉敷村

主催：沖縄県立博物館、渡嘉敷村、渡嘉敷村教育委員会

#### 【開催趣旨】

本県は琉球王国時代から独特の文化が創造され、多くの文化遺産が残されている。これらの受け継がれてきた文化は貴重な遺産であり、次代へ保存継承していかなければならない。沖縄県立博物館では、多くの県民が本県の文化を正しく認識できるよう、常設展「沖縄の自然・歴史・文化」の展示を行っている。また、当館にふだん足を運ぶことの出来ない離島や、遠隔地の方々にも移動博物館の展示を見てもらうことによって、文化の広域普及を図っている。第30回目は渡嘉敷村において開催した。

#### 【開催内容】

展示は「大昔の生物」「沖縄の自然、歴史、くらし」の2つの大きなテーマから構成した。また展示会場内と隣接する旅客待合所、ロビーにビデオコーナーを設け、関連するビデオを上映した。さらに、野外観察会、博学連携授業、黒糖づくり体験学習などの関連事業を合わせて実施した。

#### ○展示会

会場：渡嘉敷港旅客待合所

会期：平成17年11月25日（金）～26日（土）2日間、午前9時～午後5時

対象：幼・小・中・高校生、一般

観覧料：無料

#### ○ビデオ放映

大むかしの生物コーナー……………恐竜関連映像

渡嘉敷港旅客待合所ロビー……………戦前の沖縄の記録映像

#### ○野外観察会

日時：平成17年11月26日（土）、午前10時～午後1時

講座名：「渡嘉敷島の自然」

対象：学生、一般

定員：25名

講師：嵩原建二（沖縄県立博物館充指導主事）

#### ○博学連携授業

会場：渡嘉敷小中学校

日時：平成17年11月26日（土）、午後2時～4時

講座名：「化石のレプリカを作ろう」

対象：渡嘉敷村内小中学校児童生徒

定員：100名

講師：座韋 泰（沖縄県立博物館指導主事）

#### ○黒糖づくり体験学習

会場：阿波連小学校

日時：平成17年11月25日（金）、午後1時～3時

講座名：「サトウキビを搾って黒糖を作ろう」

対象：渡嘉敷村内小中学校児童生徒

定員：30名

講師：玉城善哲（沖縄県立博物館充指導主事）

#### 【入場者数】

展示会：515人、博学連携授業：85人、黒糖作り体験学習：63人、野外観察会：28人

合計：691人

## 【展示品目録】

### I、大むかしの生物

#### 《骨格標本》

マンモス、サウロロフス、タルボサウルス頭骨

#### 《化石標本》

アンモナイト石版、大型アンモナイト、サンヨウチュウ、ハロビア、カルカロドン、マンモスの臼歯、マンモスの体毛

#### 《沖縄の化石》

ミヤコノロジカ頭骨標本、リュウキュウジカ角、リュウキュウムカシキヨン角、ミヤコノロジカ角、ミヤコノロジカ下顎骨、ミヤコノロジカ大腿骨、リュウキュウジカ頭骨、リュウキュウジカ下顎骨、リュウキュウジカ頸骨、リュウキュウジカ大腿骨、リュウキュウイノシシ下顎骨、トリドホドンの臼歯

#### 《沖縄産岩石鉱物類》

水晶、アメジスト、ガーネット、方解石、レインボーストーン、港川石灰岩、久米島安山岩、粟国凝灰岩、石垣島センリョク岩、渡嘉敷緑色岩

#### 《写真パネル類》

地質時代区分表、象の進化、リュウキュウムカシキヨン、リュウキュウジカ、ミヤコノロジカ

### II、沖縄の自然、歴史、くらし

#### ◎沖縄の自然

##### 《野鳥剥製標本》

アカショウビン、キジ、カラスバト、カルガモ、キンバト、ゴイサギ、アマミヤマシギ、コノハズク、サンコウチョウ、カンムリワシ、ノグチゲラ、ズアカアオバト、タゲリ、サシバ、セッカ、ヤマシギ、ヤンバルクイナ、リュウキュウヨシゴイ、セイタカシギ、カワセミ、アオサギ、ムナグロ、チュウシャクシギ

##### 《哺乳類剥製標本》

イリオモテヤマネコ、オリイオオコウモリ、ケナガネズミ、イタチ、マングース

##### 《爬虫類剥製標本》

ミシシッピアカミミガメ、スッポン、タイワニスジオ、リュウキュウヤマガメ、セマルハコガメ、アカマタ、ハブ、ヒメハブ、サキシマハブ

##### 《両生類剥製標本》

オオヒキガエル、マダラロリカリ亞

##### 《両生類・魚類液浸標本》

イボイモリ、ホルストガエル、マダラロリカリ亞（幼魚）

##### 《レプリカ》

シロアゴガエル、オガサワラヤモリ

##### 《封入標本》

カダヤシ、グッピー、メダカ

##### 《植物標本》

オキナワウラジロガシのドングリ（種子）、アマミアラカシのドングリ（種子）、イタジイのドングリ（種子）、マテバシイのドングリ（種子）、オキナワウラジロガシ、アマミアラカシ、イタジイ、マテバシイ

##### 《写真パネル》

イリオモテヤマネコ、オリイオオコウモリ、ケナガネズミ、アカショウビン、カラスバト、カルガモ、キンバト、ゴイサギ、アマミヤマシギ、コノハズク、サンコウチョウ、カンムリワシ、ノグチゲラ、ズアカアオバト、タゲリ、サシバ、セッカ、ヤマシギ、ヤンバルクイナ、リュウキュウヨシゴイ、セイタカシギ、カワセミ、アオサギ、ムナグロ、チュウシャクシギ、ミシシッピアカミミガメ、グリーンアノール、スッポン、オガサワラヤモリ、タイワニスジオ、セマルハコガ

メ・ヤマガメ雑種、アフリカマイマイ、マダラトカゲモドキ、オキナワキノボリトカゲ、オキナワトカゲ、ハブ、シロアゴガエル、オオヒキガエル、シリケンイモリ、イボイモリ、ホルストガエル、イシカラガエル、ナミエガエル、ハナサキガエル、マダラロリカリア、メダカ、オオシロアリタケ、ヤエヤマサソリ、外来種についてのパネル

#### ◎沖縄の歴史とくらし

##### 〔先史時代の文化〕

港川人想定復元全身像（復元）、港川人頭骨（複製・具志頭村港川フィッシャー遺跡）、爪形文土器（嘉手納町野国貝塚）、荻堂式土器（嘉手納町嘉手納貝塚）、市来式土器（浦添市浦添貝塚）、大山式土器（宜野湾市大山貝塚）、くびれ平底土器（複製・恩納村熱田貝塚）、尖底土器（うるま市津堅第2貝塚）、渡嘉敷村内遺跡採集資料、骨製品（嘉手納町嘉手納貝塚）、貝製品（うるま市津堅第2貝塚）、石器（石斧、磨石、石皿）、石鏃（糸満市兼城上原第2貝塚）、貝斧（城辺町浦底貝塚）、自然遺物（貝殻・獸魚骨）、貝輪の材料ゴホウラ、ゴホウラ切断見本、ゴホウラ製貝輪（久米島町大原貝塚）、滑石製石鍋（長崎県出土）、カムィヤキの壺（久米島町ヤジャーガマ遺跡）、高麗瓦（浦添市浦添グスク）、天目茶碗（那覇市御物グスク）、青磁碗（うるま市勝連城跡）、青磁盤（石垣市シタダル遺跡）、白磁小皿（石垣市シタダル遺跡）、グスク土器（久米島町ヤジャーガマ遺跡）、染付碗・杯（石垣市フルスト原遺跡）、外耳土器（石垣市平久保遺跡）、円盤状製品（那覇市旧中城御殿跡）、炭化米（久米島町下地原洞穴遺跡）、線刻石板（北谷町採集）

##### 《写真パネル等》

発掘のようす（嘉手納町野国貝塚A地点）、具志頭村港川フィッシャー遺跡（近景）、沖縄原始・古代史年表、沖縄の先史文化、沖縄本島・周辺離島の主要遺跡分布図、層の重なり、貝塚の遺物散布状況、読谷村渡具知東原遺跡（遠景）、貝輪装着人骨（伊是名村具志川島遺跡群）、改葬人骨出土状況（伊是名村具志川島遺跡群）、装身具（貝・骨製品）、イモガイの集積、ゴホウラの集積、貝の道、石器の使用予想図、グスクの性格、勝連城跡（近景）、中城城跡（航空写真）、御物グスク（近景）、具志川グスクの鳥瞰図、首里城跡（正殿跡遺構検出状況）

##### 〔琉球王国の成立と海外貿易〕

##### 《絵画》

渡びん航路図、奉使琉球図（入境登岸）複製、奉使琉球図（冊封宣詔）複製

##### 《古錢類》

鳩目錢（一括）、琉球通宝（円形）、琉球通宝（楕円形）

##### 《勾玉類》

リング1（18個連）、リング2（小勾玉にビーズ付き）

##### 《金工品》

旧首里城正殿鐘（万国津梁の鐘）複製、かんざし

##### 《古文書・典籍類》

『中山世鑑』（巻1・3）（複製本）、『おもろさうし』（巻1・9）（複製本）、渡嘉敷間切阿波連里主所安堵辞令書（複製）、琉球三省並三十六島図（朝鮮琉球全図）

##### 《パネル類》

首里城開園、王統系図、明孝宗勅諭、那覇の市場（ペリー日本遠征記）、琉球国絵図

##### 〔近現代〕

##### 《写真パネル類》

##### ・戦前の沖縄

首里城正殿（鎌倉芳太郎氏撮影）、首里城北殿（鎌倉芳太郎氏撮影）、首里城南殿・番所（鎌倉芳太郎氏撮影）、弁財天堂と天女橋（坂本万七氏撮影）、守礼門（鎌倉芳太郎氏撮影）、尚円王御後絵（鎌倉芳太郎氏撮影）、玉陵（坂本万七氏撮影）、僧侶と士族（バジルホール航海記）、円覚寺仏殿（鎌倉芳太郎氏撮影）、識名園（坂本万七氏撮影）、首里城繼世門外の赤田町（鎌倉芳太郎氏撮影）、サーターグルマ（坂本万七氏撮影）、壺屋風景（坂本万七氏撮影）、糸満の漁業（坂本万七氏撮影）、魚市（坂本万七氏撮影）、木臼造り（坂本万七氏撮影）

・沖縄戦

十・十空襲後の那覇の通堂、嘉手納海岸に上陸した米軍、戦闘中の米軍・至近弾をうける、瓦礫と化した首里教会、亀甲墓を攻撃する米軍、摩文仁の洞窟にひそむ日本兵に降伏を呼びかける、嘉手納村のキャンプに収容された日本兵捕虜、戦い終わって山から下りる避難民

・戦後～現在

収容所内で発行したうるま新報、戦後のヤミ市、戦後の学校と子ども（終戦直後）、第九回沖縄議会の状況－志喜屋知事、中学生と握手するブース高等弁務官、アイゼンハワード統領来沖（琉球政府ビル前）、B52墜落事故、教公二法、主席当選を果たした屋良主席、返還協定調印式をテレビでみまもる屋良主席、通貨交換所風景、ランドサット沖縄諸島写真

[美術工芸]

《絵 画》

進貢船の図、閔帝王

《漆 器》

黒漆鳳凰文螺鈿丸盆、朱漆山水人物箱絵提重

《書 跡》

鄭嘉訓書軸「宿建徳江」、宜湾朝保作「和歌」、魏学賢書茶掛「七言絶句」

《彫 刻》

玉陵石獅子（一对）レプリカ

《陶磁器》

線彫海老文筒型花生、飴釉流渡名喜瓶、三島手からから、彫絵緑流抱瓶、緑釉嘉瓶、壺屋窯異人陶像(異人像)、壇に菊花赤絵碗、素焼獅子置物

《染 織》

麻・浅地八重山布、木綿白地飛鳥に流水蛇籠葵菖蒲文様衣裳（複製）、紺地読谷山花織ティサジ、イタハナシダレ（板花織ティサジ）、久米島紬見本帳

・パネル類

紅型製作パネル、八重山布製作パネル、久米島紬製作工程写真パネル

[民俗]

《アジアの仮面と人形》

仮面1（武人）、仮面2（般若）、仮面3（鬼面）、仮面4（鬼面）、仮面5（髭面）、仮面6（天狗）、仮面7（ひょっこ）、仮面8（アンガマの翁面）、仮面9（インドネシアの仮面）、仮面10（タイの猿面）、仮面11（韓国の面）、ワヤン人形、兵士の冠、マレーシアの刀、人面盾の飾り物、バティツ（冠）附頭型

《民具》

小農具（ヘラ・掘串）、ヒラグエー（平鍬）、タマター（二股鍬）、ミマター（三股鍬）、イシグエー（石鍬）、ビーロー（台湾製米籠）、ブンキー（台湾製粗箕）、チャーキー（台湾製箕）、カンマ（台湾製丸箕）、ガロア（台湾製笊）、ンピア（台湾製苗籠）、ソクリ（韓国製飯櫃笊）、フィリピン製竹籠、マグ（カヤ容器）、ガージィ（カヤ容器）、ウーバーラ（糸籠）、ミーボーキ（丸箕）、アラユイ（粗笊）、バーキ（籠）

《沖縄の祭り・行事紹介》

与論島の十五夜踊り、国頭村奥のシヌグ、国頭村安田のシヌグ、国頭村比地のウンジャミ、伊平屋村田名のウンジャミ（1）、伊平屋村田名のウンジャミ（2）、うるま市平敷屋のエイサー、那覇大綱挽、久高島のイザイホー、久米島の六月ウマチー、来間島のヤーマスプナカ、宮古平良市狩俣のウヤガン、宮古平良市島尻のパント、多良間島の八月踊り、石垣市四箇村の豊年祭、石垣市川平のマユンガナシ、石垣市登野城のアンガマ、与那国島のカンブナカ

[体験コーナー]

クバンヌー、クバガサ、クバオージ、ンブル、バーキ、ティール、ガンシナ、サギゾーキ、オーダー、アダンバサバ、アンツク、オーダー用てんびん棒、着物



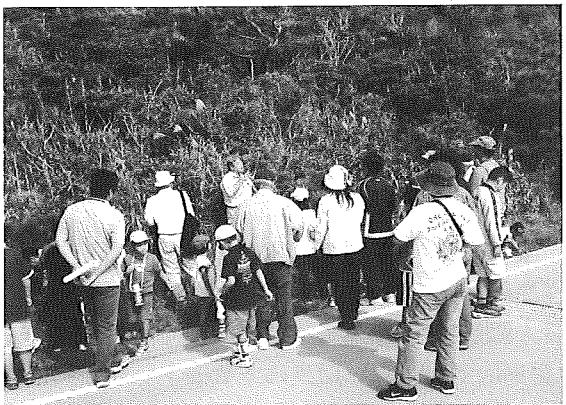
開会式テープカット



展示会見学の様子（自然分野）

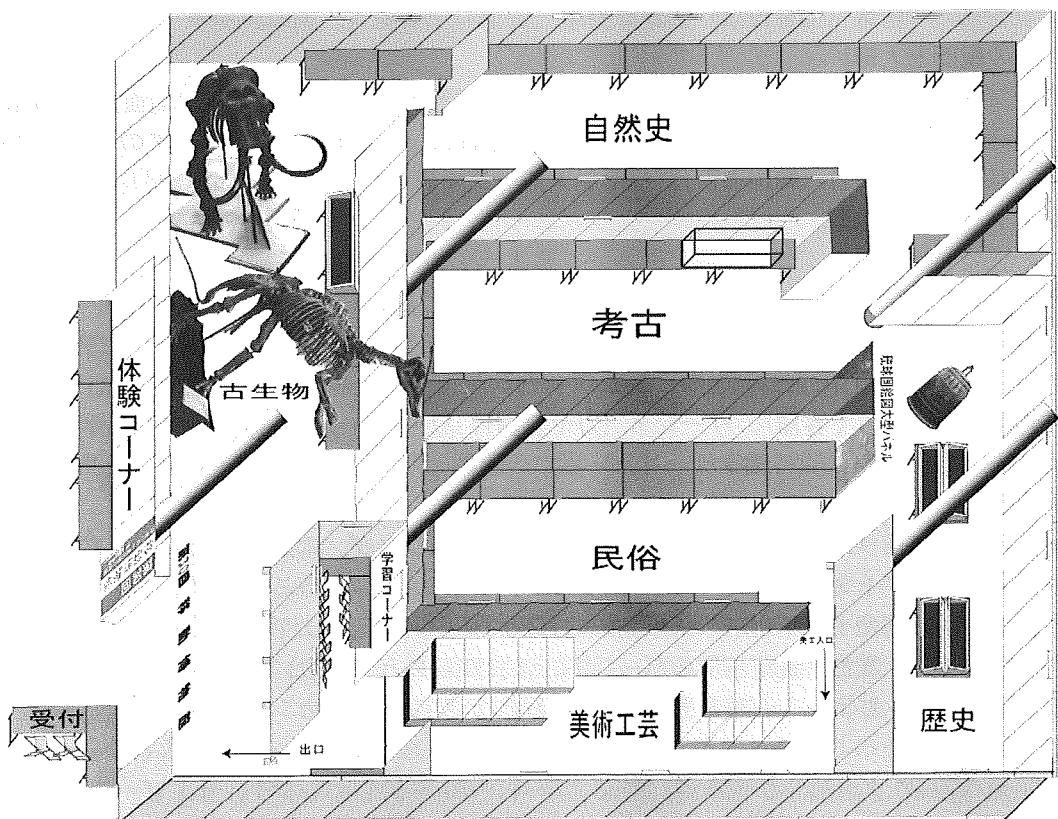


展示風景（考古分野）



自然観察会の様子

【会場略図】



## V. 教育普及活動

### 1. 教育普及活動の概要

(担当：上地弘伸教育普及課長)

本格的な生涯学習時代を迎える博物館に対する県民の関心は日々高まってきている。博物館は資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としているが、同時に来館者の知的文化的な欲求を充足できるよう地域における文化発信基地としての役割も併せ持っている。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者それぞれがいろいろな目的を持って来館している。

このような来館者の要求により多く応えていくため、当館では今年度も多くの博物館事業を実施してきた。平成17年度の特徴としては、一つめに総合的な学習の時間の導入にともなう体験学習用道具の貸し出し業務や指導者のための体験学習講習、小学校4年生による社会科学習の一環としての民具体験学習が挙げられる。二つめには、文化講座「空手道伝来の謎を解く」「中城御殿の美術工芸」などの講座に多くの受講者から好評をいただいた。三つめには、博物館体験学習教室での教育関係者や一般成人を対象にした「総合的な学習のための豆腐づくり」「総合的な学習のための黒砂糖づくり」では教師のみならず多くの地域指導者の受講が目立ったことが挙げられる。夏休み期間に開催した「化石のレプリカをつくろう」では親子で恐竜の爪やアンモナイトのレプリカ作りに多くの受講者が詰めかけた。日頃から地域の人々の興味や関心に目をむけながら、沖縄の歴史・文化・自然に関する情報をこれからも発信していきたい。

教育普及活動の面では、多くの県民が博物館を身近なものとして利用できるよう多彩な事業を計画し実施していきたい。

◎平成17年度における教育普及課の事業への参加総数は、2,465名

以下、今年度に実施した教育普及活動を列挙し、その主な内容について詳述する。

1. 博物館文化講座の実施（第357回～第364回）
2. 第30回移動博物館（渡嘉敷村）の開催
3. 博物館体験学習教室の実施
4. 博物館シアターにおける映画の上映
5. ボランティア活動事業の実施
6. ホームページの作成
7. 博物館を利用する団体への研修
8. 来館者への展示解説
9. ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だよりの編集・発行
10. 学校による博物館学習のための事前打ち合わせ
11. 児童生徒の団体見学へのオリエンテーション
12. 児童生徒への学習相談
13. 団体見学者へのビデオサービス
14. マスコミ等への博物館事業の広報活動
15. 学校や地域等への体験学習用具の貸し出し
16. 博物館友の会への協力

## 2. 博物館文化講座

(担当: 比嘉孝子)

「博物館文化講座」は、当博物館の展示内容と関連する“沖縄の自然・歴史・文化”などについて、分かりやすく楽しい学習活動を展開することを目的に昭和49年から開始した事業である。開講は、毎月1回～2回、土曜日もしくは日曜日の午後2時～4時（2時間）とし、当博物館講堂にて行っている。また、年に数回の野外講座も実施している。

平成17年度は、各分野に関連するテーマで歴史2回、考古2回、美術工芸2回、自然1回、民俗1回、以上全8回の講座を実施した。講座内容は、講師の体験や研究エピソードを交えた講演形式を主としており、それに加えて実技実演や当館収蔵の資料解説等を行った。各講演終了後には講師と受講者間における質疑応答の場をもうけ、受講者にとって楽しく理解しやすい学習内容となるよう図った。全講座のうち1回は、野外講座を実施した。

また、平成9年度から始めた「受講者アンケート」も継続して実施・集計し、毎回の講座に反映している。この集計結果は、今後の当博物館(新館)における文化講座内容を決定する際に受講者が充実した講座内容を快適に受講していただけるよう活用されるものである。今後も受講者アンケートによる調査を継続していく必要がある。

### ・第357回～364回文化講座のご紹介

#### ○第357回 「家譜に見る絵師の世界」※美術工芸分野

講 師：平川信幸（沖縄県立博物館学芸員）

日 時：平成17年5月21日（土）午後2時～4時（2時間）

場 所：沖縄県立博物館 講堂

内 容：琉球王府時代に活躍した絵師たちの世界を家譜資料をとおして解説。当館所蔵の絵画資料「雪中雉子の図」等数点を講座会場に展示し、受講者は講師の解説を受けながら鑑賞した。

受講者数：97名

#### ○第358回 「近世琉球の社会生活史」※歴史分野

講 師：豊見山和行（琉球大学教授）

日 時：平成17年6月18日（土）午後2時～4時（2時間）

場 所：沖縄県立博物館 講堂

内 容：近世琉球の那覇港内外において、漁労や海面利用を巡って発生した紛争や陳情などから民衆生活史の諸相を明らかにする講話。当館収蔵の歴史資料「琉球国惣絵図」より数点を講座会場に展示し、受講者は講師の解説を受けながら鑑賞した。

受講者数：87名

#### ○第359回 「沖縄出土の輸入陶磁器」※考古分野

講 師：新垣 力（教育庁文化課専門員）

日 時：平成17年7月16日（土）午後2時～4時（2時間）

場 所：沖縄県立博物館 講堂

内 容：これまでの発掘調査で得られた外国産の陶磁器をとおして、12世紀から16世紀にかけて東アジアや東南アジアと活発な交易を行い独自の文化や歴史を育んできた沖縄の状況を紹介・解説した。

受講者数：62名

○第360回 「空手道伝来の謎を解く～首里手・那霸手・泊手の源流～」※民俗分野  
講 師：金城昭夫（福建少林寺唐手道宗家、日本武当太極拳本部会長、太極武道館館長）  
日 時：平成17年9月17日（土） 午後2時～4時（2時間）  
場 所：沖縄県立博物館 講堂  
内 容：首里手・那霸手・泊手・上地流・古武道の伝来を講演と演武をおして解説。講師とその弟子4名による各流派の演武（少林三戦…首里手の源流基本型／白鶴三戦…剛柔流上流の源流基本型／少林地術三戦…下段の基本型／綱鶴三戦…柔法の基本型／少林三戦棍…沖縄棒術の源流基本型）が実演された。  
受講者数：130名

○第361回 「サンゴ礁：生物が創り出す美しい世界」※自然分野  
講 師：西平守孝（名桜大学教授）  
日 時：平成17年10月15日（土） 午後2時～4時（2時間）  
場 所：沖縄県立博物館 講堂  
内 容：健全なサンゴ礁には多くの生物が住みつき、バランスのとれた美しい生態系を創り出す。その環境の仕組みについて、分かりやすく解説した。サンゴの養殖は可能か、講師の研究調査を多数の画像とともに紹介した。  
受講者数：65名

○第362回 「沖縄・博物館ものがたり」※歴史分野  
講 師：園原 謙（文化施設建設室博物館班主任専門員）  
日 時：平成17年11月3日（水） 午前10時～午後12時（2時間）  
場 所：沖縄県立博物館 講堂  
内 容：沖縄県内に所在する博物館等施設の成り立ちについてふれ、「博物館」の果たすべき役割とはなにかを沖縄県立博物館の歴史をたどりながら解説した。同館の新館移転事業に携わる一員の視点から分かりやすく解説した。  
受講者数：65名

○第363回 「グスク巡りー北部地区ー」※考古分野  
講 師：當眞嗣一（前 沖縄県立博物館館長）  
日 時：平成17年12月17日（土） 午前9時～午後5時（8時間）  
場 所：沖縄本島北部地区（名護城跡…名護市／今帰仁城跡…今帰仁村／今帰仁村歴史文化センター…今帰仁村）  
内 容：名護城跡、今帰仁城跡、今帰仁村歴史文化センターを巡検し、グスクの構造の特徴などを詳しく解説した。各グスクの敷地内を解説を受けながら徒歩でめぐる体験形式をとるが、目的地まで移動するバス車内においても、道中に点在する各グスクを講師が解説し、受講者との活発な質疑応答が繰り広げられた。  
受講者数：34名（野外講座のため定員40名）

○第364回 「中城御殿の美術工芸」※美術工芸分野  
講 師：眞栄平房敬（那覇市文化財臨時審議委員）  
日 時：平成18年1月21日（土） 午後2時～4時（2時間）  
場 所：沖縄県立博物館 講堂  
内 容：沖縄戦で消失した中城御殿所蔵の美術工芸品のうち、写真等の記録に残されていない品について、実見した講師の記憶をもとに書き起こした図（龍文彫縁飾金箔八角扁額／星月方位板／琉球国王の向龍頭型黄金簪／琉球王妃の鳳凰型黄金簪／世子の牡丹花型黄金簪など）を交え、具体的に解説した。また、現存する工芸品については、『沖縄文化の遺宝』（鎌倉

よし た ろう  
芳太郎 著／1982年岩波書店発行) の記録写真を紹介しながら、その正しい呼称や実生活における使用法について詳しい説明を行った。当時の中城御殿を実見した講師による貴重な講話であった。

講座会場には、中城御殿にまつわる当館所蔵の美術工芸資料(御籠飯／龍蝶燭金花の木彫残片など)や歴史資料(御玉貫／聞得大君金簪など)を数点展示し、講師の解説のもと受講者が鑑賞した。

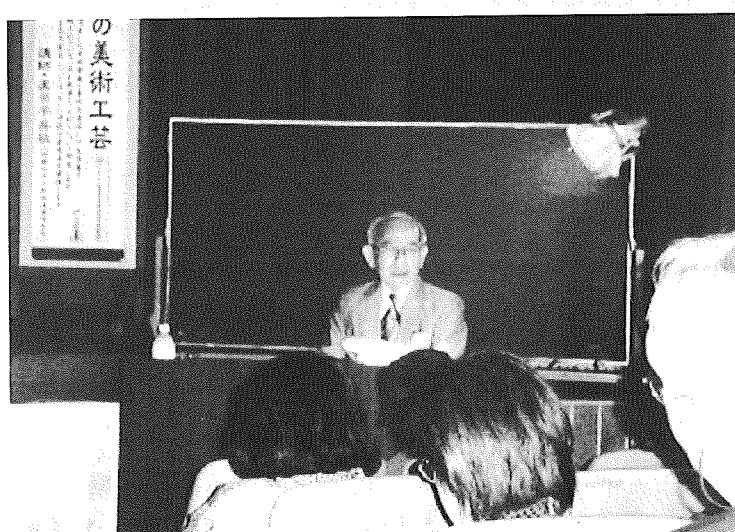
受講者数: 150名

※平成17年度 受講者総数: 690名

▼文化講座風景



◀金城講師の弟子による迫力の空手演武に息をのむ受講者  
琉球に空手が持ちこまれた経緯が解説された。  
(第360回「空手道伝来の謎を解く～首里手・那覇手・泊手の源流～」より)



◀実見した中城御殿の日常生活を分かりやすく講話して下さった眞栄平講師  
つめかけた受講者からは質疑が絶えなかった。  
(第364回「中城御殿の美術工芸」より)



今帰仁城跡の構造を巡検する講師と受講生  
(第363回「グスク巡りー北部地区ー」より)

### 3. 衛生通信を利用したエル・ネット「オープンカレッジ」

(担当: 比嘉孝子)

主 催: 文部科学省

受信場所: 沖縄県立博物館講堂

#### 【主旨】

この事業は、教育・文化・スポーツ・科学技術に関する情報を直接全国に発信する文部科学省の教育情報衛星通信ネットワークを使用して、文部科学省主催のもと平成11年度から実施してきた。

近年、衛生通信ネットワークよりも各家庭で簡単に利用できるインターネットの需要が増しており、当館に寄せられる上映の申し込みも減少している。平成17年度は申し込みが無かったため事業を運営しなかった。文部科学省によると需要の少ない衛生通信ネットワークから、各番組の再放送を配信するに便利なインターネットに切り替える方針であるため、当館は平成17年度をもって文部科学省に契約解消の手続きをした。

### 4. 博物館シアター

(担当: 伊波一男)

映像や音響をとおして、郷土文化と世界の芸術文化を、広く県民に紹介するために平成6年度から実施している事業である。

自然、歴史、民俗、美術工芸などをテーマにした映像、および芸術文化をあつかった映像等の映写会を内容とし、県立博物館講堂において午前10時と午後2時の2回上映を実施している。平成17年度は、9シリーズ15本の映画を上映した。年間の入場者総数は、1,384人であった。

シリーズ名と上映内容は以下のとおりである。

#### 【子供の日映画館】

第71回 期 日: 平成17年5月7日(土) 入場者: 130人

映 画: 安寿と厨子王丸

内 容: 父を失い母とも生き別れた厨子王丸が成人し母と再会する、森鷗外の名作山椒大夫などで広く知られた作品のアニメ映画

#### 【平和について考える】

第72回 期 日: 平成17年6月11日(土) 入場者: 102人

映 画: 沖縄戦未来への証言

内 容: 沖縄戦とは何だったのか? 1フィート運動の会企画製作フィルム上映

### 【終戦60年特別映写会】

第73回 期日：平成17年6月19日（日） 入場者：167人

ビデオ：終戦直後の沖縄の人々

内容：終戦直後の沖縄の人々を捉えたアメリカ軍撮影の映像の上映とビデオ所有者の玉城朋彦氏の映像解説

### 【映画で語り継ぐ昭和】

第74回 期日：平成17年7月2日（土） 入場者：200人

映画：ホタル

内容：元特攻隊員とその妻の戦後の物語を通して、昭和の時代を考える映画

### 【夏休み子ども映画館】

第75回 期日：平成17年8月6日（土） 入場者：274人

映画：象のいない動物園

内容：動物園の象までもが犠牲になった戦争、そして戦後の動物園に再び象がやってきます。

### 【沖縄伝統工芸の世界】

第76回 期日：平成17年9月3日（土） 入場者：71人

映画①：壺屋の陶器～金城次郎～

内容：50年の歳月を焼物一筋にかけた金城次郎氏の土と火の芸術を紹介する。

映画②：宮古上布カラービースタ 27分

内容：女達の血と汗によって織られた宮古上布の製作過程を紹介する。

### 【映像で見る戦前の沖縄】

第77回 期日：平成17年10月1日（土） 入場者：229人

映画：琉球の風物・琉球の民藝・沖縄・海の民など、白黒16mフィルム4本

内容：県立博物館収蔵の貴重なフィルム、戦前の沖縄を捉えた映像4本の上映

### 【沖縄伝統芸能の世界Ⅰ】

第78回 期日：平成17年11月5日（土） 入場者：67人

映画①：組踊「花壳の縁」

内容：昭和42年琉球政府文化財保護委員会企画・監修の記録映画

映画②：組踊「孝行之巻」

内容：昭和47年琉球政府文化財保護委員会企画・監修の記録映画

### 【沖縄伝統芸能の世界Ⅱ】

第79回 期日：平成18年1月7日（土） 入場者：144人

映画①：御冠船踊

内容：昭和42年琉球芸能団の国立劇場公演（1月26～29日）の様子の記録映画

映画②：組踊「二童敵討」

内容：昭和47年琉球政府文化財保護委員会企画・監修の記録映画

## 5. 博物館体験学習教室

(担当：玉城善哲)

博物館体験学習教室の事業は、学校週5日制に伴う児童・生徒の自主的な活動を支援するための新規事業として、平成5年度から開設してきた。平成5年度から平成12年度までの8年間は、「子ども体験学習教室」の事業名で、小学校4年生以上の親子を対象とする体験学習であった。平成13年度からは子どもたちの興味関心だけでなく県民のニーズも勘案した体験活動として、受講対象者を親子だけでなく教育関係者や一般まで対象枠を拡大し、事業名も「博物館体験学習教室」に改め、異年齢・異世代が交流し、生涯学習を支援する事業として位置付けるまでに発展してきた。

### ○「石うすを使って豆腐をつくろう」

講 師：玉城善哲（沖縄県立博物館指導主事）

期 日：平成17年5月28日（土）

場 所：県立博物館中庭

参加者：63名（教育関係者・児童生徒・一般対象）

内 容：本講座は、学校現場の「総合的な学習の時間」や家庭・地域における学習活動を支援する体験講座として、教育関係者や一般父母を対象にして実施した。石うすをまわして呉汁を作る体験、呉汁を布袋でこしとる体験、苦汁と打ち水を打つ体験、ゆし豆腐づくりの体験、箱詰め体験等をして美味しい島豆腐をつくることができた。



ガンバレ豆ひき



島豆腐づくり

### ○「竹で民具をつくろう」

講 師：津嘉山寛喜（北谷竹細工主宰）

期 日：平成17年6月25日（土）

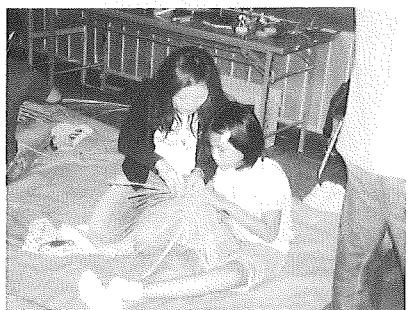
場 所：県立博物館講堂

参加者：36名（児童生徒・一般対象）

内 容：バーキづくりは、材料となる竹取り、皮むき、竹割り、肉取り、乾燥等の時間を必要とするため、当日は底編みが出来上がっている状態から始めて、小型バーキ（直径25cm）の縦芯と横芯に曲げ癖をつくりながら編み込んでいく体験をした。バーキ胴部の立ち上げに慣れるまでは大変であったが、時間が経過するとともに要領を体得し、受講生全員が形の整った出来映えのいいバーキをつくることができた。



お父さんとバーキづくり



お母さん教えて！

### ○「化石のレプリカをつくろう」

講 師：座覇 泰（沖縄県立博物館指導主事）

期 日：平成17年8月13日（土）・14日（日）

場 所：県立博物館講堂・中庭

参加者：207名（児童生徒対象）

内 容：本講座は児童生徒を対象にした夏休みの体験学習教室のこともあり、2日間で親子207名が受講した。多数の受講生を受け入れる関係から、当日の講座を支援する博物館ボランティアにも事前にレプリカづくりの学習会を実施した。粘土での型どり学習、石こうの流し込み学習、石こうの整形、着色等で恐竜の爪やアンモナイトのレプリカを仕上げることができた。



石こうの流し込み



好きな色で仕上げるぞ

### ○「はりこのおもちゃをつくろう」

講 師：豊永盛人先生（玩具 roadworks 主宰）

期 日：平成17年10月29日（土）

場 所：県立博物館講堂

参加者：23名（児童対象）

内 容：張り子づくりの全工程は、粘土の練り合わせ、粘土での原型づくり、原型への紙張り、型抜き、とのこ塗り、下地への着色、絵付け等の工程がある。全工程を体験するとなると3～4日間を要するため、最終工程である「絵付け」を体験した。ウツチリクブサー（起き上がり小法師）の下地加工済みの原型を受け取った受講生は、色づかいや描写によって様々な表情のある自分だけの「ウツチリクブサー」を作ることができた。



お母さんがんばってね



上手にできたね

### ○「木の実でおもちゃをつくろう」

講 師：上運天賢盛先生（野山を愛する会々長）

期 日：平成17年11月19日（土）

場 所：県立博物館講堂

参加者：32名（児童対象）

内 容：講座当日は博物館ボランティアや講師の所属する「野山を愛する会」の御支援があり、受講生にはマンツーマン体制で体験して頂いた。クリスマスが近いこともあって、身近にある木の実を使ってクリスマスの飾りを作ることにした。ソテツの実を工夫することによって出来るアンパンマンのサンタクロースや松ぼっくりのクリスマスツリーを作り、楕円形に切断したグワバの台座に飾り付けて仕上げていった。



にぎやかな講座風景



お父さん上手！

### ○「サトウキビをしぶって黒糖をつくろう」

講 師：玉城善哲（沖縄県立博物館指導主事）

期 日：平成18年1月28日（土）

場 所：県立博物館

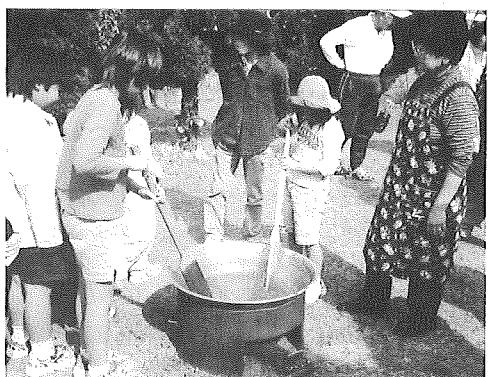
参加者：60名（教育関係者・一般対象）

内 容：当講座は、学校現場での総合学習や地域の学習活動をサポートする講座として実施した。

サトウキビしぶり機の操作、不純物のこしとり、庶汁の性質検査、アクとり、石灰の入れ方と分量の調整、攪拌方法、加熱の調整、濃縮汁の見方や加熱終了のタイミング、冷却方法等を体験することができた。原料となったサトウキビは當眞嗣一氏（前博物館長）の所有するきび畑から農林15号を無償提供して頂いた。当日は小中高等学校の教諭や地域子ども会の指導者、親子が参加し、講座中盤には含密糖工場での黒糖づくりやサトウキビ栽培のビデオ学習もしながら香ばしくておいしい黒糖をつくることができた。



サトウキビの汁すごい！



もうすぐ黒糖のできあがり！

## 6. ボランティア活動

(担当：上地弘伸教育普及課長)

予算額：170,000円

沖縄県立博物館におけるボランティア活動は、平成5年に策定した「沖縄県立博物館ボランティア活動」にもとづき進めてきた。平成17年は、5月に博物館ボランティア総会にて役員体制を強化し、また各月の定例のボランティア運営委員会で年間の事業内容を確認しながら事業を実施してきた。

博物館においては、ボランティア登録更新希望するものについてボランティアの登録を受け入れてきた。本年度は、男24名 女41名、計65名の登録があった。

今年度の活動の中で特徴的なことは、小学校4年生の民具体験学習と民俗展示室での調べ学習の活動支援に延べ224名の参加があったこと、また閉館特別記念展「柳宗悦の民藝と巨匠たち展」の支援活動に延べ87名の参加があったことである。

ボランティアの主な活動としては、新聞等の資料整理、博物館体験学習活動の支援、展示解説、民具体験学習の支援、学校団体見学時の解説補助、企画展・閉館記念特別展における展示室対応、博物館新館に向けてのボランティア活動のあり方等の学習会、などを行ってきた。

年間をとおしてのボランティア活動には、延べ753名の活動支援があった。



民具体験を支援するボランティア



レプリカ作りを見守るボランティア



盲学校の生徒へ鳥の剥製を説明



伝統の雛人形作りを学習

## 7. 支援活動

(担当：上地弘伸教育普及課長)

### ◎団体への学習支援

生涯学習時代を迎える、郷土の歴史や文化、自然に対する関心は児童生徒のみならず多くの階層にまたがってきている。そのためそれぞれのニーズに対応した形で研修を進めていくことが課題となってきた。

#### 1. 小中学校への取り組み

- ・小学校の児童に対しては、見る・触る・体験するの五感を活用した学習を展開するため、とりわけ4年生を対象とする資料などを収集し、学習で活用してきた。
- ・小学校4年生の社会科の学習で博物館学習や民具体験学習が定着してきた。
- ・暮らしの道具を使うなかから学習課題等について理解が深まるよう取り組む。
- ・小学校4年生の社会科学学習の授業で、58団体延べ4,711名が博物館を利用した。
- ・三転式キビ搾り器・豆腐づくり用石臼の借用を希望する団体が学校から地域まで広がりをもつようになってきた。
- ・中学校の生徒は「総合的な学習の時間」を活用し、博物館学習に取り組む学校が増えている。
- ・西崎中学校3年生29名が選択授業で歴史学習や松城中学校1年生130名、西崎中学校2年生216名が博物館学習で来館した。

#### 2. 高等学校への取り組み

- ・「総合的な学習の時間」の学習に向けた取り組みにおいて、沖縄県立南風原高等学校1年生283名や那覇国際高等学校1年生400名、南部農林高等学校2年生32名、辺土名高等学校1年生101名が博物館学習で見学したり、浦添工業高等学校2年生31名が歴史展示室での課題学習で来館した。
- ・県外高校生の博物館学習は、班別・テーマ別学習の形態を取るようになってきており、博物館の担当者によるコーディネイトにより対応した。
- ・筑波大学附属盲学校高等部の生徒が民具体験学習、自然史展示学習で来館し、ボランティアが支援した。

#### 3. 企業等による博物館研修

- ・沖縄県退職女性教育管理職の会の皆さんのが講堂でビデオ視聴に対応した。

#### 4. デイ・サービス事業や老人会・婦人会の活動の一環としての博物館来館

- ・デイ・サービスの一環として来館される団体も多くなった。
- ・百名老人会、大里村老人会や南風原町老人会など地域の団体見学も増えている。
- ・幼稚園児や保育園児などの見学も増えている。
- ・大宜味村家庭学級の皆さんのが博物館見学で来館し、ボランティアが支援した。
- ・具志頭村長毛老人会、与那原町板良敷老人会の講堂で沖縄関係ビデオの視聴に対応した。

#### 5. 矯正施設の児童生徒の見学受け入れ

- ・矯正施設の生徒が博物館見学で来館した。

## VI. 博物館学芸員実習

本館では昭和44年に最初の学芸員実習生を受け入れ、毎年申し込みがあるたびに実習生を受け入れてきた。その後、平成6年度に沖縄国際大学で学芸員養成課程の講座が開設され、平成7年度に琉球大学、平成8年は県立芸術大学でも同科目が開設されたことに伴い、それぞれの大学から実習生を受け入れてきた。また、県外大学からの実習生については、地元出身の学生を対象として、受講生の総数を勘案しながら受け入れている。

今まで各大学ごとに実習を実施してきたが、当館の施設の狭隘と事業などの関係から平成13年度からは、年2回とし、各大学ごとの枠をはずして行った。平成17年度は、沖縄国際大学12名、琉球大学10名、沖縄県立芸術大学2名の他に成蹊大学、駿河台大学、桜美林大学、京都造形芸術大学、大阪芸術大学、宮崎大学、酪農学園大学から各1名づつの計31名を受け入れて実習を行った。

実習した科目と指導学芸員、及び実習期間と実習生は下記のとおりであった。

### 1. 実習科目と指導学芸員

- |                                      |               |
|--------------------------------------|---------------|
| (1) 博物館の管理運営(関係法規、組織、予算、関係団体等) ..... | 友利副館長         |
| (2) 博物館保存施設と保存環境 .....               | 平安山明彦         |
| (3) 学芸業務の考え方と実際 .....                | 津波古学芸課長       |
| (4) 博物館資料の受入、分類、原簿記載実習 .....         | 赤嶺 敏          |
| (5) 考古資料の取扱い実習 .....                 | 仲座久宜          |
| (6) 歴史資料の取扱い実習 .....                 | 稻福恭子          |
| (7) 博物館の展示方法(自然) .....               | 田中 聰          |
| (8) 自然史資料取扱い実習 I .....               | 嵩原建二          |
| (9) 自然史資料取扱い実習 II .....              | "             |
| (10) 自然史資料(化石、鉱物等)の取扱い実習 .....       | 座霸 泰          |
| (11) 美術工芸資料(漆器、陶器)の取扱い実習 I .....     | 赤嶺 敏          |
| (12) 美術工芸資料(染織・絵画)の取扱い実習 II .....    | 平川信幸          |
| (13) 民俗資料の取扱い実習 .....                | 久場政彦          |
| (14) 博物館とフィールドワーク .....              | 稻福恭子          |
| (15) 展示活動の実際と教育普及補助業務 .....          | 喜久川 智子・松川聖子   |
| (16) 教育普及の考え方と実際 .....               | 上地教育普及課長・比嘉孝子 |
| (17) 教育普及活動の実践 I .....               | 玉城 善哲・比嘉孝子    |
| (18) 教育普及活動の実践 II .....              | 伊波一男          |
| (19) 博物館の展示方法について(人文) .....          | 仲座久宜          |
| (20) 企画展示の実際について .....               | 津波古学芸課長       |
| (21) 実習日誌のまとめ .....                  | "             |



展示活動の実際と教育普及補助業務のようす

## 2. 実習期間及び実習生

○第1回 平成17年5月16日（月）～27日（金）（15名）

No.	氏名	学部学科	学年
1	伊波美陽	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
2	伊禮藍子	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
3	大城丈子	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
4	渡慶次央	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
5	名嘉山美野	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
6	山田留美子	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
7	今村美香	成蹊大学文学部	4年次
8	具志堅梓	駿河台大学文化情報学部	4年次
9	安慶田悠子	桜美林大学国際学部	4年次
10	照屋航	京都造形芸術大学芸術学部	4年次
11	前田舟子	琉球大学法理学部	3年次
12	菅沼伸哉	琉球大学法文学部	4年次
13	小林海央	琉球大学法理学部	4年次
14	中村友美	琉球大学法理学部	4年次
15	駒井裕治	琉球大学農学部	4年次

○第2回 平成17年10月31日（月）～11月11日（金）（16名）

No.	実習生氏名	学部学科	学年
1	岩本さつき	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
2	安次富妃奈子	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
3	伊藝由希	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
4	大屋匡史	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
5	小嶺晶子	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
6	松本功次郎	沖縄国際大学総合文化学部	4年次
7	與儀理津子	大阪芸術大学芸術学部	4年次
8	前田直也	宮崎大学教育文化学部	4年次
9	阿波根玲子	酪農学園大学酪農学部	4年次
10	高塚千恵子	琉球大学法文学部	4年次
11	山田浩世	琉球大学法文学部	4年次
12	小幡明澄	琉球大学理学部	4年次
13	比嘉啓一郎	琉球大学理学部	4年次
14	栗山佳恵	琉球大学理学部	4年次
15	富村史江	沖縄県立芸術大学美術工芸学部	科目履修生
16	大塚京平	沖縄県立芸術大学美術工芸学部	科目履修生

## VII. 資料の収集・保存管理

### 1. 収蔵資料現在高

平成18年3月31日現在

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	589	25,658	8	1	26,256
	動物	1,161	18,581	511		20,253
	植物	15	4,558			4,573
美術工芸	絵画	79	541	2	4	626
	書跡	180	423	49	6	658
	彫刻	5	115	136	7	263
	陶磁器	431	3,310	465	538	4,744
	漆器	231	219	195	19	664
	染織	1,093	1,685	51	27	2,856
歴史資料	2,719	7,428	334	126	10,607	10,607
考古資料	32	3,548	2,820		6,400	6,400
民俗資料	552	4,027	1,072	137	5,788	5,788
総計	7,087	70,093	5,643	865	83,688	83,688

### 2. 平成17年度 新収蔵資料高

平成17年4月1日～平成18年3月31日

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質		1			1
	動物	52	628			680
	植物					0
美術工芸	絵画					0
	書跡					0
	彫刻					0
	陶磁器		10			10
	漆器		2			2
	染織		18			18
歴史資料		121			121	121
考古資料					0	0
民俗資料		80			80	80
総計	52	80	0	0	912	912

### 3. 平成17年度 新収蔵資料目録

【寄贈の部】

(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

分類	品名	数量	寄贈者	
自然史	地質 有孔虫琉球石灰岩	1	読谷村	読谷村
	動物 ヒガタコツブムシ(バラタイプ標本)	1	布村昇	富山県
	動物 貝類乾燥標本	627	仲嶺俊子	那霸市
美術工芸	漆器 朱漆花鳥獸唐草文箔絵丸盆	1		
	漆器 朱漆巴紋櫃	1	具志頭朝昭	那霸市
	染織 素地芭蕉着物	1	宮里幸子	那霸市
	染織 木綿紺地絹縞着物 他	3	澤嶽朋子	那霸市
	染織 麻紺地手縞着物	1	百名恒子	浦添市
	染織 紺地絣着物	1	久保好子	宜野湾市
	染織 生絹芭蕉茶色紺地絹緯絣着物 他	11	新屋敷ヨシ	アルゼンチン
	染織 芭蕉絹縞着物	1	新垣トヨ子	那霸市
	陶磁器 搖落し窓絵唐草獣文油甕	1	上江洲敏夫	うるま市
	陶磁器 焼締獅子草花貼付鉢	1	古謝瑞幸	那霸市
	陶磁器 緑釉掛分練り込み花生	1	国吉清子	那霸市
	陶磁器 赤絵湯呑 他	7	當間巧	うるま市
歴史	『早引伊呂波節用大全』(崎原當貴旧蔵)	1	永田尚子	那霸市
	棒形計算尺	6	仲宗根定榮	宮古島市
	琉球警察の制帽	1	奥村義之	大分県
	琉球切手初日カバー	103	ロイクリスチャンシールド	アメリカ
	ポストカード(石川ビーチ) 他	5	當間巧	うるま市
	新築石塙記(添継御門北之碑文)(拓本) 他	3	崎間麗進	那霸市
	『五事略』 他	2	岡本恵昭	宮古島市
民俗	墓碑	1		
	琉球人形 他	24		
	テープレコーダー 他	2	與儀喜省	那霸市
	ブータワヤー石(貝殻割り石)	1	末吉政春	粟国村
	石ウス 他	4	赤嶺ヨシ	那霸市
	マンガン掛け壺型厨子甕 他	5		
	黒釉庇付き厨子甕	1	国吉勇	那霸市
	マンガン掛け庇付き厨子甕	1	大嶺よし子	那霸市
	酒器(サキチューカー) 他	6	宮城春子	那霸市
	若狭町下駄(アシジヤ) 他	2	照屋保子	那霸市
	SPレコード盤 一括	30	森川弘治	長崎県
	ポータブル蓄音機 他	3	玉那霸勝一	西原町

※空欄は寄贈者の希望により掲載していません。

## 【購入の部】

分類	品名	数量	備考
自然史	動物 クロツラヘラサギ	1	
	自然 クロツラヘラサギ台座	1	
	動物 ヒルギハシリイワガニ	1	
	動物 リュウキュウアオヘビ	1	
	動物 ガラスヒバア	1	
	動物 キバウミニナ	1	
	動物 オキナワハクセンシオマネキ	5	
	動物 ヒメシオマネキ	5	
	動物 ミナミコメツキガニ	10	
	動物 ミナミテナガエビ	2	
	動物 コンジンテナガエビ	2	
	動物 シヨキタテナガエビ	2	
	動物 リュウキュウアユ	3	
	動物 オオコウモリ	1	
	動物 アカヒゲ	1	
	動物 シロアジサシ	1	
	動物 ツクシガモ	1	
	動物 ジュウイチ	1	
	動物 オカガニ	5	
	動物 オオオカガニ	1	
	動物 ヒメユリサワガニ	1	
	動物 オオサワガニ	1	
	動物 オキナワミナミサワガニ	1	
	動物 サカモトサワガニ	1	
	動物 アラモトサワガニ	1	
	動物 マルバネクワガタ・ノコギリクワガタ類標本	1	
	動物 ヒラタクワガタ類標本	1	

#### 4. 所蔵の指定文化財

国指定文化財（重要文化財）

平成18年3月31日現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書・典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	沖縄県立博物館	沖縄県
	混効驗集	2冊	"	"	"
工芸品	銅鐘(旧首里城正殿鐘)	1口	昭53. 6. 15	沖縄県立博物館	沖縄県
	梵鐘(旧円覚寺殿前鐘)	"	"	"	"
	梵鐘(旧円覚寺殿中鐘)	"	"	"	"
	梵鐘(旧円覚寺樓鐘)	"	"	"	"
歴史資料	明孝宗勅諭琉球國中山王尚真宛	1巻	平11. 6. 7	沖縄県立博物館	沖縄県

県指定文化財（有形文化財）

平成18年3月31日現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	1躯1枚	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
	世持橋勾欄羽目	1括	"	"	"
	旧円覚寺関係木彫資料	35点	平15. 7. 11	"	"
絵画	絹本着色花鳥図(殷元良筆)	1幅	昭54. 4. 9	沖縄県立博物館	沖縄県
	紙本着色雪中雉子の図(殷元良筆)	"	"	"	"
	紙本墨画竹の図(殷元良筆)	"	昭57. 3. 1	"	"
	紙本着色奉使琉球図(朱雀年筆)	1巻	"	"	"
	紙本着色冊封使行列図	"	平15. 7. 11	"	"
工芸品	三線江戸与那	1丁	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1本	"	"	"
	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	"	"	"
	黒塗堆錦山水絵大文庫	"	"	"	"
	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1口	"	"	"
	枝梅竹文赤絵椀	"	昭54. 9. 3	"	"
	線彫染付魚文皿	"	"	"	"
	色象嵌粟絵菊花皿	"	"	"	"
	象嵌色差面取砲瓶	"	"	"	"
	梵鐘(旧靈応寺鐘)	"	昭60. 6. 18	"	"
	梵鐘(旧普門禪寺鐘)	"	"	"	"
	梵鐘(旧天竜精舍鐘)	"	"	"	"
	銅鐘(旧天尊殿鐘)	"	"	"	"
	銅鐘(旧天妃宮鐘)	"	"	"	"
	銅鐘(旧一品権現鐘)	"	"	"	"
	梵鐘(旧大安禪寺鐘)	"	昭63. 1. 12	"	"
	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平2. 2. 6	"	"
	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1基	"	"	"
	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1具	"	"	"
	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	"	"	"	"
	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	"	"	"
	梵鐘(旧永福寺鐘)	1口	"	"	"
	三線盛嶋開鐘附胴	1丁	平6. 3. 15	"	"
典籍	評定所格護定本 中山世鑑	6冊	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
	評定所格護定本 中山世譜	19冊	"	"	"
書跡	程順則の書	1巻	昭42. 4. 11	沖縄県立博物館	沖縄県
	扁額「徳高」 鄭元偉書	1面	平元. 9. 29	"	"
	扁額「凌雲」 林麟焮書	1面	"	"	"
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31. 12. 14	沖縄県立博物館	沖縄県
	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1通	昭53. 4. 1	"	"
	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3. 20	"	"
歴史資料	銅鐘残欠(旧波上宮朝鮮鐘)	1口	昭60. 6. 18	沖縄県立博物館	沖縄県
	安国山樹花木記碑	1基	平元. 9. 29	"	"

## 5. 博物館新館移転・資料整理事業

(担当：仲座、嵩原、久場、稻福)

### 1. 事業概要

県立博物館は平成19年に那覇市おもろまちの新館へ移転し、同年秋に開館を予定している。この移転に先立ち、当館では収蔵資料の全体量・サイズ・資料状態を把握し、各分野の資料に適した状態で梱包・移転を進めるための資料整理作業を実施している。

本事業は、前身となる平成15～16年度に実施した、沖縄県緊急地域雇用創出特別事業「博物館新館移転資料整理事業」において取りまとめたデータを基礎として、平成17～19年度までの3ヶ年事業として立ち上げ、各分野で下記の賃金職員を割り当て、収蔵資料の整理作業を実施した。

#### ○整理作業員一覧

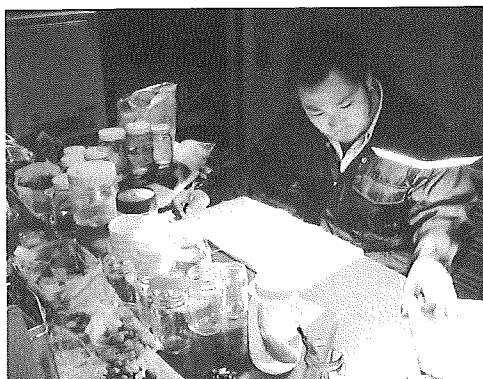
分 野	整 理 作 業 員 氏 名	
化石・岩石	大 城 磨 美	我那覇 悠 子
自 然 史	金 城 雅 代	前之園 唯 史
考 古	友 利 映 子	徳 村 笑里子
歴 史	比 嘉 陽 子	前 田 梨 沙
民 俗	末 吉 一 史	津 波 夏 子
美 術 工 芸	勝 連 涼 子	山 城 敦 子

### 2. 作業内容

平成17年度の整理作業は、既存の収蔵台帳や平成15～16年度でまとめられたデータをもとに、原資料との照合や現状の確認、法量計測、写真撮影等を行い、収蔵場所等の情報も含めたデータを作成し、データベースを構築した。それらに加え今年度は、梱包や移転業務を進めるため、各分野の資料ごとに詳細な仕様書作成にも着手した。未整理や未作成の分は、引き続き作業を行う予定である。これらをもとに、来年度以降は資料の梱包や移転業務を行い、博物館新館の開館に備える。

### 3. 今後の作業概要

平成18年度以降の主な業務は、資料整理作業員を各分野に配置し、委託業務による湧田窯移転や高倉の解体・移転作業、博物館内の整備・養生、梱包、移転、開梱、収蔵庫収納の業務を予定している。



作業の様子（自然史）



作業の様子（考古）

## 6. 博物館展示資料整備事業

(担当：嵩原、座霸、久場)

### 1. 事業の目的と経過

沖縄県立博物館は、沖縄陳列館（昭和20年開館）を前身として長い歴史を有し、現在8万件余の資料が収蔵されている。この約60年間に合併、移転さらに復帰による機構改革などにより、収蔵資料においては一部未整理のものが残されている。このことから当事業は、平成19年度に開館する新館への移転のために、未登録資料の整理登録、収蔵資料の整理・保管等収蔵資料の移動等に支障がないような移転準備作業の一環として、実施されているものである。

これまでに行われた事業では、収蔵されている厨子甕の実測整理や、収蔵古写真の複製と分類・整理等、また、委託業務として実施した、各分野資料の分類・整理作業にかなりの進捗が見られる。

また、マルチメディア時代に対応して、県民及び来館者のニーズに答えるためには、収蔵品台帳や原簿等による収蔵資料の管理・保管だけでなく、各種情報の公開を推進していくことが不可欠となってくる。このことから、利用に応じた収蔵資料一覧表の作成や収蔵資料の検索等が可能となるように、平成6年度に収蔵資料管理システムを構築し、収蔵品台帳等収蔵資料管理の電子化（コンピュータ化）を推進し、収蔵資料の基礎情報となる文字及び画像データの充実をはかるため、データ入力等の作業を継続的に行ってきました。これらの蓄積された情報を新館で使用される新しいシステムに移行させていくために、整理すると共に、内容の検討を行っている。

### 2. 事業内容

平成17年度は、新館の展示も控えているため、直接的な常設展示に供する展示物や画像のデジタルデータ等の展示資料の整備を目的にして事業を実施した。

本年度は新館自然史展示で「生物の移動」をテーマにした展示に関連して、クロツラヘラサギのカービングを製作した。本種は環境省によってランクされている絶滅の危惧される貴重種で、数少ない渡り鳥であるため、本種の剥製標本の製作は困難さがあることにより、カービング製作を行い常設展示に供するものである。なお、本事業は今後新館展示及び情報センター等で教育普及に供する画像データのデジタル化等展示資料等の整備を重点的に行う予定である。

## 7. 修理事業（住友財団助成事業）

(担当：平川信幸)

### 1. 事業目的

博物館資料は貴重な資料であり、その多くは同じ物を二度と収集することができないものばかりである。収集した資料を博物館では温湿度を管理し、万全の処置を講じているが中には不幸にも収集した時点で破損してしまっていたり、長い時間の経過に耐えきれず劣化してしまっているものもある。

本事業はこうした資料の状態を改善し、永く県民の重要な財産として継承し、将来的に展示の質の向上を図ることを目的とする。

### 2. 事業内容

資料名：円覚寺関係木彫資料（白象、獅子像）

修理内容：破損部分を別材で補い、剥離止めを行った。

修理業者：財団法人 日本美術院

（代表：西村杏太郎、京都府京都市下京区七条通高倉東入ル材木町476-1）

予算執行額：3,540,000円（内3,200,000円は住友財団の助成による）

今回、特記すべきこととして、本事業の予算の多くは住友財団の助成によることが挙げられる。

住友財団からの特別な配慮を受け、今後数年にわたり円覚寺関係木彫資料の修復を行う予定である。

なお、住友財団にはこの場を借りて深く感謝の意を記す。

## 8. 化石資料受入事業

(担当: 座覇 泰)

### 1. 事業の目的と経過

長谷川善和氏より寄贈を受けた沖縄県産化石資料の整理作業と、収蔵している岩石・化石資料の整理作業、また、県内各地から資料を収集し、将来の新館展示に向けて収蔵品の充実を図る事を目的として平成7年度より資料整理事業が行われてきた。

長谷川氏寄贈の化石資料が3万点を超える膨大な数であり、2万点余の整理は終えているものの、その後も追加資料が相次いだため未だ整理作業は継続中である。

長谷川コレクションのうち整理作業が終了したのは、宮古島ピンザアブ洞穴産のノロジカ化石、ハタネズミ化石、港川フィッシャー産トリ類化石、伊江島ゴヘズ洞穴産と久米島下地原洞穴産のシカ・キョン類化石であり、現在受入準備を進めているのは、宮古島ピンザアブ洞穴産ケナガネズミ化石、及び港川フィッシャー産イノシシ化石である。

### 2. これまでの事業の内容及び実績

#### ① 受入資料の整理作業

収蔵資料の台帳整理

未登録資料の分類・整理作業

化石資料の分類、部位同定・修復、登録作業

岩石・鉱物資料の同定、分類

登録後の資料の計測とナンバリング



長谷川コレクション収蔵状況

#### ② 受入準備

整理容器等の購入・発送

#### ③ 受入資料

長谷川コレクション ······ シカ類化石を中心とする約30,000点

ミヤコノロジカ復元骨格のレプリカ作成

下地原洞穴出土乳児人骨のレプリカ作成

港川フィッシャー産トリ化石 ······ 約 1,000点

宮古島産ほ乳類化石 ······ 約 1,000点

南北大東島産アホウドリ化石 ······ 約 200点

知念村ジープ洞シカ化石 ······ 約10,000点

下地原洞穴産シカ類化石 ······ 約 1,000点

その他県内各地の動物化石 ······ 約 1,000点

### 3. 平成17年度事業実績

#### ① 受入資料の整理作業

長谷川コレクション整理作業

港川フィッシャー産トリ化石整理：整理終了

久米島下地原洞シカ化石整理：整理終了

知念村ジープ洞シカ化石整理：整理終了

#### ② 資料の受入準備

宮古島ピンザアブ洞穴産ケナガネズミ化石

港川フィッシャー産イノシシ化石



シカ類角

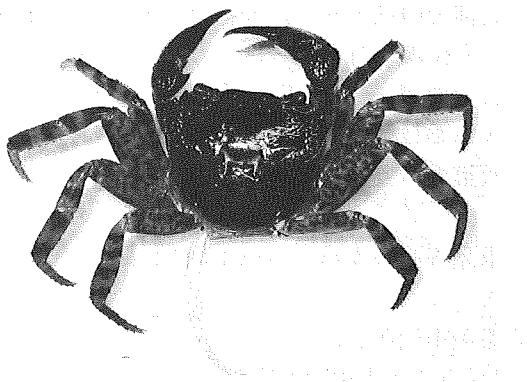
## 9. 資料収集関係事業

### 1. 資料収集事業

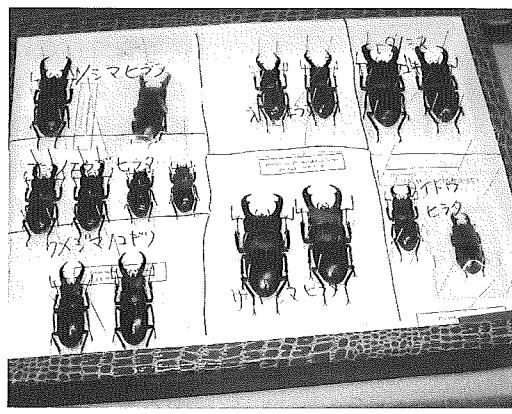
(担当: 嵩原、田中)

本事業は博物館資料の充実や展示活動のを図るために展開される事業で、本年度は新館のジオラマ展示や分類群別展示、種分化等の展示に供される自然史展示用標本の購入をおこなった。

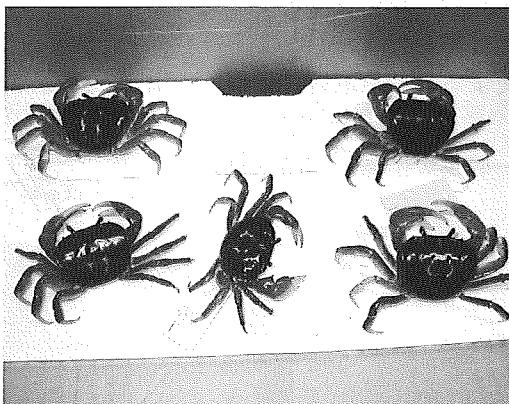
その内容は、哺乳類ではオオコウモリ1体、鳥類ではツクシガモやシロアジサシなど4体、爬虫類ではリュウキュウアオヘビ等2体、甲殻類ではヒルギハシリイワガニやミナミテナガエビ、ミナミコメツキガニ等41体、魚類ではリュウキュウアユの3体の合計51体の自然史資料を購入した。また、昆虫標本として、マルバネクワガタ類やノコギリクワガタ類、ヒラタクワガタ類の標本一式を購入し、収蔵資料や展示資料の充実を図ることができた。



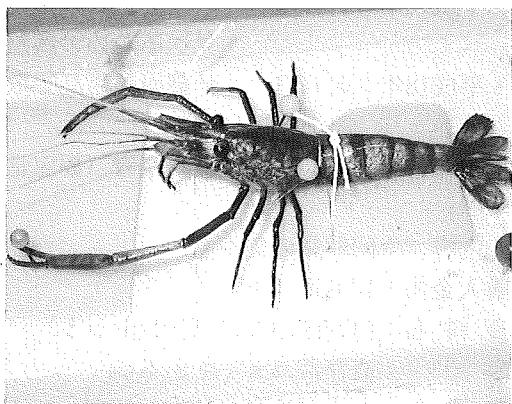
オキナワミナミサワガニ



クワガタ類



オカガニ



ショキタテナガエビ

## 2. 博物館新館資料収集事業

(担当：赤嶺 敏)

### 1. 事業概要

博物館資料は、沖縄の歴史・文化史を語るため後世に残すべき資料であるが、なかでも琉球王国時代の資料は文化的価値の高いものである。当館ではこのような資料を収集し常設展や企画展を活性化させることにより、県民の資質の向上と先人の知恵を学ぶ場を提供し、豊かな沖縄の創造を目指す。

沖縄県美術品等取得基金（以下「基金」という。）の管理運営要綱等の改正により、博物館において貴重な琉球資料を流失させず購入する予定である。沖縄の歴史文化の高さと豊かさをあらわす琉球資料は、当館にはほとんど収蔵されていないため、今後も基金による収集を継続し、展示会等の活動を活性化させるための事業である。

### 2. 事業の経過

- ・平成17年4月～7月：本年度購入する資料の調査を、大阪、京都、福岡及び沖縄で実施
- ・平成17年8月～10月：資料の選定と資料内容による沖縄県立博物館美術品等収集委員（以下「収集委員」という）の候補者の選定する。沖縄県美術品等取得基金の運用に係る規約等の調整を文化課と行う。
- ・平成17年11月28日：沖縄県美術品等取得基金管理要綱一部改正（教育長決裁）
- ・平成17年12月26日：沖縄県立博物館美術品等収集委員会設置要綱（教育長決裁）、沖縄県立博物館美術品等収集委員会運営要領（教育長決裁）
- ・平成18年1月12日：収集委員委嘱状交付  
第1回沖縄県立博物館美術品等収集委員会（以下「収集委員会」という。）開催する。
  - 会長：前田孝允（浦添美術館館長）
  - 副会長：上江洲敏夫（元うるま市史編纂室参事兼室長）
  - 委員：高橋隆博（関西大学博物館館長）
  - 委員：高良倉吉（琉球大学教授）
  - 委員：翁長自修（元琉球大学名誉教授） 当日は病欠
- ・平成18年2月3日：収集委員会審議結果報告（教育長決裁）
- ・平成18年2月：収集委員会の審議により意見の一致を見なかった美術品の収集を、今回見送るための調整を、文化課等と行う。
- ・平成18年3月14日：沖縄県美術品等取得基金による美術品取得計画調書の策定（総務部長決裁）
- ・平成18年3月16日：契約業者（観宝堂）より、収集美術品が納品される。

### 3. 内容（今回収集の美術品）

購入金額：13,650,000円

資料名：白密陀図変盆（10枚セット）

直径27.0cm×高2.5cm

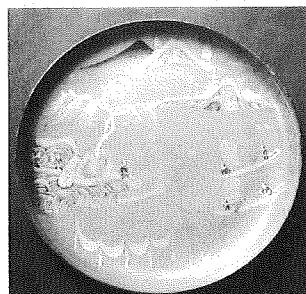
製作年：16世紀後半～17世紀初期

特徴：この盆は、表裏ともに地色を白色とし、10枚すべて異なる絵が描かれている。人物の動きや表情、岸辺・地面の影等を現しており、全面白色の白密陀は類例

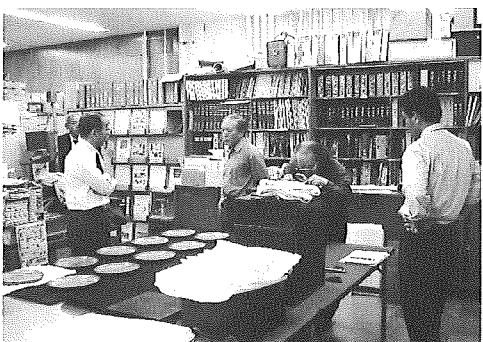
がなく、現在確認できる資料は本資料1点のみである。

白密陀図変盆

技法の説明：白密陀は、密陀絵という技法の一つで、桐油や荏油で漆を溶いて文様を描くもので、油絵の一種である。漆では現せない白色や中間色が出せるため色彩豊かな表現ができるため、彩漆の代用品として中国唐代より、日本では奈良時代や桃山・江戸初期にかけて流行した。



なお、琉球王国は、15世紀ごろ中国をはじめ、日本とも交易を行っており、本資料は北陸の旧家の蔵から発見されているため、交易品のひとつか、あるいは島津氏から各大名への進物であると考えられる。



収集委員会の様子 (H18・1・12)



美術品の納品の様子 (H18・3・16)

## 10. 資料貸出

展覧会名：常設展示

主 催：南部ワールド株式会社

会 場：おきなわワールド 王国歴史博物館

貸出期間：平成17年3月8日～平成18年2月28日

貸出資料：化石資料／化石ジカの骨格組立標本

展覧会名：常設展示

主 催：沖縄県埋蔵文化財センター

会 場：同 上

貸出期間：平成17年4月1日～平成18年3月31日

貸出資料：化石資料／伊江島ゴヘズ洞穴産リュウキュウジカ化石 12点

展覧会名：常設展示（総合展示 日本国文化のあけぼの）

主 催：国立歴史民俗博物館

会 場：同 上

貸出期間：平成17年4月1日～平成18年3月31日

貸出資料：考古資料／嘉手納貝塚出土荻堂式土器 2点

事 業 名：常設展示

主 催：沖縄県平和祈念資料館

会 場：同 上

貸出期間：平成17年4月1日～平成18年3月31日

貸出資料：民俗、歴史資料／ジュラルミン製品など 38件

展覧会名：浦添グスク・ようどれ館 オープン記念事業

主 催：浦添市教育委員会

会 場：浦添グスク・ようどれ館

貸出期間：平成17年4月25日～6月24日

貸出資料：歴史資料／ようどれ碑文

展覧会名：浦添グスク・ようどれ館 常設展示

主 催：浦添市教育委員会

会 場：浦添グスク・ようどれ館

貸出期間：平成17年6月29日～平成18年3月31日

貸出資料：歴史資料／ようどれ碑文

事業名：日本民藝館夏季学校沖縄開催展示事業

主 催：沖縄民藝協会

会 場：読谷村文化センター

貸出期間：平成17年6月7日～13日

貸出資料：歴史資料／鎌倉芳太郎写真パネル 他27件

展覧会名：企画展「首里王府とペリー」

主 催：(財)海洋博覧会記念公園管理財団

会 場：首里城公園南殿 特別展示室

貸出期間：平成17年7月4日～9月12日

貸出資料：歴史資料／梵鐘 旧大安禪寺鐘

展覧会名：特別企画展「琉球列島の自然」

主 催：富山市科学文化センター

会 場：富山市科学文化センター 2階特別展示室

貸出期間：平成17年7月6日～9月16日

貸出資料：化石・自然史資料／化石（ヤンバルクイナ）標本 他 90件

展覧会名：企画展「沖縄の蝶」

主 催：恩納村博物館

会 場：恩納村博物館 企画展示室・展示ホール

貸出期間：平成17年7月8日～9月5日

貸出資料：自然史資料／ユウレイセセリ（標本） 他 106点

展覧会名：沖縄の巨大生物展

主 催：南部ワールド株式会社

会 場：おきなわワールド ハブ博物公園内展示室

貸出期間：平成17年7月16日～8月31日

貸出資料：自然史資料／モダマ

展覧会名：特別展「琉球の美」

主 催：石橋財団石橋美術館

会 場：石橋財団石橋美術館 別館

貸出期間：平成17年8月2日～9月11日

貸出資料：美工資料／屋根獅子 他 34件

展覧会名：琉球新報社屋落成記念「日展作家7人+前田孝允」展

主 催：琉球新報社

会 場：同 上

貸出期間：平成17年9月30日～10月19日

貸出資料：美工資料／朱漆山水楼閣堆錦食籠 他 2件

展覧会名：企画展「世界遺産 琉球のグスク」

主 催：魚津市教育委員会

会 場：新川文化ホール 2階展示ホール

貸出期間：平成17年10月24日～11月17日

貸出資料：考古資料／中城グスク模型 他 2件

## 11. 燻蒸処理

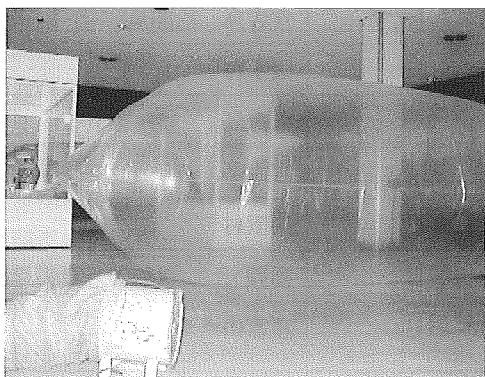
(担当: 平安山明彦)

当博物館には、国・県指定文化財及びこれまでに購入・寄贈並びに収集活動で得た文化財や資料が約8万3千点余りある。それらの資料は害虫その他の有害菌から防除し、資料の適切な保存を行うために、館内の燻蒸による害虫駆除を年1回行っている。

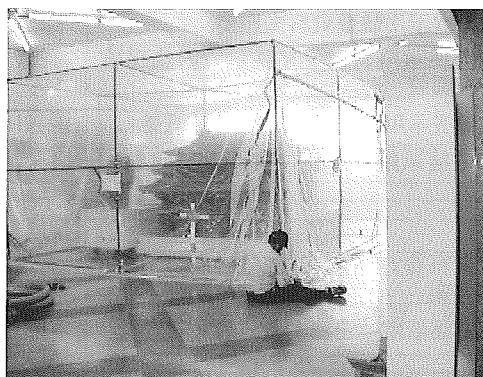
平成17年度は5月30日から6月5日までの期間を閉館して実施した。履行場所等は、地下・1階・2階の各収蔵庫のほかに各展示室、首里城正殿模型、扁額「徳高」をヨウ化メチルによって燻蒸し、その他の事務所・講堂等はピレスロイド系殺虫剤フェノトリンによって害虫駆除を行った。

### ◎燻蒸実施結果報告

場 所	内容積 (m <sup>3</sup> )	単位薬量 (g/m <sup>3</sup> )	投薬量 (Kg)	燻 蒸 種 類	投入時間 (h)	残留ガス濃度 (p p m)	供試虫
地下収蔵庫	821	30.0	24.6	密 閉	23	0	全 死
1 F 収蔵庫(大)	323	30.0	9.7	"	43	0	"
2 F 漆器収蔵庫	500	30.0	15.0	"	20	0	"
考古・歴史展示室	1,622	40.0	64.8	"	23	0	"
自然史展示室	613	40.0	24.5	"	23	0	"
美術工芸展示室	764	40.0	30.5	"	24	0	"
民俗展示室	1,177	40.0	47.0	"	24	0	"
扁額「徳高」	5	40.0	0.2	包込み	24	0	"
首里城模型	75	40.0	3.0	"	24	0	"



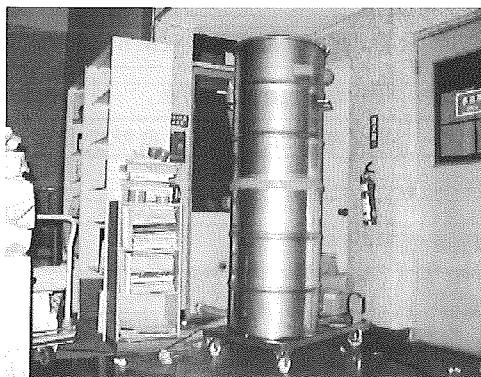
2階美術工芸展示室エアーバック設置中



首里城模型燻蒸準備中



民俗展示室及び美術工芸展示室投薬中



地下収蔵庫ガス回収中

## VIII. 新館展示調査等

県立博物館新館・美術館の建設は、平成17年11月9日に建設予定地・那覇市おもろまちにて起工式が行われ、平成18年4月現在、建物の姿が現れ、内装に取りかかっている。完成は12月の予定である。

現在、躯体工事とともに展示計画においても、展示監修委員と調整しながら詳細な部分の検討を行い、展示の内容が明確になっている。平成18年度も、展示内容の具体的な検討や配置等、また展示物の製作が実施されていく予定である。そのため、開館の平成19年度まで現地調査と展示の検討は繰り返し行われることとなる。

平成17年度は、307回に及ぶ会議や検討会等が行われた。各部門の監修委員会等の会議が73回開催され、総合展示室及び部門展示室の内容について協議された。その他、県文化課・文化施設建設室・博物館の三者による連絡会議を8回もち、連携を密にしながら新館への移転及び新館の展示、開館後の活用等を協議した。なかでも、各分野と展示工事業者の打合せや検討会等は220回以上も行われている。

新館の展示に関わる現地調査等は、全分野がそれぞれの展示構成にそって実施し、北は北海道から南は台湾までと広範囲にまたがっている。その回数は100回以上に及んだ。調査は、レプリカ製作のための原本照合、撮影、資料の採集、祭り等映像・音声の収録等多岐に渡っている。詳細は以下のとおりである。

### ◎平成17年度 新館展示資料調査一覧（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

#### ○津波古聰（学芸課長）

目的	期日	場所
展示資料調査	平成17年8月24日～27日	伊是名村
自然史展示用植物標本資料収集調査	平成17年12月19日～23日	和歌山県海南市

#### ○高原建二（充指導主事）：自然史

目的	期日	場所
自然史展示用映像資料撮影	平成17年7月18日～23日	宮古島、池間島
自然史展示用ジオラマ展示資料伐採協議事務調整	平成18年8月10日	国頭村
自然史展示用ジオラマ展示資料調査	平成18年8月20日	久高島
自然史展示用ジオラマ展示資料収集・調査	平成17年8月29日～9月3日	宮古島、石垣島、西表島
"	平成17年10月3日～6日	国頭村
新館資料保存（燻蒸及びIPM等）に関する調査	平成17年11月1日～3日	福岡
自然史展示用植物標本資料収集調査	平成17年12月19日～23日	和歌山県海南市
自然史展示用ジオラマ展示資料調査	平成17年12月26日	沖縄島南部一円
自然史展示用甲殻類資料収集調査	平成18年2月8日・16日～18日	国頭村
自然史展示用ジオラマ展示資料収集	平成18年2月10日	"
自然史展示用甲殻類資料収集調査	平成18年2月16日～18日	西表島

#### ○田中 聰（充指導主事）：自然史

目的	期日	場所
新館展示関連資料収集調査 (資料、ビデオ、写真、撮影)	平成17年4月25日、5月12日・20日・24日、6月3日～4日・15日、7月15日、8月9日・11日、10月5日、平成18年1月13日、3月2日	沖縄島北部
"	平成17年6月7日～11日	西表島
"	平成17年6月22日～27日	台湾
"	平成18年1月17日～19日	宮古島

○座覇 泰（指導主事）：自然史

目的	期日	場所
展示資料調査	平成17年5月12日～14日	東京、群馬
"	平成17年6月16日、11月5日	伊江村
展示資料調査・収集	平成17年9月5日、10月28日	読谷村
"	平成17年8月23日～25日	石垣島、西表島
"	平成17年12月15日、平成18年2月16日・27日、3月1日	名護市
"	平成18年1月17日	浦添市
展示資料調査	平成18年1月19日～20日、3月15日～16日	東京、神奈川

○仲座久宜（主任）：考古

目的	期日	場所
展示製作物の原資料確認調査	平成17年4月28日	浦添市
展示資料調査	平成17年7月6日～8日	石垣島、小浜島
"	平成17年7月13日	読谷村、宜野湾市
"	平成17年7月21日	沖縄国際大学
"	平成17年7月26日～27日	久米島
"	平成17年7月28日	うるま市
"	平成17年8月9日～12日	福岡、山口
展示関連資料調査	平成17年8月29日～31日	佐賀、熊本
"	平成17年9月16日	宜野座村
"	平成17年10月27日～28日	宮古島
複製製作資料の借用	平成17年11月1日	浦添市、宜野湾市
展示関連資料調査	平成17年11月4日	県立埋蔵文化財センター
複製製作作業現地立ち会い	平成17年11月7日～12日	北海道伊達市
複製製作資料の借用	平成17年11月15日	石垣島
複製製作作業現地立会い、複製製作資料の借用	平成17年12月4日～7日	山口、鹿児島、佐賀、熊本
展示関連資料調査	平成18年1月6日	北谷町
複製資料の調整	平成18年1月17日	宜野座村
複製製作資料の返却	平成18年1月18日～19日	鹿児島
複製製作資料の借用	平成18年1月24日	読谷村
複製製作資料の返却	平成18年1月27日	石垣市
複製関連資料調査	平成18年1月29日～31日	京都
複製製作資料の借用	平成18年2月3日	久米島
複製製作資料の返却及び展示関連資料調査	平成18年2月9日～12日	鹿児島、熊本、佐賀、大分
複製資料製作立ち会い及び複製製作資料の借用	平成18年2月19日～25日	福岡、京都

○赤嶺 敏（指導主事）：美術工芸

目的	期日	場所
展示資料調査	平成17年7月11日～14日、8月17日～19日	福岡、長崎
"	平成17年8月24日～27日	伊是名村
展示製作物の写真撮影立ち会い	平成17年10月24日～27日	福岡、長崎
展示製作物の色校正と展示資料調査	平成17年12月13日～16日	福岡、長崎
展示製作物の色校正	平成18年2月22日～24日	福岡、長崎

○平川信幸（学芸員）：美術工芸

目的	期日	場所
展示製作物の原資料確認調査	平成17年4月11日～13日	愛知
"	平成17年4月28日	浦添市
"	平成17年6月6日～8日	東京

目的	期日	場所
展示製作物の原資料確認調査	平成17年6月29日	沖縄県立図書館
展示資料調査	平成17年7月26日～27日	久米島
"	平成17年8月16日	名護市、今帰仁村
"	平成17年12月24日～27日	名瀬市・宇検村（奄美大島）
新館資料調査（複製の調整）	平成18年1月6日	名護市
展示製作物の色校正	平成18年2月22日～24日	福岡、長崎

○稻福恭子（学芸員）：歴史

目的	期日	場所
展示製作物の原資料確認調査	平成17年4月28日	浦添市
"	平成17年6月6日～10日	東京、山口、福岡
"	平成17年6月29日	沖縄県立図書館
"	平成17年7月11日～14日	福岡、長崎
"	平成17年7月29日	沖縄県公文書館、琉球大学付属図書館
"	平成17年8月21日～27日	名瀬市（奄美大島）、鹿児島
展示製作物の参考資料調査	平成17年11月16日	県議会事務局総務課
展示製作物の原資料確認調査	平成17年12月2日	本部町
展示製作物の写真撮影立ち会い	平成17年12月6日	沖縄県立図書館
"	平成17年12月12日～13日	琉球大学附属図書館
展示製作物の写真撮影立ち会いと原資料確認調査	平成17年12月18日～21日	鹿児島
"	平成18年1月15日～16日	多良間島
"	平成18年1月23日～26日	鹿児島、宮崎
展示製作物の参考資料調査と色校正	平成18年3月3日	沖縄県公文書館、沖縄県立図書館
展示製作物の写真撮影立ち会いと色校正	平成18年3月8日～9日	鹿児島

○久場政彦（充指導主事）：民俗

目的	期日	場所
展示資料調査	平成17年6月15日、10月21日・24日、12月13日、平成18年3月22日	糸満市
"	平成17年8月7日・31日、9月21日・28日、10月4日	国頭村
"	平成17年8月16日	名護市、今帰仁村
"	平成17年8月17日～19日	石垣島
"	平成17年8月21日～24日	名瀬市・宇検村（奄美大島）、鹿児島
"	平成17年9月10日～14日	多良間島
"	平成17年9月18日	浦添市
"	平成17年9月22日、平成18年3月19日	佐敷町
"	平成17年10月9日、12月14日、平成18年2月13日	那霸市
"	平成17年10月29日	伊江島
"	平成17年10月31日～11月4日	竹富島
"	平成17年11月10日～14日	西表島
"	平成17年12月1日～7日	与那国島
"	平成17年12月26日	沖縄本島北部一円
"	平成18年1月24日	糸満市、浦添市
"	平成18年2月3日	大宜味村
"	平成18年2月28日～3月3日	伊是名島
"	平成18年3月11日	沖縄市

○上地弘伸教育普及課長

目的	期日	場所
ふれあい体験室用のキット調査	平成17年8月3日～5日	東京、千葉

○玉城善哲（充指導主事）：教育普及

目的	期日	場所
ふれあい体験室用のキット調査	平成17年8月3日～5日	東京、千葉
展示資料調査	平成17年10月24日	糸満市

## IX. 刊行物

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
1	沖縄県立博物館紀要第31号	定期	1,000	A4 (79)	学芸員の調査研究報告書
2	沖縄県立博物館年報第38号	定期	1,000	A4 (92)	前年度の博物館活動の状況や概要
3	平成17年度新収蔵品展	定期	1,000	A4 (19)	前年度受け入れた資料を紹介する展示会図録
4	平成17年度博物館体験学習教室	定期	1,000	A4 (42)	平成17年度教育普及事業として実施した児童生徒を対象とした体験教室の記録
5	平成17年度ボランティア活動	定期	1,000	A4 (34)	平成17年度ボランティアの活動内容報告
6	博物館だより No.52	定期	2,500	A4 (4)	当館の行事等を紹介する広報誌 No.52は博物館休館と新館移転の特集号とした。
7	年間行事案内リーフレット	定期	8,000	変形A4	平成17年度の年間行事案内
8	年間ポスター	定期	1,000	B2変形	平成17年度の年間行事案内
9	日本文リーフレット	定期	30,000	変形A4	当館の展示案内
10	英文リーフレット	定期	1,000	変形A4	当館の展示案内
11	第30回移動博物館リーフレット	定期	1,000	A4 (12)	渡嘉敷村で開催された移動博物館の展示資料紹介

## X. その他の活動

### 1. 沖縄県博物館協会

(担当：座霸、田中)

平成17年度沖縄県博物館協会の理事会・総会・春期研修会は、6月2日（木）と3日（金）の2日間にわたり、南風原町立南風原文化センターの担当で同館にて開催された。

理事会は午後1時より執り行われ、平成16年度事業及び決算報告、平成17年度事業計画案及び予算案についての審議、沖博協顕彰者の確認、平成17・18年度の新役員、そして今年度以降の会長館の交代について等の総会資料の確認を行った。理事会終了後、会場を作成し83名の参加のもと平成17年度総会・春期研修会が開催された。総会においては事務局より提案した議題が、いくつかの質問の後承認されて終了した。会長館の交代については、平成16年6月3日（火）に浦添市役所9階講堂にて開催された総会において了承された以下の事項が確認された。

- ① 平成17年度から3期の会長・事務局は平成17・18年度南風原町立南風原文化センター、平成19・20年度読谷村立歴史民俗資料館、平成21・22年度県立博物館とする。
- ② 今年度より幹事会は新たなメンバーとして沖縄県平和祈念資料館、沖縄市立郷土博物館、おきなわワールドを加えて強化する。

休憩後研修会が行われ、「新年度事業と予算」と題して読谷村立歴史民俗資料館の長浜真勇館長、平良市総合博物館の砂川玄正館長、今帰仁村歴史文化センターの仲原弘哲館長よりその概要が報告され、質疑応答の後、「新南風原文化センター建設計画概要」が大城和喜館長より報告された。

その後、視察研修として南風原文化センター職員の案内でかすり会館、南風原陸軍病院壕跡等を徒歩で巡った。視察研修の一環が戻るのを待って、同館にて情報交換会が行われた。南風原文化センターの進行のもとで各館園の紹介を行い、時間までお互いの情報を交換した。

翌日3日（金）の現地研修会は、午前10時より「伝統行事の記録を考える」と題して、南風原文化センターにて「南風原町津嘉山の大綱引き」等のVTR上映会が行われ、質疑応答の午後12時に閉会した。

秋期の研修会は9月8日（木）・9日（金）の2日間、平良市総合博物館の研修室にて開催された。今回、市町村合併に伴う同博物館の名称変更を目前に控えて、現行の館名による最後の研修会となった。

当日は、台風接近による天候悪化が懸念される中、地元の関係者を含む40名余りが参加して研修会が始まり、岡本恵昭氏（平良市総合博物館協議会役員）が「宮古の節祭りと池間島のミャークヅツ」と題して、宮古の民俗行事に関する講演を行った。

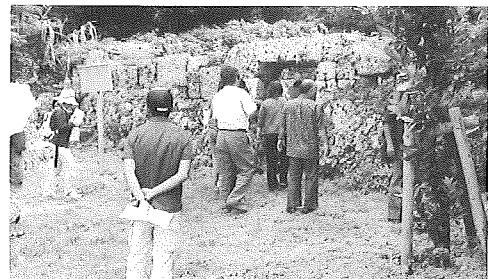
講演終了後、参加者は主催館が準備したバスに分乗して今回の現地研修の目的地である池間島へと移動し、同島の民俗行事「池間島のミャークヅツ」の視察・参加を行った。復路の車中では、平良市総合博物館の砂川玄正館長による丁寧な解説と行事料理が振る舞われ、有意義な現地研修会となつた。

現地研修会の後、市内のホテルで情報交換会が行われ、古参の会員による挨拶や各館の情報交換等が活発に行われた。

翌日9日（金）は、午前10時から希望者を対象に「歴史文化ロード（平良綾道）」の散策が行われた。バスと徒歩で移動しながら、砂川館長の解説を交えて平良市内の名所・旧蹟を巡見し、正午ごろ終了した。



現地研修風景



平良綾道散策

## 2. 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加、協力し、さらに会員相互の教養を高め、親睦をはかる」ことを目的として昭和55年1月に発足してから25年目を迎えた。本年度の会員の内訳は、普通会員399名、準会員1名、賛助会員7社、家族会員79家族（162名）となっており、近年は家族ぐるみで博物館友の会と関わりを持つ人が増えてきている。また、友の会の活動も年間を通しての事業に加えサークルなどの活動も活発化し、充実してきている。平成17年度の活動内容と事業内容は次のとおりであった。

### 1. 事業

(1) グスクめぐり：平成17年6月19日（土）

「浦添グスク・ようどれ」の見学会を会員の仲間孝蔵氏の解説で実施した。

(参加者：25名)

(2) 県外研修：平成17年7月12日（火）～14日（木）

「琵琶湖博物館と愛・地球博」を副会長伊波悦子氏の解説で実施した。

(参加者：21名)

(3) 自然観察会：平成17年7月30日（土）

「金剛石林山の観察会」を副会長神谷厚昭氏の解説で実施した。

(参加者：44名)

(4) 史跡めぐり：平成17年8月27日（土）

「古宇利島」の研修を今帰仁村歴史文化センター仲原弘哲館長の解説で実施した。

(参加者：44名)

(5) 海外研修：平成17年9月13日（火）～9月21日（水）

「エルミタージュ美術館とロシア2大都市サンクトペテルブルク・モスクワ」の研修を会長の星雅彦氏の解説で実施した。

(参加者：23名)

(6) 離島研修：平成17年10月7日（金）～9日（日）、10月17日（月）～19日（水）

「与那国島」の研修2回を副会長神谷厚昭氏の解説で実施した。

(参加者：22名・13名)

(7) グスクめぐり：平成17年11月20日（日）

「南部のグスク」を前沖縄県立博物館館長の當眞嗣一氏の解説で実施した。

(参加者：44名)

- (8) 文化キャラバン隊:平成17年11月25日（金）～26日（土）  
渡嘉敷島で開催された移動博物館の文化キャラバン隊として参加し、受付や解説の補佐を行った。  
(参加者：8名)
- (9) 首里周辺めぐり：平成18年2月4日（土）  
「末吉宮参詣道及び周辺巡り」をテーマに県教育庁文化課文化財係係長の萩尾俊章氏を講師に迎え実施した。  
(参加者：27名)
- (10) 展示解説会：平成18年2月25日（土）  
「柳宗悦の心と眼 柳宗悦の民藝と巨匠たち展」を平川信幸学芸員のわかり易い解説で行った。  
(参加者：16名)
- (11) 企画展「わたしの宝もの展」  
友の会の創立25周年と沖縄県立博物館の新館移転を記念し、友の会のあゆみ及び会員の所有するコレクションを展示した。
- (12) 講演会  
企画展「わたしの宝のも展」の関連事業として「コレクションの楽しみ」をテーマに、沖縄民藝協会会長の宮城篤正氏を講師に迎え実施した。  
(参加者：102名)

## 2. 会員への情報提供事業

- ・博物館事業及び催し物の案内状発送
- ・友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送
- ・博物館発行印刷物の復刻販売サービス

## 3. 会誌『博友』19号、会報（赤い瓦）26号、通信「チャービラ」（毎月）の発行

## 4. ミュージアムショップの経営

- ・出版物、ミニ絵巻、絵はがき、委託図書、切手、飲み物等の販売サービス

## 5. その他

- ・サークル活動：グスクサークル、民俗サークル、家譜サークル、辺境＆市場サークル
- ・総会及び懇親会：平成17年5月23日（月）、参加者：68人
- ・新年会：平成18年1月23日（月）、参加者：69人



離島研修（与那国島）



友の会メンバー（新年会にて）

## X I. 関係法規抄録

○博物館法 昭和26年12月1日 法律第285号  
〔最終改正〕 平成13年7月11日 法律第105号

### 第1章 総 則

#### (この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関する必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

#### (定 義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治29年法律第89号）第34条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第34条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

#### (博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
  - (2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
  - (3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
  - (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
  - (5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
  - (6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
  - (7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
  - (8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
  - (9) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
  - (10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
- 2 博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。
- (館長、学芸員その他の職員)
- 第4条 博物館に、館長を置く。
- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
  - 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
  - 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。

6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

(1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目的単位を修得したもの

(2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目的単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあつたもの

(3) 文部科学省大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者

2 前項第2号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部科学省大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第6条 学校教育法(昭和22年法律第26号)第56条第1項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部科学大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

(1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所

(2) 名称

(3) 所在地

2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。

(1) 公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

(1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。

(2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。

(3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。

(4) 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事實を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県教育委員会の規則で定める。

第17条 削除

### 第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情がある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

## 第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- (1) 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。
- (2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- (3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- (4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

## 第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関する、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて、必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

## 第5章 雜則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国又は独立行政法人が設置する施設にあつては文部科学大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

### 附 則

(施行期日)

1 この法律は、公布の日から起算して3箇月を経過した日（昭和27年3月1日）から施行する。

(経過規定)

2 第6条に規定する者には、旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和14年勅令第254号）の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部科学省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令 昭和27年3月20日 政令第47号

〔最近改正〕 昭和34年4月30日 政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法（以下「法」という。）第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

1 日本赤十字社

2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費

2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附 則

この政令は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例（抄） 昭和47年5月15日 条例第24号

〔最終改正〕平成17年10月26日 条例第51号

（趣 旨）

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条、

図書館法（昭和25年法律第118号）第10条及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

（博物館）

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

（博物館協議会）

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則（抄） 昭和47年5月15日 教育委員会規則第2号

〔最終改正〕平成18年3月31日 教育委員会規則第3号

（趣 旨）

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館）

第4条 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の課を置く。

庶務課・学芸課・教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

- (1) 予算、決算その他会計事務に関する事。
- (2) 公印の管守に関する事。
- (3) 施設設備の管理に関する事。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関する事。
- (5) 博物館協議会に関する事。
- (6) 他課の所掌に属さない事務に関する事。

学芸課

- (1) 博物館資料の収集、保管及び展示に関する事。
- (2) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関する事。
- (3) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関する事。

(4) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

#### 教育普及課

(1) 博物館資料の利用相談に関すること。

(2) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。

(3) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

#### ○沖縄県立博物館の管理に関する規則

昭和47年5月15日 教育委員会規則第13号

[最終改正] 平成12年3月30日 教育委員会規則第17号

##### (趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

##### (管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

##### (諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならぬ。

##### (施設設備の消失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は消失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

##### (警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

##### (当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

##### (職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

##### (文書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

##### (開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

##### (休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 定期休館日 月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日（子どもの日及び文化の日を除く。）

(3) 慰霊の日 6月23日

(4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで

(5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで

(6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最

も近い休館日でない日をもつて、これに替えるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、館長が特に必要と認めた場合は、開館することができる。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館料の免除)

第16条の2 沖縄県立教育機関使用徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）第4条の規定により入館料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

- (1) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合
- (2) 県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週5日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合
- (3) 前各号に定めるもののほか、館長が特に必要と認めた場合

2 前項第1号又は第3号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書（第4号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

(入館の禁止等)

第17条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者
- (2) 伝染病患者及びめいていき者と認められる者
- (3) その他館長が適当でないと認められる者

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下、同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第5号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合には博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適切であると認められるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(現状回復の義務)

## 第1号様式（第11条関係）

## 第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書	年月日
沖縄県立博物館長 殿	申込者 住 所 氏 名
記	
種 別	1 作者名
作品名	2 作品名
製作年月日	3 製作年月日
附屬品	4 製作年月日
資料の所在地	5 附属品
時価見積額	6 資料の所在地
寄贈の理由	7 寄託期間

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、  
受領されるよう申込みます。

受 諸 書	年月日
記	
上記の品寄贈を受領いたします。ただし、寄贈を受けた資料 については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖 縄県教育委員会規則第13号）第11号第3項の規定により返却さ れません。	
平成 年 月 日	沖縄県立博物館長 団

博物館資料寄託申請書	年月日
沖縄県立博物館長 殿	申請者 住 所 氏 名
記	
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、 受託くださるよう申込みます。	
種 別	1 種 別
作者名	2 作者名
作品名	3 作品名
製作年月日	4 製作年月日
附属品	5 附属品
資料の所在地	6 資料の所在地
平成 年 月 日	平成 年 月 日
平成 年 月 日	平成 年 月 日
平成 年 月 日	平成 年 月 日

第3号様式（第11条関係）

博物館資料受託承認書

平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館

印

平成 年 月 日付け申請のあつた博物館資料の  
寄託については、下記により受託します。

記

1 種別

2 作者名

3 作品名

4 製作年月日

5 附属品

6 受託期間 平成 年 月 日から 年 月 日まで

7 備考

第4号様式（第16条の2関係）

入館料免除申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者住所
氏名
電話

下記の理由により博物館入館料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第37号）第16条の2第2項の規定に基づき申請します。

記

1 入館者 団体名

引率者名

2 入館者数

3 入館日時

4 申請理由

年	月	日	（曜日）	時～時
---	---	---	------	-----

承認証

年 月 日付け申請の博物館の入館料免除の件、  
申請どおり承認します。  
年 月 日 沖縄県立博物館長

印

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び附属設備を現状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し、又は免除することができる。

(報 告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10月までに、教育長に提出しなければならない。

(補 則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則 (平成12年3月30日教育委員会規則第17号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

○沖縄県立博物館協議会規則 昭和47年10月2日 教育委員会規則第29号

(趣 旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組 織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委 員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任 期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会 議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行うために要する費用の弁償を受けることができる。

(庶 務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑 則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

## ○沖縄県立教育機関使用料徴収条例

[最終改正]

昭和47年5月15日 条例第37号

平成17年3月31日 条例第28号

### (趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

### (使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1から別表第3までに定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

### (使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

### (使用料の減免)

第4条 教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減額し、又は免除することができる。

### (使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

### (過料)

第6条 詐欺その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者に対しては、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額（当該5倍に相当する金額が5万円を超えないときは、5万円とする。）以下の過料に処する。

### (教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

## 附 則

この条例は、公布の日から施行する。

### 附 則（平成16年3月25日条例第23号）

1 この条例は、平成16年7月1日から施行する。

2 改正後の沖縄県立教育機関使用料徴収条例の規定は、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）以後に受ける使用の許可に係る使用料について適用し、施行日の前日までに受けた使用の許可に係る使用料については、なお従前の例による。

## 別表第1（博物館の入館料）（第2条関係）

使 用 者	入 館 料
一 般	210円
大学生及び高校	100円
中学生及び小学	50円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

## ○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領

平成14年3月14日教育長決裁

### (目的)

第1条 この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料（以下「資料」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

## (定 義)

第2条 この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。

- (1) 展示会等における原資料等の借用
- (2) 同資料の撮影
- (3) 原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用
- (4) 撮影等による複製品の製作
- (5) 原資料等の閲覧
- (6) 教育普及資料の借用

## (許可の基準)

第3条 博物館長（以下「館長」という。）は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。

- (1) 資料の保存に悪影響が生じると認められる場合
- (2) 好ましくない用途に供されると認められる場合
- (3) 館の事務処理に支障が生じると認められる場合
- (4) 資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得ていない場合
- (5) 過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合
- (6) その他、許可することが適当でないと認められる場合

## (許可申請の手続き)

第4条 資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書（以下「申請書」という。）に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始14日前までに、申請しなければならない。

- (1) 原資料等の借用（第1号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2号様式）
- (3) 複製品の製作（第3号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第4号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第5号様式）

## (審査及び決定)

第5条 前条の規定による申請があった場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可するかどうかを決定しなければならない。

- (1) 事業の趣旨及び内容
- (2) 事業の主体者
- (3) 事業計画
- (4) その他必要な事項

## (許可書の交付)

第6条 資料利用を許可する決定を行ったときは、次の各号により当該申請者に対し別表のとおりの条件を不した資料利用許可書（以下「許可書」という。）を交付するものとする。ただし、館長が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。

- (1) 原資料等の借用（第1-1号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2-1号様式）
- (3) 複製品の製作（第3-1号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第4-1号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第5-1号様式）

2 館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

## 附 則

この要領は、平成14年4月1日から実施する。

○別表（第6条関係）各申請の資料利用の許可条件

利用申請の内容 (各申請様式)	共通条件	資料利用の許可条件
原資料等の借用 (第1号様式)	<p>①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。</p> <p>②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。</p> <p>③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。</p> <p>④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。</p> <p>⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。</p>	<p>①資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。</p> <p>②資料の運搬その他の費用を要する場合は、申請者が負担すること。</p> <p>③貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。</p> <p>④借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。</p> <p>⑤撮影は原則として休館日の午後に行うこと。</p> <p>⑥製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。</p> <p>⑦制作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で自由に使うことができる。</p> <p>⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。</p> <p>⑨郵送費は申請者が負担すること。</p> <p>⑩資料利用によりつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p> <p>⑪撮影は原則として休館日の午後に行うこと。</p> <p>⑫撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。</p> <p>⑬製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。</p> <p>⑭製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。</p> <p>⑮写真原板の貸与期間は3週間以内とする。</p> <p>⑯資料利用によりつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p> <p>⑰展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。</p> <p>⑱閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。</p> <p>⑲閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。</p> <p>⑳貸与期間は1週間以内とする。</p> <p>㉑資料の運搬その他の費用を要する場合は、申請者が負担すること。</p> <p>㉒資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。</p> <p>㉓万ーの事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。</p>
複製品の製作 (第3号様式)		
原資料等の閲覧 (第4号様式)		
教育普及資料の借用 (第5号様式)		

**資料利用申請書**  
(原資料等の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名: 印

団体名:

(担当者氏名 )

住所 (〒 )

TEL: fax:

下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いします。

記

事業名			
借用希望期間	平成 年 月 日 ~ 月 日		
目的			
展示等場所			
資料名	員数	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

## ※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用許可書  
(原資料等の借用)

博物 第 号  
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の館外利用については、下記により許可します。

記

事業名		
借用期間	平成 年 月 日 ~ 月 日	
目的		
展示等場所		
資料名	員数	備考
1		
2		
3		
4		
5		

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

**資料利用申請書**  
(写真撮影、原板・印画の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名: (印)

団体名:

(担当者氏名 )

住所(〒 )

TEL: fax:

下記により資料の写真撮影、原板・印画の利用を許可くださるようお願いします。

## 記

利用区分 (○で囲む)		1 写真原板使用 2 撮 影 3 掲 載			
希望日時・期間		平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時			
目 的	事 項	名 称	部 数	製作予定日	備 考
		出版物 映 画 テレビ ビデオ DVD C D その他			
資 料 名		仕 様	数 量	備 考	
1					
2					
3					
4					
5					

## ※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第2-1号様式(第6条関係)

資料利用許可書  
(写真撮影、原板・印画の借用)

博物 第 号  
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)		1写真原板使用 2撮影 3掲載			
日時・期間		平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時			
目的	事項	名 称	部 数	製作予定日	備 考
	出版物				
	映 画				
	テレビ				
	ビデオ				
	DVD				
	C D				
資料名		仕 様	数 量	備 考	
1					
2					
3					
4					
5					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

**資料利用申請書**  
(複製品の製作)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名： (印)

団体名：

(担当者氏名 )

住所(〒 )

TEL: fax:

下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮影				
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時				
目的					
製作仕様					
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	点	販売価格	円
資料名		仕様	数量	備考	
1					
2					
3					
4					
5					

## ※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

**資料利用許可書**  
(複製品の製作)

博物 第 号  
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった特別利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮影				
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時				
目的					
製作仕様					
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	点	販売価格	円
資料名		仕様	数量	備考	
1					
2					
3					
4					
5					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

**資料利用申請書**  
(原資料等の閲覧)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者

代表者名:

印

団体名:

(担当者氏名 )

住所(〒 )

TEL: fax:

下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いします。

記

目的			
閲覧希望日時	平成 年 月 日 時 ~ 時	閲覧人員	
資料名	員数	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

## ※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

**資料利用許可書**  
(原資料等の閲覧)

博物 第 号  
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の閲覧については、下記により許可します。

記

目的			
閲覧希望日時	平成 年 月 日 時 ~ 時	閲覧人員	
担当学芸員			
資料名	員数	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

**※許可条件**

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

**資料利用申請書**  
(教育普及資料の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名: 印

団体名:

(担当者氏名 )

住所 (〒 )

TEL: fax:

下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)	1 学校(学年・学級)行事 2 地域・団体行事 3 その他		
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 ( 時 ) ~ ( 時 )		
行事名			参加人員
目的			
資料名	数量	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

## ※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥貸与期間は1週間以内とする。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
- ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

**資料利用許可書**  
(教育普及資料の借用)

博物 第 号  
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の閲覧については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)		1 学校(学年・学級)行事 2 地域・団体行事 3 その他	
希望日時・期間		平成 年 月 日 ~ 月 日 ( 時 ) ( 時 )	
行 事 名		参加人員	
目的	資 料 名		数 量
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥貸与期間は1週間以内とする。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
- ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

## 沖縄県立博物館年報 No.39

平成18年（2006）9月7日

編集・発行：沖縄県立博物館

住 所：〒903-0823 那覇市首里大中町1丁目1番地

TEL 098-884-2243

FAX 098-886-4353

ホームページ：<http://www-edu.pref.okinawa.jp/kensetsu/index.html>

(沖縄県立博物館新館・美術館ホームページ)

印 刷：株式会社 国際印刷

住 所：〒901-0147 那覇市宮城1丁目13番9号

TEL 098-857-3385

○この刊行物は、204,750円の経費により1,000部作成しました。

○再生紙を100%使用しています。

